

大洗研究所廃棄物管理事業変更許可申請における 審査会合の質問回答



令和4年8月12日

国立研究開発法人日本原子力研究開発機構
高速炉・新型炉研究開発部門 大洗研究所
環境保全部

Sector of Fast Reactor and Advanced Reactor Research and Development

核燃料施設等の新規規制基準適合性に係る審査会合(第444回)(令和4年6月6日)において、日本原子力研究開発機構大洗研究所廃棄物管理施設に係る事業変更許可申請について概要説明を行い、3件の質問事項を得た。

質問に対する回答を次頁以降に示す。

【廃棄物管理事業変更許可の主な変更概要】

- ① 外部事象に対する設計方針の変更
- ② 有機廃液一時格納庫の使用の停止、 $\beta \cdot \gamma$ 固体処理棟Ⅲの有機溶媒貯槽を新たに液体廃棄物の受入れ施設に変更
- ③ 廃液処理棟の化学処理装置等の使用の停止
- ④ 共用設備に係る記載の見直し及び移動モニタリング設備の削除
- ⑤ 固体廃棄物減容処理施設用の施設外への通信連絡設備の明確化

<ご質問1>

維持すべき安全機能の適正化について、適正化する外部事象を明確にすること。
また、外部事象毎に必要な代替設備・機器を示すこと。

<回答1>本申請の考え方

適正化する外部事象は、外部からの衝撃に対する想定事象の全てである。
この理由は、外部事象のうち竜巻については、代替設備・機器を用いることで安全性が損なわれない設計としていること、また、竜巻、火山による影響、生物学的影響及び森林火災並びに飛来物(航空機落下等)、近隣工場等の火災及び毒ガスについては、施設の運転(廃棄物の処理、換気空調)の停止によって、安全性が損なわれない設計としていることから、全ての事象が対象である。(参考資料1参照)



審査を踏まえた見直し方針

本文の設計方針については、既許可における安全性が損なわれない設計としている設計方針のままとし、添付資料五(安全設計)において、適正化する外部事象を竜巻のみとする。

本申請書

見直し方針

<外部事象に対する設計方針>

廃棄物管理施設の重要な機能は、遮蔽機能及び閉じ込め機能であり、また、火災による影響は、遮蔽機能及び閉じ込め機能を有する設備に損傷を与える可能性がある。

維持すべき安全機能は、遮蔽機能、閉じ込め機能及び火災等による損傷の防止機能(遠隔操作により消火を行うガス消火設備)である。

外部からの衝撃により、他の安全機能を喪失した際には、人員が駆けつけて代替設備・機器を用いて安全機能を確保する設計とする。

全ての外部事象に適用



設計方針の適用範囲

<本文>

廃棄物管理施設は、外部からの衝撃の影響により安全性を損なうことのない設計とする

<添付資料五(安全設計)第一条(定義)>

<添付資料五(安全設計)第八条(外部からの衝撃による損傷の防止)>

全ての外部事象

<外部事象に対する設計方針>

竜巻事象に適用



設計方針の適用範囲

<添付資料五(安全設計)第八条(外部からの衝撃による損傷の防止)>

竜巻事象

(具体的な見直し方針は次ページ及び参考資料2参照)

既許可 (原規規発第1808221号 平成30年8月22日)	本申請書 (令04原機(環保)010 令和4年4月28日)	見直し方針
<p><本文> 4 廃棄物管理施設の位置、構造及び設備並びに廃棄の方法 A 廃棄物管理施設の位置、構造及び設備 (略) (6) その他の主要な構造 廃棄物管理施設は、以下の方針のもとに安全設計を行う。 a) 廃棄物管理施設は、<u>敷地で予想される台風、積雪、火山、森林火災等の自然現象及び飛来物その他の外部衝撃の影響により安全性を損なうことのない設計とする。</u></p>	<p><本文> 4 廃棄物管理施設の位置、構造及び設備並びに廃棄の方法 A 廃棄物管理施設の位置、構造及び設備 (略) (6) その他の主要な構造 廃棄物管理施設は、以下の方針のもとに安全設計を行う。 a) 廃棄物管理施設は、<u>外部からの衝撃（想定される自然現象及び想定される廃棄物管理施設の安全性を損なわせる原因となるおそれがある事象であって人為によるもの（故意によるものを除く。））の影響により安全性を損なうことのない設計とする。外部からの衝撃により安全機能を喪失した際には、人員が駆けつけて、代替設備・機器を用いて機能を維持する。ただし、代替設備・機器を用いて機能を維持することができない設備・機器は、安全機能を損なうことのない設計とする。なお、遮蔽機能及び閉じ込め機能を有する設備並びに遠隔操作により消火を行うガス消火設備については、代替設備・機器を用いて速やかな機能維持ができないことから、公衆被ばくのリスクに鑑み、安全性を損なうことのない設計とする。</u></p>	<p><本文> 4 廃棄物管理施設の位置、構造及び設備並びに廃棄の方法 A 廃棄物管理施設の位置、構造及び設備 (略) (6) その他の主要な構造 廃棄物管理施設は、以下の方針のもとに安全設計を行う。 a) 廃棄物管理施設は、<u>外部からの衝撃（想定される自然現象及び想定される廃棄物管理施設の安全性を損なわせる原因となるおそれがある事象であって人為によるもの（故意によるものを除く。））の影響により安全性を損なうことのない設計とする。</u></p>
<p><添付資料五（安全設計） 第八条> 適合のための設計方針 (3) 竜巻 (略) その他の安全機能については、地震後の施設の点検と同様、竜巻襲来後には施設を点検することや、安全機能が喪失した設備については、あらかじめ配置している代替設備・機器（通信連絡設備においては無線連絡設備、放射線管理設備についてはサーベイメータ、消火設備については消火器や消火栓設備、火災検知設備）により、人員が現場に駆けつけて対応できることを含め、必要な安全機能を<u>損なわない</u>設計とする。 <u>また、藤田スケール（以下Fとする。）1クラスの最大風速である49m/sにおいては、施設の構造健全性を維持し、全ての安全機能が損なわれない設計とする。</u></p>	<p><添付資料五（安全設計） 第八条> 適合のための設計方針 (3) 竜巻 (略) その他の安全機能については、地震後の施設の点検と同様、竜巻襲来後には施設を点検することや、安全機能が喪失した設備については、あらかじめ配置している代替設備・機器（通信連絡設備においては無線連絡設備、放射線管理設備についてはサーベイメータ、消火設備については消火器や消火栓設備、火災検知設備）により、人員が現場に駆けつけて対応できることを含め、必要な安全機能を<u>損なわない</u>設計とする。</p>	<p><添付資料五（安全設計） 第八条> 適合のための設計方針 (3) 竜巻 (略) その他の安全機能については、地震後の施設の点検と同様、竜巻襲来後には施設を点検することや、安全機能が喪失した設備については、あらかじめ配置している代替設備・機器（通信連絡設備においては無線連絡設備、放射線管理設備についてはサーベイメータ、消火設備については消火器や消火栓設備、火災検知設備）により、人員が現場に駆けつけて対応できることを含め、必要な安全機能を<u>確保する</u>設計とする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px; text-align: center;"> <p>(具体的な見直し方針は参考資料2参照)</p> </div>

<ご質問2>

有機廃液一時格納庫及び化学処理装置(一部)の使用の停止について、今後の工事工程、方法及び設工認の申請時期を明確にすること。

<回答2>

有機廃液一時格納庫及び化学処理装置等の使用を停止する場合は、使用停止の措置に係る使用前確認が完了しなければ廃棄物管理施設の新規制基準の適合確認が完了しないことから、使用前確認は、新規制基準の適合確認の完了前もしくは同時とすることが必要である。

有機廃液一時格納庫の使用停止については、 $\beta \cdot \gamma$ 固体処理棟Ⅲの有機溶媒貯槽が液体廃棄物の受入れ施設として使用前確認を完了する前に工事に着手した場合、受入れ施設がなくなり、有機廃液の受入れができなくなる。受入れできない期間を可能な限り短縮するため、使用前事業者検査を他の設備と同時に受験できるように工事期間(約2か月)を考慮し、使用停止のための工事に着手する。

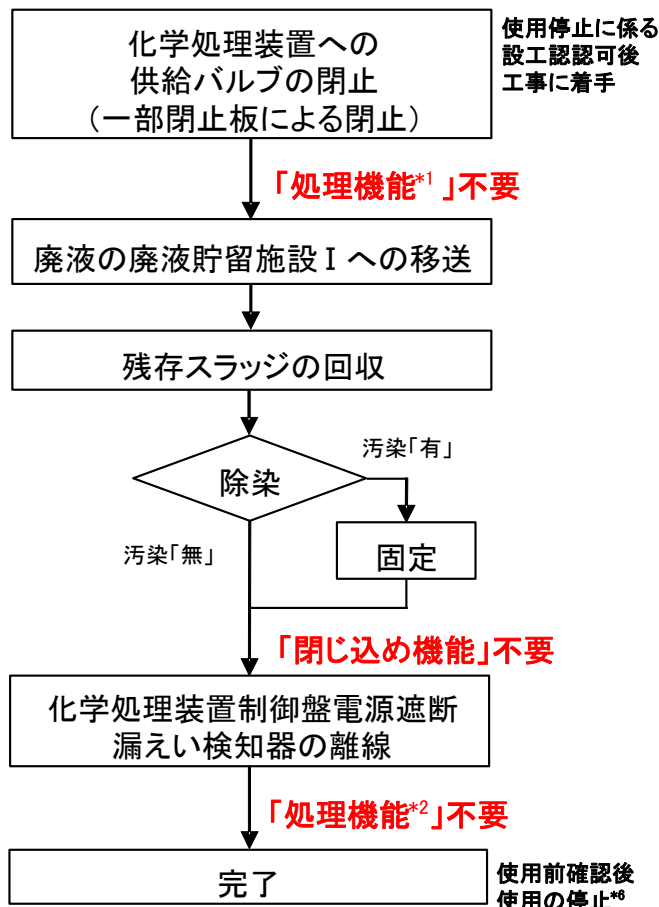
化学処理装置等の使用停止については、処理対象の廃液の処理が廃液蒸発装置Ⅰで実施可能であるため、使用停止に係る設工認及び保安規定の認可をもって使用停止のための工事に着手する。化学処理装置等の使用停止は、竜巻対策としての本設工認における適合性確認と関連していることから、使用停止に係る設工認は、現在申請中の設工認を補正し対応する。また、有機廃液一時格納庫も併せて補正する。

使用停止に当たっては、添付の使用停止に係るプロセスに従って「閉じ込め機能」、「処理機能」、「計測制御機能」及び「放射線管理機能」等の機能が不要となる措置を講じる。

使用の停止に係るプロセス

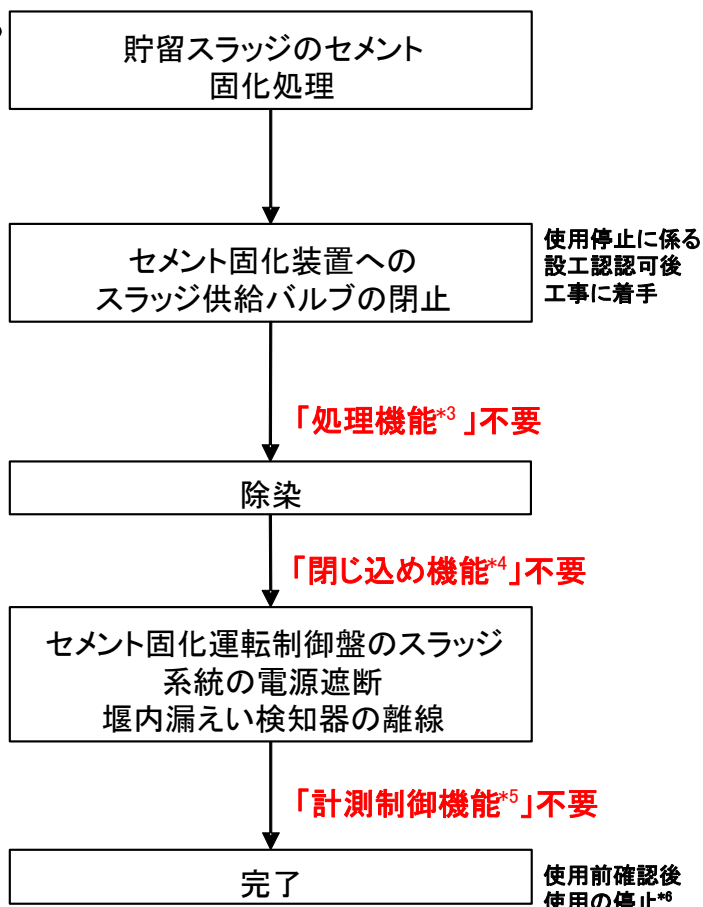
化学処理装置

〔 閉じ込め機能、処理機能 〕



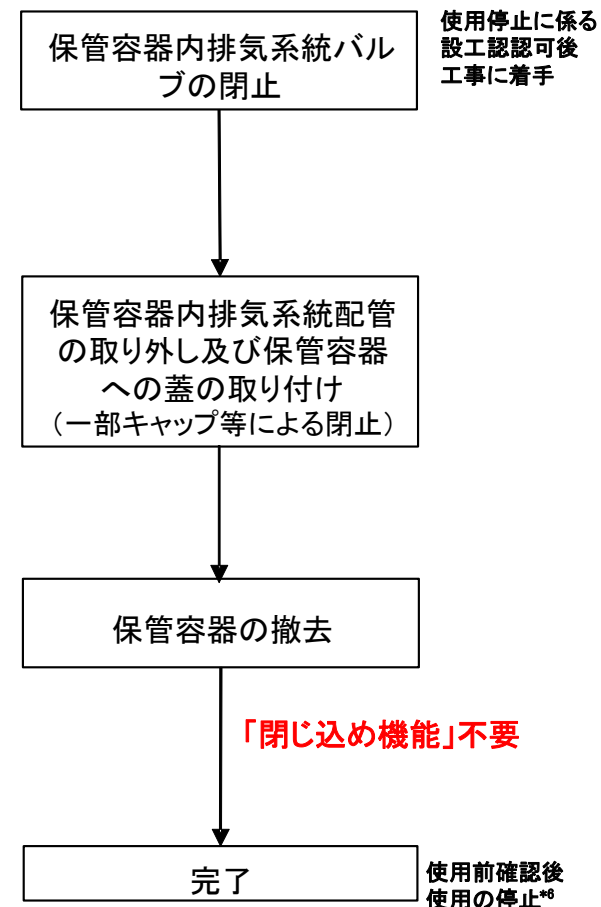
セメント固化装置

〔 閉じ込め機能、処理機能、計測制御機能 〕



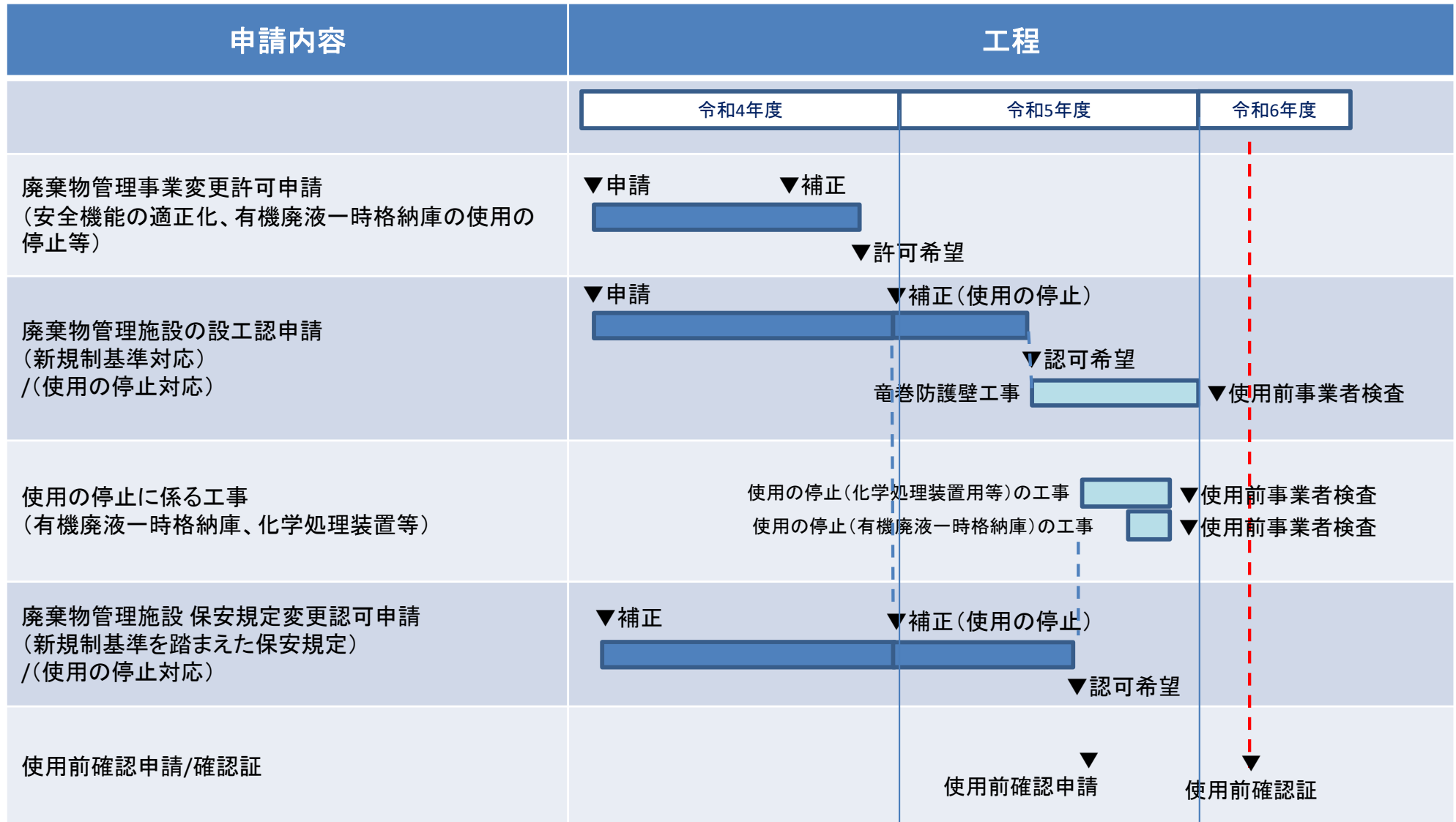
有機廃液一時格納庫

〔 閉じ込め機能、放射線管理機能、
廃棄機能、電源機能、通信連絡機能 〕



- *1: 化学処理装置の液位及び流量測定及び漏えい検知を除く
- *2: 化学処理装置の液位及び流量測定及び漏えい検知
- *3: セメント固化装置の処理機能のうち、「凍結再融解槽」、「スラッジ槽」及び「堰」
- *4: セメント固化装置のうち「凍結再融解槽」、「スラッジ槽」及び「スラッジ槽(サンプリングボックス)」
- *5: セメント固化装置計測設備のうち、「スラッジ槽液位」及び「堰内漏えい検知」(液位の監視及び記録)
- *6: 使用前確認は新規基準の適合確認の完了前もしくは同時とする

廃棄物管理施設の新規制基準対応計画工程



詳細な新規制基準対応計画工程は参考資料3参照

凡例

- [審査期間]
- [工事期間]

<ご質問3>

本文及び添付書類の変更範囲を明確にすること。

添付書類五の基準規則への適合性の説明について、各条にまとめ資料が添付されているが、原子力機構の他拠点及び他施設の申請書を参考に記載の見直しを検討すること。

<回答3>本申請の考え方

本文の変更範囲は、廃棄物管理施設の一般構造に関する外部からの衝撃に対する安全機能の適正化に関する設計方針の変更である。添付書類の変更範囲は、添付資料五(安全設計)について、外部からの衝撃に対する安全機能の適正化に関する設計方針の変更である。(参考資料4、参考資料5参照)

また、添付書類五(安全設計)の基準規則への適合性の説明においては、各条において条件及び評価を詳細に説明し、審査ヒアリング等で必要性が確認された経緯があり、既許可の体裁となっている。



審査を踏まえた見直し方針

変更申請は完本としており、変更に係る範囲が明確でないことから、新旧等の形式で補正する。各条まとめ資料については、基準規則への適合性の説明の観点から、適切に見直す。

表1-1 外部事象に対する代替設備・機器及び施設の運転の停止（自然現象）

施設区分	既存の設備及び機器	安全機能	自然現象					
			洪水	降水	風（台風）	竜巻	凍結	積雪
廃液処理棟	廃液蒸発装置Ⅰ	処理機能	代替設備・機器は不要 (立地条件より、洪水の影響を受けないことから、安全機能は維持される)	代替設備・機器は不要 (立地条件より、降水の影響を受けないことから、安全機能は維持される)	代替設備・機器は不要 (建家、設備及び機器は損傷を受けることはないことから、安全機能は維持される)	運転を停止するため代替設備・機器は不要	代替設備・機器は不要 (凍結を防止する設計とすることから、安全機能は維持される)	(観測結果の最大積雪量を考慮した設計とすることから、安全機能は維持される)
	廃液蒸発装置Ⅱ							
	セメント固化装置	放射線管理機能				運転を停止するため代替設備・機器は不要		
	出入管理関係設備							
	放射線監視設備	廃棄機能				運転を停止するため代替設備・機器は不要		
	管理区域系排気設備							
	排気口	計測制御機能				運転を停止するため代替設備・機器は不要		
	セメント固化装置計測制御設備							
	電気設備	電源機能				運転を停止するため代替設備・機器は不要		
	自動火災報知設備	火災による損傷の防止機能						
消火器	火災による損傷の防止機能	運転を停止するため代替設備・機器は不要						
加入電話、所内内線	通信連絡機能							
放送設備、ページング設備	通信連絡機能	運転を停止するため代替設備・機器は不要						
排水監視施設	排水監視設備	処理機能	代替設備・機器は不要 (立地条件より、洪水の影響を受けないことから、安全機能は維持される)	代替設備・機器は不要 (立地条件より、降水の影響を受けないことから、安全機能は維持される)	代替設備・機器は不要 (建家、設備及び機器は損傷を受けることはないことから、安全機能は維持される)	設備により維持可能（ただし、運転は停止する）	代替設備・機器は不要 (凍結を防止する設計とすることから、安全機能は維持される)	(観測結果の最大積雪量を考慮した設計とすることから、安全機能は維持される)
	放射線監視設備（屋外）	放射線管理機能				設備により維持可能		
	排水口	廃棄機能				設備により維持可能		
	排水監視設備計測設備	計測制御機能				設備により維持可能		
	電気設備	電源機能				設備により維持可能		
	自動火災報知設備	火災による損傷の防止機能				設備により維持可能		
	消火器	火災による損傷の防止機能				設備により維持可能		
	加入電話、所内内線	通信連絡機能				設備により維持可能		
	放送設備、ページング設備	通信連絡機能				設備により維持可能		
β・γ 固体処理棟Ⅰ	天井クレーン	処理機能	代替設備・機器は不要 (立地条件より、洪水の影響を受けないことから、安全機能は維持される)	代替設備・機器は不要 (立地条件より、降水の影響を受けないことから、安全機能は維持される)	代替設備・機器は不要 (建家、設備及び機器は損傷を受けることはないことから、安全機能は維持される)	運転を停止するため代替設備・機器は不要	代替設備・機器は不要 (凍結を防止する設計とすることから、安全機能は維持される)	(観測結果の最大積雪量を考慮した設計とすることから、安全機能は維持される)
	β・γ 圧縮装置Ⅰ	放射線管理機能				運転を停止するため代替設備・機器は不要		
	出入管理関係設備							
	放射線監視設備（屋内）	廃棄機能				運転を停止するため代替設備・機器は不要		
	放射線監視設備（屋外）							
	管理区域系排気設備	電源機能				運転を停止するため代替設備・機器は不要		
	排気口							
	電気設備	電源機能				運転を停止するため代替設備・機器は不要		
	自動火災報知設備	火災による損傷の防止機能						
	消火器	火災による損傷の防止機能				運転を停止するため代替設備・機器は不要		
加入電話、所内内線	通信連絡機能							
放送設備、ページング設備	通信連絡機能	運転を停止するため代替設備・機器は不要						
β・γ 固体処理棟Ⅱ	天井クレーン	処理機能	代替設備・機器は不要 (立地条件より、洪水の影響を受けないことから、安全機能は維持される)	代替設備・機器は不要 (立地条件より、降水の影響を受けないことから、安全機能は維持される)	代替設備・機器は不要 (建家、設備及び機器は損傷を受けることはないことから、安全機能は維持される)	運転を停止するため代替設備・機器は不要	代替設備・機器は不要 (凍結を防止する設計とすることから、安全機能は維持される)	(観測結果の最大積雪量を考慮した設計とすることから、安全機能は維持される)
	β・γ 圧縮装置Ⅱ	放射線管理機能				運転を停止するため代替設備・機器は不要		
	放射線監視設備（屋内）							
	放射線監視設備（屋外）	廃棄機能				運転を停止するため代替設備・機器は不要		
	管理区域系排気設備							
	排気口	電源機能				運転を停止するため代替設備・機器は不要		
	電気設備							
	自動火災報知設備	火災による損傷の防止機能				運転を停止するため代替設備・機器は不要		
	消火器	火災による損傷の防止機能						
	加入電話、所内内線	通信連絡機能				運転を停止するため代替設備・機器は不要		
放送設備、ページング設備	通信連絡機能							

表1-1 外部事象に対する代替設備・機器及び施設の運転の停止（自然現象）

施設区分	既存の設備及び機器	安全機能	自然現象					
			洪水	降水	風（台風）	竜巻	凍結	積雪
β・γ 固体処理棟Ⅲ	天井クレーン	処理機能	代替設備・機器は不要 (立地条件より、洪水の影響を受けないことから、安全機能は維持される)	代替設備・機器は不要 (立地条件より、降水の影響を受けないことから、安全機能は維持される)	代替設備・機器は不要 (建家、設備及び機器は損傷を受けることはないことから、安全機能は維持される)	設備により維持可能（ただし、運転を停止する）	代替設備・機器は不要 (凍結を防止する設計とすることから、安全機能は維持される)	代替設備・機器は不要 (観測結果の最大積雪量を考慮した設計とすることから、安全機能は維持される)
	β・γ 焼却装置					設備により維持可能		
	管理区域系排気設備	廃棄機能				設備により維持可能		
	β・γ 固体処理棟Ⅲ排気筒					設備により維持可能		
	β・γ 固体処理棟Ⅲ廃液貯槽	廃棄機能				設備により維持可能		
	出入管理関係設備	放射線管理機能				設備により維持可能		
	β・γ 焼却装置温度計測制御設備	計測制御機能				設備により維持可能		
	β・γ 焼却装置圧力計測制御設備					設備により維持可能		
	放射線監視設備（屋内）	放射線管理機能				設備により維持可能		
	放射線監視設備（屋外）					設備により維持可能		
	電気設備	電源機能				設備により維持可能		
	自動火災報知設備	火災による損傷の防止機能				設備により維持可能		
	屋内消火栓設備	火災による損傷の防止機能				設備により維持可能		
消火器		設備により維持可能						
加入電話、所内内線	通信連絡機能	設備により維持可能						
放送設備、ページング設備		設備により維持可能						
β・γ 固体処理棟Ⅳ	天井クレーン	処理機能	代替設備・機器は不要 (立地条件より、洪水の影響を受けないことから、安全機能は維持される)	代替設備・機器は不要 (立地条件より、降水の影響を受けないことから、安全機能は維持される)	代替設備・機器は不要 (建家、設備及び機器は損傷を受けることはないことから、安全機能は維持される)	運転を停止するため代替設備・機器は不要	代替設備・機器は不要 (凍結を防止する設計とすることから、安全機能は維持される)	代替設備・機器は不要 (観測結果の最大積雪量を考慮した設計とすることから、安全機能は維持される)
	β・γ 封入設備					運転を停止するため代替設備・機器は不要		
	β・γ 貯蔵セル					・ スポット式計測器等を用いて巡視点検により監視		
	セル系排気設備	廃棄機能				・ サーベイメータ		
	管理区域系排気設備					(信号が途絶えると複合火災受信機で警報が発報するので要員による監視に移行するため代替設備不要)		
	排気口	計測制御機能				・ ハード対策により維持可能		
	β・γ 封入設備圧力計測制御設備					・ 消火器		
	β・γ 貯蔵セル圧力計測制御設備					運転を停止するため代替設備・機器は不要		
	出入管理関係設備	放射線管理機能				・ 無線機		
	放射線監視設備（屋内）	火災による損傷の防止機能						
	放射線監視設備（屋外）							
	自動火災報知設備	火災による損傷の防止機能						
	ガス消火設備	火災による損傷の防止機能						
消火器	火災による損傷の防止機能							
電気設備	電源機能							
加入電話、所内内線	通信連絡機能							
放送設備、ページング設備								

表1-1 外部事象に対する代替設備・機器及び施設の運転の停止（自然現象）

施設区分	既存の設備及び機器	安全機能	自然現象									
			洪水	降水	風（台風）	竜巻	凍結	積雪				
α 固体処理棟	天井クレーン	処理機能	代替設備・機器は不要 (立地条件より、洪水の影響を受けないことから、安全機能は維持される)	代替設備・機器は不要 (立地条件より、降水の影響を受けないことから、安全機能は維持される)	代替設備・機器は不要 (建家、設備及び機器は損傷を受けることはないことから、安全機能は維持される)	設備により維持可能 (ただし、運転を停止する)	代替設備・機器は不要 (凍結を防止する設計とすることから、安全機能は維持される)	代替設備・機器は不要 (観測結果の最大積雪量を考慮した設計とすることから、安全機能は維持される)				
	α 封入設備											
	α 焼却装置											
	α ホール設備	廃棄機能							設備により維持可能			
	セル系排気設備											
	管理区域系排気設備											
	α 固体処理棟排気筒	廃棄機能								設備により維持可能		
	α 固体処理棟予備処理装置											
	α 焼却装置温度計測制御設備										計測制御機能	設備により維持可能
	α 焼却装置圧力計測制御設備											
	α ホール設備圧力計測制御設備											
	α 封入設備圧力計測制御設備	放射線管理機能									設備により維持可能	
	出入管理関係設備											
	放射線監視設備（屋内）											
	放射線監視設備（屋外）	電源機能										
電気設備												
自動火災報知設備	火災による損傷の防止機能		設備により維持可能									
屋内消火栓設備												
ガス消火設備												
消火器	通信連絡機能	設備により維持可能										
加入電話、所内内線												
放送設備、ページング設備												
固体集積保管場Ⅰ	固体集積保管場Ⅰ			管理機能	代替設備・機器は不要 (立地条件より、洪水の影響を受けないことから、安全機能は維持される)	代替設備・機器は不要 (立地条件より、降水の影響を受けないことから、安全機能は維持される)	代替設備・機器は不要 (建家、設備及び機器は損傷を受けることはないことから、安全機能は維持される)	設備により維持可能 (信号が途絶えると複合火災受信機で警報が発報するので要員による監視に移行するため代替設備不要)	代替設備・機器は不要 (凍結を防止する設計とすることから、安全機能は維持される)	代替設備・機器は不要 (観測結果の最大積雪量を考慮した設計とすることから、安全機能は維持される)		
	自動火災報知設備			火災による損傷の防止機能								
	消火器			火災による損傷の防止機能								
	電気設備			電源機能								
	加入電話、所内内線			通信連絡機能								
放送設備、ページング設備	通信連絡機能											
固体集積保管場Ⅱ	固体集積保管場Ⅱ			管理機能	代替設備・機器は不要 (立地条件より、洪水の影響を受けないことから、安全機能は維持される)	代替設備・機器は不要 (立地条件より、降水の影響を受けないことから、安全機能は維持される)	代替設備・機器は不要 (建家、設備及び機器は損傷を受けることはないことから、安全機能は維持される)	設備により維持可能	代替設備・機器は不要 (凍結を防止する設計とすることから、安全機能は維持される)	代替設備・機器は不要 (観測結果の最大積雪量を考慮した設計とすることから、安全機能は維持される)		
	自動火災報知設備			火災による損傷の防止機能								
	消火器			火災による損傷の防止機能								
	電気設備		電源機能									
	加入電話、所内内線		通信連絡機能									
放送設備、ページング設備	通信連絡機能											
固体集積保管場Ⅲ	固体集積保管場Ⅲ	管理機能	代替設備・機器は不要 (立地条件より、洪水の影響を受けないことから、安全機能は維持される)	代替設備・機器は不要 (立地条件より、降水の影響を受けないことから、安全機能は維持される)	代替設備・機器は不要 (建家、設備及び機器は損傷を受けることはないことから、安全機能は維持される)	設備により維持可能	代替設備・機器は不要 (凍結を防止する設計とすることから、安全機能は維持される)	代替設備・機器は不要 (観測結果の最大積雪量を考慮した設計とすることから、安全機能は維持される)				
	自動火災報知設備	火災による損傷の防止機能										
	消火器	火災による損傷の防止機能										
	電気設備	電源機能										
	加入電話、所内内線	通信連絡機能										
放送設備、ページング設備	通信連絡機能											
固体集積保管場Ⅳ	固体集積保管場Ⅳ	管理機能	代替設備・機器は不要 (立地条件より、洪水の影響を受けないことから、安全機能は維持される)	代替設備・機器は不要 (立地条件より、降水の影響を受けないことから、安全機能は維持される)	代替設備・機器は不要 (建家、設備及び機器は損傷を受けることはないことから、安全機能は維持される)	設備により維持可能	代替設備・機器は不要 (凍結を防止する設計とすることから、安全機能は維持される)	代替設備・機器は不要 (観測結果の最大積雪量を考慮した設計とすることから、安全機能は維持される)				
	自動火災報知設備	火災による損傷の防止機能										
	屋内消火栓設備											
	消火器											
	電気設備	電源機能										
加入電話、所内内線	通信連絡機能											
放送設備、ページング設備	通信連絡機能											

表1-1 外部事象に対する代替設備・機器及び施設の運転の停止（自然現象）

施設区分	既存の設備及び機器	安全機能	自然現象					
			洪水	降水	風（台風）	竜巻	凍結	積雪
α 固体貯蔵施設	α 固体貯蔵施設	管理機能	代替設備・機器は不要 (立地条件より、洪水の影響を受けないことから、安全機能は維持される)	代替設備・機器は不要 (立地条件より、降水の影響を受けないことから、安全機能は維持される)	代替設備・機器は不要 (建家、設備及び機器は損傷を受けることはないことから、安全機能は維持される)	設備により維持可能	代替設備・機器は不要 (凍結を防止する設計とすることから、安全機能は維持される)	代替設備・機器は不要 (観測結果の最大積雪量を考慮した設計とすることから、安全機能は維持される)
	放射線監視設備（屋内）	放射線管理機能				・サーベイメータ		
	放射線監視設備（屋外）					運転を停止するため代替設備・機器は不要		
	管理区域系排気設備	廃棄機能				・可搬型発電機		
	排気口					(信号が途絶えると複合火災受信機で警報が発報するので要員による監視に移行するため代替設備不要)		
	電気設備	電源機能				・消火器		
	自動火災報知設備	火災による損傷の防止機能				・無線機		
	消火器	火災による損傷の防止機能						
廃液貯留施設Ⅰ	放射線監視設備（屋内）	放射線管理機能	代替設備・機器は不要 (立地条件より、洪水の影響を受けないことから、安全機能は維持される)	代替設備・機器は不要 (立地条件より、降水の影響を受けないことから、安全機能は維持される)	代替設備・機器は不要 (建家、設備及び機器は損傷を受けることはないことから、安全機能は維持される)	・サーベイメータ	代替設備・機器は不要 (凍結を防止する設計とすることから、安全機能は維持される)	代替設備・機器は不要 (観測結果の最大積雪量を考慮した設計とすることから、安全機能は維持される)
	放射線監視設備（屋外）					運転を停止するため代替設備・機器は不要		
	管理区域系排気設備	廃棄機能				・スポット式計測器等を用いて巡視点検により監視		
	排気口					・可搬型発電機		
	処理済廃液貯槽計測設備	計測制御機能				(信号が途絶えると複合火災受信機で警報が発報するので要員による監視に移行するため代替設備不要)		
	廃液貯槽Ⅰ計測設備	電源機能				・消火器		
	電気設備	火災による損傷の防止機能				・無線機		
	自動火災報知設備	火災による損傷の防止機能						
廃液貯留施設Ⅰ (廃棄物管理施設用廃液貯槽)	廃棄物管理施設用廃液貯槽	廃棄機能	代替設備・機器は不要 (立地条件より、洪水の影響を受けないことから、安全機能は維持される)	代替設備・機器は不要 (立地条件より、降水の影響を受けないことから、安全機能は維持される)	代替設備・機器は不要 (建家、設備及び機器は損傷を受けることはないことから、安全機能は維持される)	設備により維持可能	代替設備・機器は不要 (凍結を防止する設計とすることから、安全機能は維持される)	代替設備・機器は不要 (観測結果の最大積雪量を考慮した設計とすることから、安全機能は維持される)
	廃棄物管理施設用廃液貯槽計測設備	計測制御機能				・スポット式計測器等を用いて巡視点検により監視		
	電気設備	電源機能				・可搬型発電機		
	自動火災報知設備	火災による損傷の防止機能				(信号が途絶えると複合火災受信機で警報が発報するので要員による監視に移行するため代替設備不要)		
	消火器	火災による損傷の防止機能				・消火器		
	放送設備、ページング設備	通信連絡機能				・無線機		
廃液貯留施設Ⅱ	放射線監視設備（屋内）	放射線管理機能	代替設備・機器は不要 (立地条件より、洪水の影響を受けないことから、安全機能は維持される)	代替設備・機器は不要 (立地条件より、降水の影響を受けないことから、安全機能は維持される)	代替設備・機器は不要 (建家、設備及び機器は損傷を受けることはないことから、安全機能は維持される)	設備により維持可能	代替設備・機器は不要 (凍結を防止する設計とすることから、安全機能は維持される)	代替設備・機器は不要 (観測結果の最大積雪量を考慮した設計とすることから、安全機能は維持される)
	放射線監視設備（屋外）					設備により維持可能		
	管理区域系排気設備	廃棄機能				設備により維持可能		
	排気口					設備により維持可能		
	廃液貯槽Ⅱ計測設備	計測制御機能				設備により維持可能		
	電気設備	電源機能				設備により維持可能		
	自動火災報知設備	火災による損傷の防止機能						
	消火器	火災による損傷の防止機能						
β・γ一時格納庫Ⅰ	放射線監視設備（屋内）	放射線管理機能	代替設備・機器は不要 (立地条件より、洪水の影響を受けないことから、安全機能は維持される)	代替設備・機器は不要 (立地条件より、降水の影響を受けないことから、安全機能は維持される)	代替設備・機器は不要 (建家、設備及び機器は損傷を受けることはないことから、安全機能は維持される)	・サーベイメータ	代替設備・機器は不要 (凍結を防止する設計とすることから、安全機能は維持される)	代替設備・機器は不要 (観測結果の最大積雪量を考慮した設計とすることから、安全機能は維持される)
	放射線監視設備（屋外）					運転を停止するため代替設備・機器は不要		
	管理区域系排気設備	廃棄機能				運転を停止するため代替設備・機器は不要		
	排気口					(信号が途絶えると複合火災受信機で警報が発報するので要員による監視に移行するため代替設備不要)		
	電気設備	電源機能				・消火器		
	自動火災報知設備	火災による損傷の防止機能				・無線機		
	消火器	火災による損傷の防止機能						
	放送設備、ページング設備	通信連絡機能						

表1-1 外部事象に対する代替設備・機器及び施設の運転の停止（自然現象）

施設区分	既存の設備及び機器	安全機能	自然現象					
			洪水	降水	風（台風）	竜巻	凍結	積雪
α一時格納庫	出入管理関係設備	放射線管理機能	代替設備・機器は不要 (立地条件より、洪水の影響を受けないことから、安全機能は維持される)	代替設備・機器は不要 (立地条件より、降水の影響を受けないことから、安全機能は維持される)	代替設備・機器は不要 (建家、設備及び機器は損傷を受けることはないことから、安全機能は維持される)	・サーベイメータ	代替設備・機器は不要 (凍結を防止する設計とすることから、安全機能は維持される)	代替設備・機器は不要 (観測結果の最大積雪量を考慮した設計とすることから、安全機能は維持される)
	放射線監視設備（屋内）					運転を停止するため代替設備・機器は不要 (信号が途絶えると複合火災受信機で警報が発報するので要員による監視に移行するため代替設備不要)		
	放射線監視設備（屋外）							
	管理区域系排気設備							
	排気口							
	電気設備							
	自動火災報知設備							
	ガス消火設備							
	消火器	・消火器						
放送設備、ページング設備	通信連絡機能	・トランシーバー						
管理機械棟	分析フード	処理機能	代替設備・機器は不要 (立地条件より、洪水の影響を受けないことから、安全機能は維持される)	代替設備・機器は不要 (立地条件より、降水の影響を受けないことから、安全機能は維持される)	代替設備・機器は不要 (建家、設備及び機器は損傷を受けることはないことから、安全機能は維持される)	運転を停止するため代替設備・機器は不要	代替設備・機器は不要 (凍結を防止する設計とすることから、安全機能は維持される)	代替設備・機器は不要 (観測結果の最大積雪量を考慮した設計とすることから、安全機能は維持される)
	集中監視設備	計測制御機能				・可搬型発電機		
	出入管理関係設備	放射線管理機能				・サーベイメータ		
	放射線監視設備（屋内）							
	放射線監視設備（屋外）	放射線管理機能				・個人線量計		
	個人管理用設備	放射線管理機能				運転を停止するため代替設備・機器は不要		
	管理区域系排気設備	廃棄機能				・可搬型発電機		
	排気口	電源機能				(信号が途絶えると複合火災受信機で警報が発報するので要員による監視に移行するため代替設備不要)		
	電気設備	火災による損傷の防止機能				・消火器		
	自動火災報知設備	火災による損傷の防止機能				・無線機		
	消火器	火災による損傷の防止機能						
加入電話、所内内線	通信連絡機能							
放送設備、ページング設備	通信連絡機能							
固体廃棄物減容処理施設	減容処理設備（搬出入室）	処理機能	代替設備・機器は不要 (立地条件より、洪水の影響を受けないことから、安全機能は維持される)	代替設備・機器は不要 (立地条件より、降水の影響を受けないことから、安全機能は維持される)	代替設備・機器は不要 (建家、設備及び機器は損傷を受けることはないことから、安全機能は維持される)	設備により維持可能（ただし、運転を停止する）	代替設備・機器は不要 (凍結を防止する設計とすることから、安全機能は維持される)	代替設備・機器は不要 (観測結果の最大積雪量を考慮した設計とすることから、安全機能は維持される)
	減容処理設備（前処理セル（開缶エリア、分別エリア））							
	減容処理設備（焼却熔融セル）							
	減容処理設備（保守ホール）	廃棄機能				設備により維持可能		
	固体廃棄物減容処理施設廃液貯槽							
	セル系排気設備							
	グロブボックス系排気設備							
	予備系排気設備							
	フード系排気設備							
	管理区域系排気設備	放射線管理機能				設備により維持可能		
	固体廃棄物減容処理施設排気筒							
	計測制御設備	計測制御機能				設備により維持可能		
	集中監視設備	放射線管理機能				設備により維持可能		
	出入管理関係設備							
	放射線監視設備（屋内）	放射線管理機能				設備により維持可能		
	個人管理用設備							
	放射線監視設備（屋外）	電源機能				設備により維持可能		
	電気設備							
	自動火災報知設備	火災による損傷の防止機能				設備により維持可能		
	屋内消火栓設備							
ガス消火設備								
消火器								
加入電話、所内内線	通信連絡機能		設備により維持可能					
放送設備、ページング設備								

表1-2 外部事象に対する代替設備・機器及び施設の運転の停止（自然現象）

施設区分	既存の設備及び機器	安全機能	自然現象				
			落雷	地滑り	火山による影響	生物学的影響	森林火災
β・γ 固体処理棟Ⅲ	天井クレーン	処理機能	代替設備・機器は不要 (設計及び管理により被害を受けることはないことから、安全機能は維持される)	代替設備・機器は不要 (立地条件より、影響を受けないことから、安全機能は維持される)	運転を停止するため代替設備・機器は不要	運転を停止するため代替設備・機器は不要	運転を停止するため代替設備・機器は不要
	β・γ 焼却装置						
	管理区域系排気設備	廃棄機能			運転を停止するため代替設備・機器は不要	運転を停止するため代替設備・機器は不要	運転を停止するため代替設備・機器は不要
	β・γ 固体処理棟Ⅲ排気筒						
	β・γ 固体処理棟Ⅲ廃液貯槽	廃棄機能			設備により維持可能	設備により維持可能	設備により維持可能
	出入管理関係設備	放射線管理機能			設備により維持可能	設備により維持可能	設備により維持可能
	β・γ 焼却装置温度計測制御設備	計測制御機能			設備により維持可能	設備により維持可能	設備により維持可能
	β・γ 焼却装置圧力計測制御設備				設備により維持可能	設備により維持可能	設備により維持可能
	放射線監視設備（屋内）	放射線管理機能			設備により維持可能	設備により維持可能	設備により維持可能
	放射線監視設備（屋外）				設備により維持可能	設備により維持可能	設備により維持可能
	電気設備	電源機能			(信号が途絶えると複合火災受信機で警報が発報するので要員による監視に移行するため代替設備不要)	(信号が途絶えると複合火災受信機で警報が発報するので要員による監視に移行するため代替設備不要)	(信号が途絶えると複合火災受信機で警報が発報するので要員による監視に移行するため代替設備不要)
	自動火災報知設備	火災による損傷の防止機能			設備により維持可能	設備により維持可能	設備により維持可能
屋内消火栓設備	火災による損傷の防止機能	設備により維持可能	設備により維持可能	設備により維持可能			
消火器		設備により維持可能	設備により維持可能	設備により維持可能			
加入電話、所内内線	通信連絡機能	設備により維持可能	設備により維持可能	設備により維持可能			
放送設備、ページング設備							
β・γ 固体処理棟Ⅳ	天井クレーン	処理機能	代替設備・機器は不要 (設計及び管理により被害を受けることはないことから、安全機能は維持される)	代替設備・機器は不要 (立地条件より、影響を受けないことから、安全機能は維持される)	運転を停止するため代替設備・機器は不要	運転を停止するため代替設備・機器は不要	運転を停止するため代替設備・機器は不要
	β・γ 封入設備						
	β・γ 貯蔵セル						
	セル系排気設備	廃棄機能			運転を停止するため代替設備・機器は不要	運転を停止するため代替設備・機器は不要	運転を停止するため代替設備・機器は不要
	管理区域系排気設備						
	排気口						
	β・γ 封入設備圧力計測制御設備	計測制御機能			設備により維持可能	設備により維持可能	設備により維持可能
	β・γ 貯蔵セル圧力計測制御設備				設備により維持可能	設備により維持可能	設備により維持可能
	出入管理関係設備	放射線管理機能			設備により維持可能	設備により維持可能	設備により維持可能
	放射線監視設備（屋内）						
	放射線監視設備（屋外）				(信号が途絶えると複合火災受信機で警報が発報するので要員による監視に移行するため代替設備不要)	(信号が途絶えると複合火災受信機で警報が発報するので要員による監視に移行するため代替設備不要)	(信号が途絶えると複合火災受信機で警報が発報するので要員による監視に移行するため代替設備不要)
	自動火災報知設備	火災による損傷の防止機能			設備により維持可能	設備により維持可能	設備により維持可能
ガス消火設備	火災による損傷の防止機能	設備により維持可能	設備により維持可能	設備により維持可能			
消火器	火災による損傷の防止機能	設備により維持可能	設備により維持可能	設備により維持可能			
電気設備	電源機能	設備により維持可能	運転を停止するため代替設備・機器は不要	設備により維持可能			
加入電話、所内内線	通信連絡機能	設備により維持可能	設備により維持可能	設備により維持可能			
放送設備、ページング設備							

表1-2 外部事象に対する代替設備・機器及び施設の運転の停止（自然現象）

施設区分	既存の設備及び機器	安全機能	自然現象				
			落雷	地滑り	火山による影響	生物学的影響	森林火災
α 固体処理棟	天井クレーン	処理機能	代替設備・機器は不要 (設計及び管理により被害を受けることはないことから、安全機能は維持される)	代替設備・機器は不要 (立地条件より、影響を受けないことから、安全機能は維持される)	運転を停止するため代替設備・機器は不要	運転を停止するため代替設備・機器は不要	運転を停止するため代替設備・機器は不要
	α 封入設備						
	α 焼却装置						
	α ホール設備	廃棄機能			運転を停止するため代替設備・機器は不要	運転を停止するため代替設備・機器は不要	運転を停止するため代替設備・機器は不要
	セル系排気設備						
	管理区域系排気設備						
	α 固体処理棟排気筒	廃棄機能			設備により維持可能	設備により維持可能	設備により維持可能
	α 固体処理棟予備処理装置						
	α 焼却装置温度計測制御設備						
	α 焼却装置圧力計測制御設備	計測制御機能			設備により維持可能	設備により維持可能	設備により維持可能
	α ホール設備圧力計測制御設備						
	α 封入設備圧力計測制御設備						
	α 封入設備圧力計測制御設備	放射線管理機能			設備により維持可能	設備により維持可能	設備により維持可能
	出入管理関係設備						
	放射線監視設備（屋内）						
放射線監視設備（屋外）	電源機能	設備により維持可能	設備により維持可能	設備により維持可能			
電気設備							
自動火災報知設備							
屋内消火栓設備	火災による損傷の防止機能	設備により維持可能	設備により維持可能	設備により維持可能			
ガス消火設備							
消火器							
加入電話、所内内線	通信連絡機能	設備により維持可能	設備により維持可能	設備により維持可能			
放送設備、ページング設備							
固体集積保管場Ⅰ	固体集積保管場Ⅰ	管理機能	代替設備・機器は不要 (設計及び管理により被害を受けることはないことから、安全機能は維持される)	代替設備・機器は不要 (立地条件より、影響を受けないことから、安全機能は維持される)	設備により維持可能 (信号が途絶えると複合火災受信機で警報が発報するので要員による監視に移行するため代替設備不要)	設備により維持可能 (信号が途絶えると複合火災受信機で警報が発報するので要員による監視に移行するため代替設備不要)	設備により維持可能 (信号が途絶えると複合火災受信機で警報が発報するので要員による監視に移行するため代替設備不要)
	自動火災報知設備	火災による損傷の防止機能					
	消火器	火災による損傷の防止機能					
	電気設備	電源機能					
	加入電話、所内内線	通信連絡機能					
放送設備、ページング設備	通信連絡機能						
固体集積保管場Ⅱ	固体集積保管場Ⅱ	管理機能	代替設備・機器は不要 (設計及び管理により被害を受けることはないことから、安全機能は維持される)	代替設備・機器は不要 (立地条件より、影響を受けないことから、安全機能は維持される)	設備により維持可能	設備により維持可能	設備により維持可能
	自動火災報知設備	火災による損傷の防止機能					
	消火器	火災による損傷の防止機能					
	電気設備	電源機能					
	加入電話、所内内線	通信連絡機能					
放送設備、ページング設備	通信連絡機能						
固体集積保管場Ⅲ	固体集積保管場Ⅲ	管理機能	代替設備・機器は不要 (設計及び管理により被害を受けることはないことから、安全機能は維持される)	代替設備・機器は不要 (立地条件より、影響を受けないことから、安全機能は維持される)	設備により維持可能	設備により維持可能	設備により維持可能
	自動火災報知設備	火災による損傷の防止機能					
	消火器	火災による損傷の防止機能					
	電気設備	電源機能					
	加入電話、所内内線	通信連絡機能					
放送設備、ページング設備	通信連絡機能						
固体集積保管場Ⅳ	固体集積保管場Ⅳ	管理機能	代替設備・機器は不要 (設計及び管理により被害を受けることはないことから、安全機能は維持される)	代替設備・機器は不要 (立地条件より、影響を受けないことから、安全機能は維持される)	設備により維持可能	設備により維持可能	設備により維持可能
	自動火災報知設備	火災による損傷の防止機能					
	屋内消火栓設備	火災による損傷の防止機能					
	消火器	火災による損傷の防止機能					
	電気設備	電源機能					
加入電話、所内内線	通信連絡機能						
放送設備、ページング設備	通信連絡機能						

表1-2 外部事象に対する代替設備・機器及び施設の運転の停止（自然現象）

施設区分	既存の設備及び機器	安全機能	自然現象							
			落雷	地滑り	火山による影響	生物学的影響	森林火災			
α 一時格納庫	出入管理関係設備	放射線管理機能	代替設備・機器は不要 (設計及び管理により被害を受けることはないことから、安全機能は維持される)	代替設備・機器は不要 (立地条件より、影響を受けないことから、安全機能は維持される)	設備により維持可能	設備により維持可能	設備により維持可能			
	放射線監視設備（屋内）				設備により維持可能	設備により維持可能	設備により維持可能			
	放射線監視設備（屋外）	設備により維持可能			設備により維持可能	設備により維持可能				
	管理区域系排気設備	廃棄機能			運転を停止するため代替設備・機器は不要	運転を停止するため代替設備・機器は不要	運転を停止するため代替設備・機器は不要			
	排気口	電源機能			設備により維持可能	設備により維持可能	設備により維持可能			
	電気設備	電源機能			設備により維持可能	設備により維持可能	設備により維持可能			
	自動火災報知設備	火災による損傷の防止機能			(信号が途絶えると複合火災受信機で警報が発報するので要員による監視に移行するため代替設備不要)	(信号が途絶えると複合火災受信機で警報が発報するので要員による監視に移行するため代替設備不要)	(信号が途絶えると複合火災受信機で警報が発報するので要員による監視に移行するため代替設備不要)			
	ガス消火設備	火災による損傷の防止機能			設備により維持可能	設備により維持可能	設備により維持可能			
消火器	火災による損傷の防止機能	設備により維持可能	設備により維持可能	設備により維持可能						
放送設備、ページング設備	通信連絡機能	設備により維持可能	設備により維持可能	設備により維持可能						
管理機械棟	分析フード	処理機能	代替設備・機器は不要 (設計及び管理により被害を受けることはないことから、安全機能は維持される)	代替設備・機器は不要 (立地条件より、影響を受けないことから、安全機能は維持される)	運転を停止するため代替設備・機器は不要	運転を停止するため代替設備・機器は不要	運転を停止するため代替設備・機器は不要			
	集中監視設備	計測制御機能			設備により維持可能	設備により維持可能	設備により維持可能			
	放射線監視設備（屋内）	放射線管理機能			設備により維持可能	設備により維持可能	設備により維持可能			
	放射線監視設備（屋外）	放射線管理機能			設備により維持可能	設備により維持可能	設備により維持可能			
	個人管理用設備	放射線管理機能			設備により維持可能	設備により維持可能	設備により維持可能			
	管理区域系排気設備	廃棄機能			運転を停止するため代替設備・機器は不要	運転を停止するため代替設備・機器は不要	運転を停止するため代替設備・機器は不要			
	排気口	電源機能			設備により維持可能	設備により維持可能	設備により維持可能			
	電気設備	電源機能			設備により維持可能	設備により維持可能	設備により維持可能			
	自動火災報知設備	火災による損傷の防止機能			(信号が途絶えると複合火災受信機で警報が発報するので要員による監視に移行するため代替設備不要)	(信号が途絶えると複合火災受信機で警報が発報するので要員による監視に移行するため代替設備不要)	(信号が途絶えると複合火災受信機で警報が発報するので要員による監視に移行するため代替設備不要)			
	消火器	火災による損傷の防止機能			設備により維持可能	設備により維持可能	設備により維持可能			
	加入電話、所内内線	通信連絡機能			設備により維持可能	設備により維持可能	設備により維持可能			
	放送設備、ページング設備	通信連絡機能			設備により維持可能	設備により維持可能	設備により維持可能			
	固体廃棄物減容処理施設	減容処理設備（搬出入室）			処理機能	代替設備・機器は不要 (設計及び管理により被害を受けることはないことから、安全機能は維持される)	代替設備・機器は不要 (立地条件より、影響を受けないことから、安全機能は維持される)	運転を停止するため代替設備・機器は不要	運転を停止するため代替設備・機器は不要	運転を停止するため代替設備・機器は不要
		減容処理設備（前処理セル（開缶エリア、分別エリア））						運転を停止するため代替設備・機器は不要	運転を停止するため代替設備・機器は不要	運転を停止するため代替設備・機器は不要
減容処理設備（焼却熔融セル）		廃棄機能	設備により維持可能	設備により維持可能	設備により維持可能					
減容処理設備（保守ホール）			設備により維持可能	設備により維持可能	設備により維持可能					
固体廃棄物減容処理施設廃液貯槽			設備により維持可能	設備により維持可能	設備により維持可能					
セル系排気設備			設備により維持可能	設備により維持可能	設備により維持可能					
グロブボックス系排気設備			設備により維持可能	設備により維持可能	設備により維持可能					
予備系排気設備			設備により維持可能	設備により維持可能	設備により維持可能					
フード系排気設備			設備により維持可能	設備により維持可能	設備により維持可能					
管理区域系排気設備		設備により維持可能	設備により維持可能	設備により維持可能						
固体廃棄物減容処理施設排気筒		計測制御機能	設備により維持可能	設備により維持可能	設備により維持可能					
計測制御設備		計測制御機能	設備により維持可能	設備により維持可能	設備により維持可能					
集中監視設備		放射線管理機能	設備により維持可能	設備により維持可能	設備により維持可能					
放射線監視設備（屋内）		放射線管理機能	設備により維持可能	設備により維持可能	設備により維持可能					
個人管理用設備		放射線管理機能	設備により維持可能	設備により維持可能	設備により維持可能					
放射線監視設備（屋外）		放射線管理機能	設備により維持可能	設備により維持可能	設備により維持可能					
電気設備		電源機能	設備により維持可能	設備により維持可能	設備により維持可能					
自動火災報知設備	火災による損傷の防止機能	(信号が途絶えると複合火災受信機で警報が発報するので要員による監視に移行するため代替設備不要)	(信号が途絶えると複合火災受信機で警報が発報するので要員による監視に移行するため代替設備不要)	(信号が途絶えると複合火災受信機で警報が発報するので要員による監視に移行するため代替設備不要)						
屋内消火栓設備	火災による損傷の防止機能	設備により維持可能	設備により維持可能	設備により維持可能						
ガス消火設備	火災による損傷の防止機能	設備により維持可能	設備により維持可能	設備により維持可能						
消火器	火災による損傷の防止機能	設備により維持可能	設備により維持可能	設備により維持可能						
加入電話、所内内線	通信連絡機能	設備により維持可能	設備により維持可能	設備により維持可能						
放送設備、ページング設備	通信連絡機能	設備により維持可能	設備により維持可能	設備により維持可能						

表2-1 外部事象に対する代替設備・機器及び施設の運転の停止（人為事象（故意によるものを除く。））

施設区分	既存の設備及び機器	安全機能	人為事象（故意によるものを除く。）			
			飛来物（航空機落下等）	ダムの崩壊	施設内貯槽の決壊	
廃液処理棟	廃液蒸発装置Ⅰ	処理機能	運転を停止するため代替設備・機器は不要	代替設備・機器は不要 (立地条件より、影響を受けないことから、安全機能は維持される)	代替設備・機器は不要 (堰又はピット内に貯留すること、漏えい検知器で漏えいを検知し、他貯槽移送することから、安全機能は維持される)	
	廃液蒸発装置Ⅱ					
	セメント固化装置					
	出入管理関係設備	放射線管理機能				設備により維持される
	放射線監視設備					
	管理区域系排気設備	廃棄機能				運転を停止するため代替設備・機器は不要
	排気口					
	セメント固化装置計測制御設備	計測制御機能				設備により維持される
	電気設備	電源機能				設備により維持される
	自動火災報知設備	火災による損傷の防止機能				(信号が途絶えると複合火災受信機で警報が発報するので要員による監視に移行するため代替設備不要)
	消火器	火災による損傷の防止機能				設備により維持される
	加入電話、所内内線	通信連絡機能				設備により維持される
放送設備、ページング設備						
排水監視施設	排水監視設備	処理機能	運転を停止するため代替設備・機器は不要	代替設備・機器は不要 (立地条件より、影響を受けないことから、安全機能は維持される)	代替設備・機器は不要 (漏えい検知器で漏えいを検知し、他貯槽移送することから、安全機能は維持される)	
	放射線監視設備（屋外）	放射線管理機能				設備により維持される
	排水口	廃棄機能				放出排水であることから代替設備不要
	排水監視設備計測設備	計測制御機能				設備により維持される
	電気設備	電源機能				設備により維持される
	自動火災報知設備	火災による損傷の防止機能				(信号が途絶えると複合火災受信機で警報が発報するので要員による監視に移行するため代替設備不要)
	消火器	火災による損傷の防止機能				設備により維持される
	放送設備、ページング設備	通信連絡機能				設備により維持される
β・γ固体処理棟Ⅰ	天井クレーン	処理機能	運転を停止するため代替設備・機器は不要	代替設備・機器は不要 (立地条件より、影響を受けないことから、安全機能は維持される)	代替設備・機器は不要 (対象となる貯槽はないことから、安全機能は維持される)	
	β・γ圧縮装置Ⅰ	放射線管理機能				設備により維持される
	出入管理関係設備					
	放射線監視設備（屋内）					
	放射線監視設備（屋外）					
	管理区域系排気設備	廃棄機能				運転を停止するため代替設備・機器は不要
	排気口					
	電気設備	電源機能				設備により維持可能
	自動火災報知設備	火災による損傷の防止機能				(信号が途絶えると複合火災受信機で警報が発報するので要員による監視に移行するため代替設備不要)
	消火器	火災による損傷の防止機能				設備により維持される
加入電話、所内内線	通信連絡機能	設備により維持される				
放送設備、ページング設備						

表2-1 外部事象に対する代替設備・機器及び施設の運転の停止（人為事象（故意によるものを除く。））

施設区分	既存の設備及び機器	安全機能	人為事象（故意によるものを除く。）		
			飛来物（航空機落下等）	ダムの崩壊	施設内貯槽の決壊
β・γ 固体処理棟Ⅱ	天井クレーン	処理機能	運転を停止するため代替設備・機器は不要	代替設備・機器は不要 (立地条件より、影響を受けないことから、安全機能は維持される)	代替設備・機器は不要 (対象となる貯槽はないことから、安全機能は維持される)
	β・γ 圧縮装置Ⅱ				
	放射線監視設備（屋内）	放射線管理機能	設備により維持される		
	放射線監視設備（屋外）				
	管理区域系排気設備	廃棄機能	運転を停止するため代替設備・機器は不要		
	排気口				
	電気設備	電源機能	設備により維持可能		
	自動火災報知設備	火災による損傷の防止機能	(信号が途絶えると複合火災受信機で警報が発報するので要員による監視に移行するため代替設備不要)		
	消火器	火災による損傷の防止機能	設備により維持される		
	放送設備、ページング設備	通信連絡機能	設備により維持される		
β・γ 固体処理棟Ⅲ	天井クレーン	処理機能	運転を停止するため代替設備・機器は不要	代替設備・機器は不要 (立地条件より、影響を受けないことから、安全機能は維持される)	代替設備・機器は不要 (堰又はピット内に貯留すること、漏えい検知器で漏えいを検知し、他貯槽移送することから、安全機能は維持される)
	β・γ 焼却装置				
	管理区域系排気設備	廃棄機能	運転を停止するため代替設備・機器は不要		
	β・γ 固体処理棟Ⅲ排気筒				
	β・γ 固体処理棟Ⅲ廃液貯槽	廃棄機能	設備により維持可能		
	出入管理関係設備	放射線管理機能	設備により維持可能		
	β・γ 焼却装置温度計測制御設備	計測制御機能	設備により維持可能		
	β・γ 焼却装置圧力計測制御設備				
	放射線監視設備（屋内）	放射線管理機能	設備により維持可能		
	放射線監視設備（屋外）				
	電気設備	電源機能	設備により維持可能		
	自動火災報知設備	火災による損傷の防止機能	(信号が途絶えると複合火災受信機で警報が発報するので要員による監視に移行するため代替設備不要)		
	屋内消火栓設備	火災による損傷の防止機能	設備により維持可能		
	消火器				
	加入電話、所内内線	通信連絡機能	設備により維持可能		
放送設備、ページング設備					

表2-1 外部事象に対する代替設備・機器及び施設の運転の停止（人為事象（故意によるものを除く。））

施設区分	既存の設備及び機器	安全機能	人為事象（故意によるものを除く。）		
			飛来物（航空機落下等）	ダムの崩壊	施設内貯槽の決壊
β・γ 固体処理棟Ⅳ	天井クレーン	処理機能	運転を停止するため代替設備・機器は不要	代替設備・機器は不要 (立地条件より、影響を受けないことから、安全機能は維持される)	代替設備・機器は不要 (対象となる貯槽はないことから、安全機能は維持される)
	β・γ 封入設備				
	β・γ 貯蔵セル				
	セル系排気設備	廃棄機能	運転を停止するため代替設備・機器は不要		
	管理区域系排気設備				
	排気口				
	β・γ 封入設備圧力計測制御設備	計測制御機能	設備により維持可能		
	β・γ 貯蔵セル圧力計測制御設備				
	出入管理関係設備	放射線管理機能	設備により維持可能		
	放射線監視設備（屋内）				
	放射線監視設備（屋外）				
	自動火災報知設備	火災による損傷の防止機能	(信号が途絶えると複合火災受信機で警報が発報するので要員による監視に移行するため代替設備不要)		
	ガス消火設備				
	消火器	火災による損傷の防止機能	設備により維持可能		
電気設備	電源機能			設備により維持可能	
加入電話、所内内線		通信連絡機能	設備により維持可能		
放送設備、ページング設備					
α 固体処理棟	天井クレーン	処理機能	運転を停止するため代替設備・機器は不要	代替設備・機器は不要 (立地条件より、影響を受けないことから、安全機能は維持される)	代替設備・機器は不要 (堰又はピット内に貯留すること、漏えい検知器で漏えいを検知し、他貯槽移送することから、安全機能は維持される)
	α 封入設備				
	α 焼却装置				
	α ホール設備	廃棄機能	運転を停止するため代替設備・機器は不要		
	セル系排気設備				
	管理区域系排気設備				
	α 固体処理棟排気筒	廃棄機能	設備により維持可能		
	α 固体処理棟予備処理装置				
	α 焼却装置温度計測制御設備	計測制御機能	設備により維持可能		
	α 焼却装置圧力計測制御設備				
	α ホール設備圧力計測制御設備				
	α 封入設備圧力計測制御設備				
	出入管理関係設備	放射線管理機能	設備により維持可能		
	放射線監視設備（屋内）				
	放射線監視設備（屋外）				
	電気設備	電源機能	設備により維持可能		
	自動火災報知設備				
	屋内消火栓設備	火災による損傷の防止機能	設備により維持可能		
	ガス消火設備				
消火器					
加入電話、所内内線	通信連絡機能	設備により維持可能			
放送設備、ページング設備					

表2-1 外部事象に対する代替設備・機器及び施設の運転の停止（人為事象（故意によるものを除く。））

施設区分	既存の設備及び機器	安全機能	人為事象（故意によるものを除く。）		
			飛来物（航空機落下等）	ダムの崩壊	施設内貯槽の決壊
固体集積保管場Ⅰ	固体集積保管場Ⅰ	管理機能	設備により維持可能	代替設備・機器は不要 (立地条件より、影響を受けないことから、安全機能は維持される)	代替設備・機器は不要 (対象となる貯槽はないことから、安全機能は維持される)
	自動火災報知設備	火災による損傷の防止機能	(信号が途絶えると複合火災受信機で警報が発報するので要員による監視に移行するため代替設備不要)		
	消火器	火災による損傷の防止機能	設備により維持可能		
	電気設備	電源機能	設備により維持可能		
	加入電話、所内内線	通信連絡機能	設備により維持可能		
	放送設備、ページング設備				
固体集積保管場Ⅱ	固体集積保管場Ⅱ	管理機能	設備により維持可能	代替設備・機器は不要 (立地条件より、影響を受けないことから、安全機能は維持される)	代替設備・機器は不要 (対象となる貯槽はないことから、安全機能は維持される)
	自動火災報知設備	火災による損傷の防止機能	設備により維持可能		
	消火器	電源機能	設備により維持可能		
	電気設備				
	加入電話、所内内線	通信連絡機能	設備により維持可能		
	放送設備、ページング設備				
固体集積保管場Ⅲ	固体集積保管場Ⅲ	管理機能	設備により維持可能	代替設備・機器は不要 (立地条件より、影響を受けないことから、安全機能は維持される)	代替設備・機器は不要 (対象となる貯槽はないことから、安全機能は維持される)
	自動火災報知設備	火災による損傷の防止機能	設備により維持可能		
	消火器	電源機能	設備により維持可能		
	電気設備				
	加入電話、所内内線	通信連絡機能	設備により維持可能		
	放送設備、ページング設備				
固体集積保管場Ⅳ	固体集積保管場Ⅳ	管理機能	設備により維持可能	代替設備・機器は不要 (立地条件より、影響を受けないことから、安全機能は維持される)	代替設備・機器は不要 (対象となる貯槽はないことから、安全機能は維持される)
	自動火災報知設備	火災による損傷の防止機能	設備により維持可能		
	屋内消火栓設備				
	消火器	電源機能	設備により維持可能		
	電気設備				
	加入電話、所内内線	通信連絡機能	設備により維持可能		
放送設備、ページング設備					

表2-1 外部事象に対する代替設備・機器及び施設の運転の停止（人為事象（故意によるものを除く。））

施設区分	既存の設備及び機器	安全機能	人為事象（故意によるものを除く。）		
			飛来物（航空機落下等）	ダムの崩壊	施設内貯槽の決壊
α 固体貯蔵施設	α 固体貯蔵施設	管理機能	設備により維持可能	代替設備・機器は不要 (立地条件より、影響を受けないことから、安全機能は維持される)	代替設備・機器は不要 (対象となる貯槽はないことから、安全機能は維持される)
	放射線監視設備（屋内）	放射線管理機能	設備により維持可能		
	放射線監視設備（屋外）				
	管理区域系排気設備	廃棄機能	運転を停止するため代替設備・機器は不要		
	排気口				
	電気設備	電源機能	設備により維持可能		
	自動火災報知設備	火災による損傷の防止機能	(信号が途絶えると複合火災受信機で警報が発報するので要員による監視に移行するため代替設備不要)		
	消火器	火災による損傷の防止機能	設備により維持可能		
	加入電話、所内内線 放送設備、ページング設備	通信連絡機能	設備により維持可能		
廃液貯留施設 I	出入管理関係設備			代替設備・機器は不要 (立地条件より、影響を受けないことから、安全機能は維持される)	代替設備・機器は不要 (堰、ピット内に貯留することができること、内面ライニングの外側で滞留し、漏えい検知器で漏えいを検知し、他貯槽移送することから、安全機能は維持される)
	放射線監視設備（屋内）	放射線管理機能	設備により維持可能		
	放射線監視設備（屋外）				
	管理区域系排気設備	廃棄機能	運転を停止するため代替設備・機器は不要		
	排気口				
	処理済廃液貯槽計測設備	計測制御機能	設備により維持可能		
	廃液貯槽 I 計測設備				
	電気設備	電源機能	設備により維持可能		
	自動火災報知設備	火災による損傷の防止機能	(信号が途絶えると複合火災受信機で警報が発報するので要員による監視に移行するため代替設備不要)		
	消火器	火災による損傷の防止機能	設備により維持可能		
放送設備、ページング設備	通信連絡機能	設備により維持可能			
廃液貯留施設 I (廃棄物管理施設用廃液貯槽)	廃棄物管理施設用廃液貯槽	廃棄機能	設備により維持可能	代替設備・機器は不要 (立地条件より、影響を受けないことから、安全機能は維持される)	代替設備・機器は不要 (内面ライニングの外側で滞留し、漏えい検知器で漏えいを検知し、他貯槽移送することから、安全機能は維持される)
	廃棄物管理施設用廃液貯槽計測設備	計測制御機能	設備により維持可能		
	電気設備	電源機能	設備により維持可能		
	自動火災報知設備	火災による損傷の防止機能	(信号が途絶えると複合火災受信機で警報が発報するので要員による監視に移行するため代替設備不要)		
	消火器	火災による損傷の防止機能	設備により維持可能		
	放送設備、ページング設備	通信連絡機能	設備により維持可能		

表2-1 外部事象に対する代替設備・機器及び施設の運転の停止（人為事象（故意によるものを除く。））

施設区分	既存の設備及び機器	安全機能	人為事象（故意によるものを除く。）		
			飛来物（航空機落下等）	ダムの崩壊	施設内貯槽の決壊
廃液貯留施設Ⅱ	放射線監視設備（屋内）	放射線管理機能	設備により維持可能	代替設備・機器は不要 （立地条件より、影響を受けないことから、安全機能は維持される）	代替設備・機器は不要 （貯槽の下部の受槽で貯留すること、内面ライニングの外側で滞留し、漏えい検知器で漏えいを検知し、他貯槽移送することから、安全機能は維持される）
	放射線監視設備（屋外）				
	管理区域系排気設備	廃棄機能	運転を停止するため代替設備・機器は不要		
	排気口				
	廃液貯槽Ⅱ計測設備	計測制御機能	設備により維持可能		
	電気設備	電源機能	設備により維持可能		
	自動火災報知設備	火災による損傷の防止機能	設備により維持可能		
	消火器				
放送設備、ページング設備	通信連絡機能	設備により維持可能			
β・γ一時格納庫Ⅰ	出入管理関係設備	放射線管理機能	設備により維持可能	代替設備・機器は不要 （立地条件より、影響を受けないことから、安全機能は維持される）	代替設備・機器は不要 （対象となる貯槽はないことから、安全機能は維持される）
	放射線監視設備（屋内）				
	放射線監視設備（屋外）				
	管理区域系排気設備	廃棄機能	運転を停止するため代替設備・機器は不要		
	電気設備	電源機能	設備により維持可能 （信号が途絶えると複合火災受信機で警報が発報するので要員による監視に移行するため代替設備不要）		
	自動火災報知設備	火災による損傷の防止機能	設備により維持可能		
	消火器	火災による損傷の防止機能	設備により維持可能		
放送設備、ページング設備	通信連絡機能	設備により維持可能			
α一時格納庫	出入管理関係設備	放射線管理機能	設備により維持可能	代替設備・機器は不要 （立地条件より、影響を受けないことから、安全機能は維持される）	代替設備・機器は不要 （対象となる貯槽はないことから、安全機能は維持される）
	放射線監視設備（屋内）				
	放射線監視設備（屋外）				
	管理区域系排気設備	廃棄機能	運転を停止するため代替設備・機器は不要		
	排気口				
	電気設備	電源機能	設備により維持可能 （信号が途絶えると複合火災受信機で警報が発報するので要員による監視に移行するため代替設備不要）		
	自動火災報知設備	火災による損傷の防止機能	設備により維持可能		
	ガス消火設備	火災による損傷の防止機能	設備により維持可能		
消火器					
放送設備、ページング設備	通信連絡機能	設備により維持可能			

表2-1 外部事象に対する代替設備・機器及び施設の運転の停止（人為事象（故意によるものを除く。））

施設区分	既存の設備及び機器	安全機能	人為事象（故意によるものを除く。）		
			飛来物（航空機落下等）	ダムの崩壊	施設内貯槽の決壊
管理機械棟	分析フード	処理機能	運転を停止するため代替設備・機器は不要	代替設備・機器は不要 (立地条件より、影響を受けないことから、安全機能は維持される)	代替設備・機器は不要 (対象となる貯槽はないことから、安全機能は維持される)
	集中監視設備	計測制御機能	設備により維持可能		
	出入管理関係設備	放射線管理機能	設備により維持可能		
	放射線監視設備（屋内）				
	放射線監視設備（屋外）	放射線管理機能	設備により維持可能		
	個人管理用設備				
	管理区域系排気設備	廃棄機能	運転を停止するため代替設備・機器は不要		
	排気口	電源機能	設備により維持可能		
	電気設備				
	自動火災報知設備	火災による損傷の防止機能	(信号が途絶えると複合火災受信機で警報が発報するので要員による監視に移行するため代替設備不要)		
	消火器	火災による損傷の防止機能	設備により維持可能		
	加入電話、所内内線	通信連絡機能	設備により維持可能		
	放送設備、ページング設備				
固体廃棄物減容処理施設	減容処理設備（搬出入室）	処理機能	運転を停止するため代替設備・機器は不要	代替設備・機器は不要 (立地条件より、影響を受けないことから、安全機能は維持される)	代替設備・機器は不要 (堰、ピット内に貯留することができること、内面ライニングの外側で滞留し、漏えい検知器で漏えいを検知し、他貯槽移送することから、安全機能は維持される)
	減容処理設備（前処理セル(開缶エリア、分別エリア)）				
	減容処理設備（焼却熔融セル）				
	減容処理設備（保守ホール）				
	固体廃棄物減容処理施設廃液貯槽	廃棄機能	運転を停止するため代替設備・機器は不要		
	セル系排気設備				
	グローブボックス系排気設備				
	予備系排気設備				
	フード系排気設備				
	管理区域系排気設備				
	固体廃棄物減容処理施設排気筒				
	計測制御設備				
	集中監視設備	放射線管理機能	設備により維持可能		
	出入管理関係設備				
	放射線監視設備（屋内）				
	個人管理用設備				
	放射線監視設備（屋外）	電源機能	設備により維持可能		
	電気設備				
	自動火災報知設備	火災による損傷の防止機能	(信号が途絶えると複合火災受信機で警報が発報するので要員による監視に移行するため代替設備不要)		
	屋内消火栓設備		設備により維持可能		
	ガス消火設備		設備により維持可能		
	消火器		設備により維持可能		
	加入電話、所内内線		通信連絡機能		
放送設備、ページング設備					

表2-2 外部事象に対する代替設備・機器及び施設の運転の停止（人為事象（故意によるものを除く。））

施設区分	既存の設備及び機器	安全機能	人為事象（故意によるものを除く。）						
			近隣工場等の火災・爆発	有毒ガス	船舶	電磁波障害			
廃液処理棟	廃液蒸発装置Ⅰ	処理機能	運転を停止するため代替設備・機器は不要	運転を停止するため代替設備・機器は不要	代替設備・機器は不要 (調査結果から、船舶の航路から十分離れているため、影響を受けないことから、安全機能は維持される)	代替設備・機器は不要 (電波障害を受ける機器はないため、安全機能は維持される)			
	廃液蒸発装置Ⅱ								
	セメント固化装置								
	出入管理関係設備	放射線管理機能	設備により維持される	設備により維持される					
	放射線監視設備								
	管理区域系排気設備	廃棄機能	運転を停止するため代替設備・機器は不要	運転を停止するため代替設備・機器は不要					
	排気口								
	セメント固化装置計測制御設備	計測制御機能	設備により維持される	設備により維持される					
	電気設備	電源機能	設備により維持される	設備により維持される					
	自動火災報知設備	火災による損傷の防止機能	(信号が途絶えると複合火災受信機で警報が発報するので要員による監視に移行するため代替設備不要)	(信号が途絶えると複合火災受信機で警報が発報するので要員による監視に移行するため代替設備不要)					
	消火器	火災による損傷の防止機能	設備により維持される	設備により維持される					
	加入電話、所内内線	通信連絡機能	設備により維持される	設備により維持される					
	放送設備、ページング設備								
排水監視施設	排水監視設備	処理機能	運転を停止するため代替設備・機器は不要	運転を停止するため代替設備・機器は不要	代替設備・機器は不要 (調査結果から、船舶の航路から十分離れているため、影響を受けないことから、安全機能は維持される)	代替設備・機器は不要 (電波障害を受ける機器はないため、安全機能は維持される)			
	放射線監視設備（屋外）	放射線管理機能	設備により維持される	設備により維持される					
	排水口	廃棄機能	放出排水であることから代替設備不要	放出排水であることから代替設備不要					
	排水監視設備計測設備	計測制御機能	設備により維持される	設備により維持される					
	電気設備	電源機能	設備により維持される	設備により維持される					
	自動火災報知設備	火災による損傷の防止機能	(信号が途絶えると複合火災受信機で警報が発報するので要員による監視に移行するため代替設備不要)	(信号が途絶えると複合火災受信機で警報が発報するので要員による監視に移行するため代替設備不要)					
	消火器	火災による損傷の防止機能	設備により維持される	設備により維持される					
	放送設備、ページング設備	通信連絡機能	設備により維持される	設備により維持される					
	β・γ固体処理棟Ⅰ	天井クレーン	処理機能	運転を停止するため代替設備・機器は不要			運転を停止するため代替設備・機器は不要	代替設備・機器は不要 (調査結果から、船舶の航路から十分離れているため、影響を受けないことから、安全機能は維持される)	代替設備・機器は不要 (電波障害を受ける機器はないため、安全機能は維持される)
		β・γ圧縮装置Ⅰ	放射線管理機能	設備により維持される			設備により維持される		
出入管理関係設備									
放射線監視設備（屋内）									
放射線監視設備（屋外）		廃棄機能	運転を停止するため代替設備・機器は不要	運転を停止するため代替設備・機器は不要					
管理区域系排気設備									
排気口		電源機能	設備により維持可能	設備により維持可能					
電気設備									
自動火災報知設備		火災による損傷の防止機能	(信号が途絶えると複合火災受信機で警報が発報するので要員による監視に移行するため代替設備不要)	(信号が途絶えると複合火災受信機で警報が発報するので要員による監視に移行するため代替設備不要)					
消火器		火災による損傷の防止機能	設備により維持される	設備により維持される					
加入電話、所内内線		通信連絡機能	設備により維持される	設備により維持される					
放送設備、ページング設備									

表2-2 外部事象に対する代替設備・機器及び施設の運転の停止（人為事象（故意によるものを除く。））

施設区分	既存の設備及び機器	安全機能	人為事象（故意によるものを除く。）			
			近隣工場等の火災・爆発	有毒ガス	船舶	電磁波障害
β・γ 固体処理棟Ⅱ	天井クレーン	処理機能	運転を停止するため代替設備・機器は不要	運転を停止するため代替設備・機器は不要	代替設備・機器は不要 (調査結果から、船舶の航路から十分離れているため、影響を受けないことから、安全機能は維持される)	代替設備・機器は不要 (電波障害を受ける機器はないため、安全機能は維持される)
	β・γ 圧縮装置Ⅱ					
	放射線監視設備（屋内）	放射線管理機能	設備により維持される	設備により維持される		
	放射線監視設備（屋外）					
	管理区域系排気設備	廃棄機能	運転を停止するため代替設備・機器は不要	運転を停止するため代替設備・機器は不要		
	排気口					
	電気設備	電源機能	設備により維持可能	設備により維持可能		
	自動火災報知設備	火災による損傷の防止機能	(信号が途絶えると複合火災受信機で警報が発報するので要員による監視に移行するため代替設備不要)	(信号が途絶えると複合火災受信機で警報が発報するので要員による監視に移行するため代替設備不要)		
	消火器	火災による損傷の防止機能	設備により維持される	設備により維持される		
	放送設備、ページング設備	通信連絡機能	設備により維持される	設備により維持される		
β・γ 固体処理棟Ⅲ	天井クレーン	処理機能	運転を停止するため代替設備・機器は不要	運転を停止するため代替設備・機器は不要	代替設備・機器は不要 (調査結果から、船舶の航路から十分離れているため、影響を受けないことから、安全機能は維持される)	代替設備・機器は不要 (電波障害を受ける機器はないため、安全機能は維持される)
	β・γ 焼却装置					
	管理区域系排気設備	廃棄機能	運転を停止するため代替設備・機器は不要	運転を停止するため代替設備・機器は不要		
	β・γ 固体処理棟Ⅲ排気筒					
	β・γ 固体処理棟Ⅲ廃液貯槽	廃棄機能	設備により維持可能	設備により維持可能		
	出入管理関係設備	放射線管理機能	設備により維持可能	設備により維持可能		
	β・γ 焼却装置温度計制御設備	計測制御機能	設備により維持可能	設備により維持可能		
	β・γ 焼却装置圧力計制御設備					
	放射線監視設備（屋内）	放射線管理機能	設備により維持可能	設備により維持可能		
	放射線監視設備（屋外）					
	電気設備	電源機能	設備により維持可能	設備により維持可能		
	自動火災報知設備	火災による損傷の防止機能	(信号が途絶えると複合火災受信機で警報が発報するので要員による監視に移行するため代替設備不要)	(信号が途絶えると複合火災受信機で警報が発報するので要員による監視に移行するため代替設備不要)		
	屋内消火栓設備	火災による損傷の防止機能	設備により維持可能	設備により維持可能		
	消火器					
	加入電話、所内内線	通信連絡機能	設備により維持可能	設備により維持可能		
放送設備、ページング設備						

表2-2 外部事象に対する代替設備・機器及び施設の運転の停止（人為事象（故意によるものを除く。））

施設区分	既存の設備及び機器	安全機能	人為事象（故意によるものを除く。）			
			近隣工場等の火災・爆発	有毒ガス	船舶	電磁波障害
β・γ 固体処理棟Ⅳ	天井クレーン	処理機能	運転を停止するため代替設備・機器は不要	運転を停止するため代替設備・機器は不要	代替設備・機器は不要 (調査結果から、船舶の航路から十分離れているため、影響を受けないことから、安全機能は維持される)	代替設備・機器は不要 (電波障害を受ける機器はないため、安全機能は維持される)
	β・γ 封入設備					
	β・γ 貯蔵セル					
	セル系排気設備	廃棄機能	運転を停止するため代替設備・機器は不要	運転を停止するため代替設備・機器は不要		
	管理区域系排気設備					
	排気口					
	β・γ 封入設備圧力計測制御設備	計測制御機能	設備により維持可能	設備により維持可能		
	β・γ 貯蔵セル圧力計測制御設備					
	出入管理関係設備	放射線管理機能	設備により維持可能	設備により維持可能		
	放射線監視設備（屋内）					
	放射線監視設備（屋外）					
	自動火災報知設備	火災による損傷の防止機能	(信号が途絶えると複合火災受信機で警報が発報するので要員による監視に移行するため代替設備不要)	(信号が途絶えると複合火災受信機で警報が発報するので要員による監視に移行するため代替設備不要)		
	ガス消火設備	火災による損傷の防止機能	設備により維持可能	設備により維持可能		
	消火器	火災による損傷の防止機能	設備により維持可能	設備により維持可能		
	・電気設備	電源機能	設備により維持可能	設備により維持可能		
加入電話、所内内線	通信連絡機能	設備により維持可能	設備により維持可能			
放送設備、ページング設備						
α 固体処理棟	天井クレーン	処理機能	運転を停止するため代替設備・機器は不要	運転を停止するため代替設備・機器は不要	代替設備・機器は不要 (調査結果から、船舶の航路から十分離れているため、影響を受けないことから、安全機能は維持される)	代替設備・機器は不要 (電波障害を受ける機器はないため、安全機能は維持される)
	α 封入設備					
	α 焼却装置					
	α ホール設備	廃棄機能	運転を停止するため代替設備・機器は不要	運転を停止するため代替設備・機器は不要		
	セル系排気設備					
	管理区域系排気設備					
	α 固体処理棟排気筒	廃棄機能	設備により維持可能	設備により維持可能		
	α 固体処理棟予備処理装置					
	α 焼却装置温度計測制御設備					
	α 焼却装置圧力計測制御設備	計測制御機能	設備により維持可能	設備により維持可能		
	α ホール設備圧力計測制御設備					
	α 封入設備圧力計測制御設備	放射線管理機能	設備により維持可能	設備により維持可能		
	出入管理関係設備					
	放射線監視設備（屋内）					
	放射線監視設備（屋外）	電源機能	設備により維持可能	設備により維持可能		
	電気設備					
	自動火災報知設備					
	屋内消火栓設備	火災による損傷の防止機能	設備により維持可能	設備により維持可能		
	ガス消火設備					
	消火器					
加入電話、所内内線	通信連絡機能	設備により維持可能	設備により維持可能			
放送設備、ページング設備						

表2-2 外部事象に対する代替設備・機器及び施設の運転の停止（人為事象（故意によるものを除く。））

施設区分	既存の設備及び機器	安全機能	人為事象（故意によるものを除く。）			
			近隣工場等の火災・爆発	有毒ガス	船舶	電磁波障害
固体集積保管場Ⅰ	固体集積保管場Ⅰ	管理機能	設備により維持可能	設備により維持可能	代替設備・機器は不要 (調査結果から、船舶の航路から十分離れているため、影響を受けないことから、安全機能は維持される)	代替設備・機器は不要 (電波障害を受ける機器はないため、安全機能は維持される)
	自動火災報知設備	火災による損傷の防止機能	(信号が途絶えると複合火災受信機で警報が発報するので要員による監視に移行するため代替設備不要)	(信号が途絶えると複合火災受信機で警報が発報するので要員による監視に移行するため代替設備不要)		
	消火器	火災による損傷の防止機能	設備により維持可能	設備により維持可能		
	電気設備	電源機能	設備により維持可能	設備により維持可能		
	加入電話、所内内線 放送設備、ページング設備	通信連絡機能	設備により維持可能	設備により維持可能		
固体集積保管場Ⅱ	固体集積保管場Ⅱ	管理機能	設備により維持可能	設備により維持可能	代替設備・機器は不要 (調査結果から、船舶の航路から十分離れているため、影響を受けないことから、安全機能は維持される)	代替設備・機器は不要 (電波障害を受ける機器はないため、安全機能は維持される)
	自動火災報知設備	火災による損傷の防止機能	設備により維持可能	設備により維持可能		
	消火器	火災による損傷の防止機能	設備により維持可能	設備により維持可能		
	電気設備	電源機能	設備により維持可能	設備により維持可能		
	加入電話、所内内線 放送設備、ページング設備	通信連絡機能	設備により維持可能	設備により維持可能		
固体集積保管場Ⅲ	固体集積保管場Ⅲ	管理機能	設備により維持可能	設備により維持可能	代替設備・機器は不要 (調査結果から、船舶の航路から十分離れているため、影響を受けないことから、安全機能は維持される)	代替設備・機器は不要 (電波障害を受ける機器はないため、安全機能は維持される)
	自動火災報知設備	火災による損傷の防止機能	設備により維持可能	設備により維持可能		
	消火器	火災による損傷の防止機能	設備により維持可能	設備により維持可能		
	電気設備	電源機能	設備により維持可能	設備により維持可能		
	加入電話、所内内線 放送設備、ページング設備	通信連絡機能	設備により維持可能	設備により維持可能		
固体集積保管場Ⅳ	固体集積保管場Ⅳ	管理機能	設備により維持可能	設備により維持可能	代替設備・機器は不要 (調査結果から、船舶の航路から十分離れているため、影響を受けないことから、安全機能は維持される)	代替設備・機器は不要 (電波障害を受ける機器はないため、安全機能は維持される)
	自動火災報知設備	火災による損傷の防止機能	設備により維持可能	設備により維持可能		
	屋内消火栓設備					
	消火器	電源機能	設備により維持可能	設備により維持可能		
	電気設備					
加入電話、所内内線 放送設備、ページング設備	通信連絡機能	設備により維持可能	設備により維持可能			

表2-2 外部事象に対する代替設備・機器及び施設の運転の停止（人為事象（故意によるものを除く。））

施設区分	既存の設備及び機器	安全機能	人為事象（故意によるものを除く。）			
			近隣工場等の火災・爆発	有毒ガス	船舶	電磁波障害
α 固体貯蔵施設	α 固体貯蔵施設	管理機能	設備により維持可能	設備により維持可能	代替設備・機器は不要 (調査結果から、船舶の航路から十分離れているため、影響を受けないことから、安全機能は維持される)	代替設備・機器は不要 (電波障害を受ける機器はないため、安全機能は維持される)
	放射線監視設備（屋内）	放射線管理機能	設備により維持可能	設備により維持可能		
	放射線監視設備（屋外）		設備により維持可能	設備により維持可能		
	管理区域系排気設備	廃棄機能	運転を停止するため代替設備・機器は不要	運転を停止するため代替設備・機器は不要		
	排気口					
	電気設備	電源機能	設備により維持可能	設備により維持可能		
	自動火災報知設備	火災による損傷の防止機能	(信号が途絶えると複合火災受信機で警報が発報するので要員による監視に移行するため代替設備不要)	(信号が途絶えると複合火災受信機で警報が発報するので要員による監視に移行するため代替設備不要)		
	消火器	火災による損傷の防止機能	設備により維持可能	設備により維持可能		
	加入電話、所内内線	通信連絡機能	設備により維持可能	設備により維持可能		
放送設備、ページング設備	設備により維持可能		設備により維持可能			
廃液貯留施設 I	出入管理関係設備				代替設備・機器は不要 (調査結果から、船舶の航路から十分離れているため、影響を受けないことから、安全機能は維持される)	代替設備・機器は不要 (電波障害を受ける機器はないため、安全機能は維持される)
	放射線監視設備（屋内）	放射線管理機能	設備により維持可能	設備により維持可能		
	放射線監視設備（屋外）		設備により維持可能	設備により維持可能		
	管理区域系排気設備	廃棄機能	運転を停止するため代替設備・機器は不要	運転を停止するため代替設備・機器は不要		
	排気口					
	処理済廃液貯槽計測設備	計測制御機能	設備により維持可能	設備により維持可能		
	廃液貯槽 I 計測設備		設備により維持可能	設備により維持可能		
	電気設備	電源機能	設備により維持可能	設備により維持可能		
	自動火災報知設備	火災による損傷の防止機能	(信号が途絶えると複合火災受信機で警報が発報するので要員による監視に移行するため代替設備不要)	(信号が途絶えると複合火災受信機で警報が発報するので要員による監視に移行するため代替設備不要)		
消火器	火災による損傷の防止機能	設備により維持可能	設備により維持可能			
放送設備、ページング設備	通信連絡機能	設備により維持可能	設備により維持可能			
廃液貯留施設 I (廃棄物管理施設用廃液貯槽)	廃棄物管理施設用廃液貯槽	廃棄機能	設備により維持可能	設備により維持可能	代替設備・機器は不要 (調査結果から、船舶の航路から十分離れているため、影響を受けないことから、安全機能は維持される)	代替設備・機器は不要 (電波障害を受ける機器はないため、安全機能は維持される)
	廃棄物管理施設用廃液貯槽計測設備	計測制御機能	設備により維持可能	設備により維持可能		
	電気設備	電源機能	設備により維持可能	設備により維持可能		
	自動火災報知設備	火災による損傷の防止機能	(信号が途絶えると複合火災受信機で警報が発報するので要員による監視に移行するため代替設備不要)	(信号が途絶えると複合火災受信機で警報が発報するので要員による監視に移行するため代替設備不要)		
	消火器	火災による損傷の防止機能	設備により維持可能	設備により維持可能		
	放送設備、ページング設備	通信連絡機能	設備により維持可能	設備により維持可能		

表2-2 外部事象に対する代替設備・機器及び施設の運転の停止（人為事象（故意によるものを除く。））

施設区分	既存の設備及び機器	安全機能	人為事象（故意によるものを除く。）			
			近隣工場等の火災・爆発	有毒ガス	船舶	電磁波障害
廃液貯留施設Ⅱ	放射線監視設備（屋内）	放射線管理機能	設備により維持可能	設備により維持可能	代替設備・機器は不要 （調査結果から、船舶の航路から十分離れているため、影響を受けないことから、安全機能は維持される）	代替設備・機器は不要 （電波障害を受ける機器はないため、安全機能は維持される）
	放射線監視設備（屋外）		設備により維持可能	設備により維持可能		
	管理区域系排気設備	廃棄機能	運転を停止するため代替設備・機器は不要	運転を停止するため代替設備・機器は不要		
	排気口		運転を停止するため代替設備・機器は不要	運転を停止するため代替設備・機器は不要		
	廃液貯槽Ⅱ計測設備	計測制御機能	設備により維持可能	設備により維持可能		
	電気設備	電源機能	設備により維持可能	設備により維持可能		
	自動火災報知設備	火災による損傷の防止機能	設備により維持可能	設備により維持可能		
	消火器		設備により維持可能	設備により維持可能		
放送設備、ページング設備	通信連絡機能	設備により維持可能	設備により維持可能			
β・γ一時格納庫Ⅰ	出入管理関係設備	放射線管理機能	設備により維持可能	設備により維持可能	代替設備・機器は不要 （調査結果から、船舶の航路から十分離れているため、影響を受けないことから、安全機能は維持される）	代替設備・機器は不要 （電波障害を受ける機器はないため、安全機能は維持される）
	放射線監視設備（屋内）		設備により維持可能	設備により維持可能		
	放射線監視設備（屋外）	設備により維持可能	設備により維持可能			
	管理区域系排気設備	廃棄機能	運転を停止するため代替設備・機器は不要	運転を停止するため代替設備・機器は不要		
	電気設備		電源機能	設備により維持可能		
	自動火災報知設備	火災による損傷の防止機能	（信号が途絶えると複合火災受信機で警報が発報するので要員による監視に移行するため代替設備不要）	（信号が途絶えると複合火災受信機で警報が発報するので要員による監視に移行するため代替設備不要）		
	消火器		設備により維持可能	設備により維持可能		
	放送設備、ページング設備	通信連絡機能	設備により維持可能	設備により維持可能		
α一時格納庫	出入管理関係設備	放射線管理機能	設備により維持可能	設備により維持可能	代替設備・機器は不要 （調査結果から、船舶の航路から十分離れているため、影響を受けないことから、安全機能は維持される）	代替設備・機器は不要 （電波障害を受ける機器はないため、安全機能は維持される）
	放射線監視設備（屋内）		設備により維持可能	設備により維持可能		
	放射線監視設備（屋外）	設備により維持可能	設備により維持可能			
	管理区域系排気設備	廃棄機能	運転を停止するため代替設備・機器は不要	運転を停止するため代替設備・機器は不要		
	排気口		運転を停止するため代替設備・機器は不要	運転を停止するため代替設備・機器は不要		
	電気設備	電源機能	設備により維持可能	設備により維持可能		
	自動火災報知設備	火災による損傷の防止機能	（信号が途絶えると複合火災受信機で警報が発報するので要員による監視に移行するため代替設備不要）	（信号が途絶えると複合火災受信機で警報が発報するので要員による監視に移行するため代替設備不要）		
	ガス消火設備		設備により維持可能	設備により維持可能		
消火器	火災による損傷の防止機能	設備により維持可能	設備により維持可能			
放送設備、ページング設備	通信連絡機能	設備により維持可能	設備により維持可能			

表2-2 外部事象に対する代替設備・機器及び施設の運転の停止（人為事象（故意によるものを除く。））

施設区分	既存の設備及び機器	安全機能	人為事象（故意によるものを除く。）			
			近隣工場等の火災・爆発	有毒ガス	船舶	電磁波障害
管理機械棟	分析フード	処理機能	運転を停止するため代替設備・機器は不要	運転を停止するため代替設備・機器は不要	代替設備・機器は不要 (調査結果から、船舶の航路から十分離れているため、影響を受けないことから、安全機能は維持される)	代替設備・機器は不要 (電波障害を受ける機器はないため、安全機能は維持される)
	集中監視設備	計測制御機能	設備により維持可能	設備により維持可能		
	出入管理関係設備					
	放射線監視設備（屋内）	放射線管理機能	設備により維持可能	設備により維持可能		
	放射線監視設備（屋外）					
	個人管理用設備	放射線管理機能	設備により維持可能	設備により維持可能		
	管理区域系排気設備	廃棄機能	運転を停止するため代替設備・機器は不要	運転を停止するため代替設備・機器は不要		
	排気口					
	電気設備	電源機能	設備により維持可能	設備により維持可能		
	自動火災報知設備	火災による損傷の防止機能	(信号が途絶えると複合火災受信機で警報が発報するので要員による監視に移行するため代替設備不要)	(信号が途絶えると複合火災受信機で警報が発報するので要員による監視に移行するため代替設備不要)		
	消火器	火災による損傷の防止機能	設備により維持可能	設備により維持可能		
	加入電話、所内内線					
	放送設備、ページング設備	通信連絡機能	設備により維持可能	設備により維持可能		
	固体廃棄物減容処理施設	減容処理設備（搬入室）	処理機能	運転を停止するため代替設備・機器は不要		
減容処理設備（前処理セル(開缶エリア、分別エリア)）						
減容処理設備（焼却熔融セル）						
減容処理設備（保守ホール）						
固体廃棄物減容処理施設廃液貯槽		廃棄機能	運転を停止するため代替設備・機器は不要	運転を停止するため代替設備・機器は不要		
セル系排気設備						
グローブボックス系排気設備						
予備系排気設備						
フード系排気設備						
管理区域系排気設備						
固体廃棄物減容処理施設排気筒						
計測制御設備		計測制御機能	設備により維持可能	設備により維持可能		
集中監視設備						
出入管理関係設備						
放射線監視設備（屋内）		放射線管理機能	設備により維持可能	設備により維持可能		
個人管理用設備			設備により維持可能	設備により維持可能		
放射線監視設備（屋外）			設備により維持可能	設備により維持可能		
電気設備		電源機能	設備により維持可能	設備により維持可能		
自動火災報知設備			(信号が途絶えると複合火災受信機で警報が発報するので要員による監視に移行するため代替設備不要)	(信号が途絶えると複合火災受信機で警報が発報するので要員による監視に移行するため代替設備不要)		
屋内消火栓設備		火災による損傷の防止機能	設備により維持可能	設備により維持可能		
ガス消火設備			設備により維持可能	設備により維持可能		
消火器			設備により維持可能	設備により維持可能		
加入電話、所内内線						
放送設備、ページング設備		通信連絡機能	設備により維持可能	設備により維持可能		

廃棄物管理事業変更許可申請の審査を踏まえた見直し方針

	既許可 (原規発第 1808221 号 平成 30 年 8 月 22 日)	本申請書 (令 04 原機(環境)010 令和 4 年 4 月 28 日)	見直し方針																																														
本文	<p>1 名称及び住所並びに代表者の氏名 (略)</p> <p>2 廃棄物管理設備及びその附属施設を設置する事業所の名称及び所在地 (略)</p> <p>3 廃棄する核燃料物質又は核燃料物質によって汚染された物の性状及び量 (略)</p> <p>4 廃棄物管理施設の位置、構造及び設備並びに廃棄の方法 A 廃棄物管理施設の位置、構造及び設備 イ 廃棄物管理施設の位置 (略) ロ 廃棄物管理施設の一般構造 (略) (6) その他の主要な構造 廃棄物管理施設は、以下の方針のもとに安全設計を行う。 a) 廃棄物管理施設は、<u>敷地で予想される台風、積雪、火山、森林火災等の自然現象及び飛来物その他の外部衝撃の影響により安全性を損なうことのない設計とする。</u></p> <p>(略)</p> <p>5 廃棄物管理施設の工事計画 (略) 廃液処理棟の改修</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">年 度</th> <th>平成30年度</th> <th>平成31年度</th> <th>平成32年度</th> <th>平成33年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">廃液処理棟</td> <td>建物</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>主要工程</td> <td colspan="4" style="text-align: center;">—————</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p><u>β・γ 固体処理棟Ⅳの改修</u> <u>固体集積保管場Ⅰの改修</u> <u>α 一時格納庫の改修</u> <u>廃液貯留施設の改修</u> <u>有機廃液一時格納庫の改修</u></p>	年 度		平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度	廃液処理棟	建物					主要工程	—————					<p>1 名称及び住所並びに代表者の氏名 (略)</p> <p>2 廃棄物管理設備及びその附属施設を設置する事業所の名称及び所在地 (略)</p> <p>3 廃棄する核燃料物質又は核燃料物質によって汚染された物の性状及び量 (略)</p> <p>4 廃棄物管理施設の位置、構造及び設備並びに廃棄の方法 A 廃棄物管理施設の位置、構造及び設備 イ 廃棄物管理施設の位置 (略) ロ 廃棄物管理施設の一般構造 (略) (6) その他の主要な構造 廃棄物管理施設は、以下の方針のもとに安全設計を行う。 a) 廃棄物管理施設は、<u>外部からの衝撃(想定される自然現象及び想定される廃棄物管理施設の安全性を損なわせる原因となるおそれがある事象であって人為によるもの(故意によるものを除く。))の影響により安全性を損なうことのない設計とする。外部からの衝撃により安全機能を喪失した際には、人員が駆けつけて、代替設備・機器を用いて機能を維持する。ただし、代替設備・機器を用いて機能を維持することができない設備・機器は、安全機能を損なうことのない設計とする。なお、遮蔽機能及び閉じ込め機能を有する設備並びに遠隔操作により消火を行うガス消火設備については、代替設備・機器を用いて速やかな機能維持ができないことから、公衆被ばくリスクに鑑み、安全性を損なうことのない設計とする。</u></p> <p>(略)</p> <p>5 廃棄物管理施設の工事計画 (略) 廃液処理棟の改修</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">年 度</th> <th>令和3年度</th> <th>令和4年度</th> <th>令和5年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">廃液処理棟</td> <td>建物</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>主要工程</td> <td></td> <td style="text-align: center;">—————</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>(削る) (削る) (削る) (削る) (削る)</p>	年 度		令和3年度	令和4年度	令和5年度	廃液処理棟	建物				主要工程		—————		<p>1 名称及び住所並びに代表者の氏名 (略)</p> <p>2 廃棄物管理設備及びその附属施設を設置する事業所の名称及び所在地 (略)</p> <p>3 廃棄する核燃料物質又は核燃料物質によって汚染された物の性状及び量 (略)</p> <p>4 廃棄物管理施設の位置、構造及び設備並びに廃棄の方法 A 廃棄物管理施設の位置、構造及び設備 イ 廃棄物管理施設の位置 (略) ロ 廃棄物管理施設の一般構造 (略) (6) その他の主要な構造 廃棄物管理施設は、以下の方針のもとに安全設計を行う。 a) 廃棄物管理施設は、<u>外部からの衝撃(想定される自然現象及び想定される廃棄物管理施設の安全性を損なわせる原因となるおそれがある事象であって人為によるもの(故意によるものを除く。))の影響により安全性を損なうことのない設計とする。</u></p> <p>(略)</p> <p>5 廃棄物管理施設の工事計画 (略) 廃液処理棟の改修</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">年 度</th> <th>令和3年度</th> <th>令和4年度</th> <th>令和5年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">廃液処理棟</td> <td>建物</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>主要工程</td> <td></td> <td style="text-align: center;">—————</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>(削る) (削る) (削る) (削る) (削る)</p>	年 度		令和3年度	令和4年度	令和5年度	廃液処理棟	建物				主要工程		—————	
年 度		平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度																																												
廃液処理棟	建物																																																
	主要工程	—————																																															
年 度		令和3年度	令和4年度	令和5年度																																													
廃液処理棟	建物																																																
	主要工程		—————																																														
年 度		令和3年度	令和4年度	令和5年度																																													
廃液処理棟	建物																																																
	主要工程		—————																																														

変更箇所：下線
「本申請書」と「見直し方針」の変更箇所：下線＋マーク表示

	既許可 (原規規発第 1808221 号 平成 30 年 8 月 22 日)	本申請書 (令 04 原機(環保)010 令和 4 年 4 月 28 日)	見直し方針
添付資料五 (安全設計) 第一条	<p>1.2 廃棄物管理施設の安全設計方針及びその適合 (略)</p> <p>第一条 (定義) 適合のための設計方針 第 1 項について (略) 第 2 項 1 号について 廃棄物管理施設は、施設の安全性を確保するために必要な安全機能を有する設計とする。廃棄物管理施設の「安全性」とは、公衆又は従事者に及ぼすおそれがある放射線障害を防止するため、放射性物質又は放射線が廃棄物管理施設を設置する事業所外へ放出されないことである。 廃棄物管理施設の安全性を確保するために必要な安全機能は、放射性液体及び固体廃棄物を処理又は管理している施設の特徴とその重要度に応じて、以下の 3 分類に分ける。</p> <p>① 直接的安全機能 廃棄物管理施設から放射性物質又は放射線の放出を直接的に防止している遮蔽機能及び閉じ込め機能</p> <p>② 支援的安全機能 直接的安全機能が外部からの衝撃により損なわれないよう支援する機能</p> <p>③ その他の安全機能 ①及び②以外の機能</p> <p>「廃棄物管理施設の位置、構造及び設備の基準に関する規則」の各条項は上記の 3 分類に該当すると考え、各条項に基づき設ける構築物（「建家」を指す。）、系統（「設備」(建家を構成するセルを含む)を指す。）及び機器を「安全機能を有する施設」とする。選定の考え方を図 1-1 に示す。また、図 1-1 のフローのとおり選定した結果、廃棄物管理施設のうち安全機能を有する施設は表 1-1 のとおりとなる。</p> <p>なお、廃棄物管理施設の保安のための重要度の分類を定め原子力安全に対する重要性に応じて、品質マネジメントシステムの要求事項の適用程度についてグレード分けを行う。 (略) <第一条まとめ資料> イ) 安全機能を有する施設について (第 1 条第 2 項 1 号) (略)</p>	<p>1.2 廃棄物管理施設の安全設計方針及びその適合 (略)</p> <p>第一条 (定義) 適合のための設計方針 第 1 項について (略) 第 2 項 1 号について 廃棄物管理施設は、施設の安全性を確保するために必要な安全機能を有する設計とする。廃棄物管理施設の「安全性」とは、公衆又は従事者に及ぼすおそれがある放射線障害を防止するため、放射性物質又は放射線が廃棄物管理施設を設置する事業所外へ放出されないことである。 廃棄物管理施設の安全性を確保するために必要な安全機能は、放射性液体及び固体廃棄物を処理又は管理している施設の特徴とその重要度に応じて、以下の 3 分類に分ける。</p> <p>① 直接的安全機能 廃棄物管理施設から放射性物質又は放射線の放出を直接的に防止している遮蔽機能及び閉じ込め機能</p> <p>② 支援的安全機能 直接的安全機能が外部からの衝撃により損なわれないよう支援する機能</p> <p>③ その他の安全機能 ①及び②以外の機能</p> <p>「廃棄物管理施設の位置、構造及び設備の基準に関する規則」の各条項は上記の 3 分類に該当すると考え、各条項に基づき設ける構築物（「建家」を指す。）、系統（「設備」(建家を構成するセルを含む)を指す。）及び機器を「安全機能を有する施設」とする。選定の考え方を図 1-1 に示す。また、図 1-1 のフローのとおり選定した結果、廃棄物管理施設のうち安全機能を有する施設は表 1-1 のとおりとなる。</p> <p>外部からの衝撃により安全機能を喪失した際には、人員が駆けつけて、代替設備・機器を用いて機能を維持する。ただし、代替設備・機器を用いて機能を維持することができない設備・機器は、安全機能を損なうことのない設計とする。 なお、遮蔽機能及び閉じ込め機能を有する設備並びに遠隔操作により消火を行うガス消火設備については、代替設備・機器を用いて速やかな機能維持ができないことから、公衆被ばくのリスクに鑑み、安全性を損なうことのない設計とする。</p> <p>なお、廃棄物管理施設の保安のための重要度の分類を定め原子力安全に対する重要性に応じて、品質マネジメントシステムの要求事項の適用程度についてグレード分けを行う。 (略) <第一条まとめ資料> イ) 安全機能を有する施設について (第 1 条第 2 項 1 号) (略)</p>	<p>1.2 廃棄物管理施設の安全設計方針及びその適合 (略)</p> <p>第一条 (定義) 適合のための設計方針 第 1 項について (略) 第 2 項 1 号について 廃棄物管理施設は、施設の安全性を確保するために必要な安全機能を有する設計とする。廃棄物管理施設の「安全性」とは、公衆又は従事者に及ぼすおそれがある放射線障害を防止するため、放射性物質又は放射線が廃棄物管理施設を設置する事業所外へ放出されないことである。 廃棄物管理施設の安全性を確保するために必要な安全機能は、放射性液体及び固体廃棄物を処理又は管理している施設の特徴とその重要度に応じて、以下の 3 分類に分ける。</p> <p>① 直接的安全機能 廃棄物管理施設から放射性物質又は放射線の放出を直接的に防止している遮蔽機能及び閉じ込め機能</p> <p>② 支援的安全機能 直接的安全機能が外部からの衝撃により損なわれないよう支援する機能</p> <p>③ その他の安全機能 ①及び②以外の機能</p> <p>「廃棄物管理施設の位置、構造及び設備の基準に関する規則」の各条項は上記の 3 分類に該当すると考え、各条項に基づき設ける構築物（「建家」を指す。）、系統（「設備」(建家を構成するセルを含む)を指す。）及び機器を「安全機能を有する施設」とする。選定の考え方を図 1-1 に示す。また、図 1-1 のフローのとおり選定した結果、廃棄物管理施設のうち安全機能を有する施設は表 1-1 のとおりとなる。</p> <p>なお、廃棄物管理施設の保安のための重要度の分類を定め原子力安全に対する重要性に応じて、品質マネジメントシステムの要求事項の適用程度についてグレード分けを行う。 (略) (削る)</p>

	既許可 (原規規発第 1808221 号 平成 30 年 8 月 22 日)	本申請書 (令 04 原機(環保)010 令和 4 年 4 月 28 日)	見直し方針
添付資料五 (安全設計) 第八条	<p>第八条 (外部からの衝撃による損傷の防止) 適合のための設計方針 第 1 項について</p> <p>廃棄物管理施設は、敷地及び敷地周辺の自然環境を基に、廃棄物管理施設に影響を及ぼし得る自然現象として、洪水、降水、風(台風)、竜巻、凍結、積雪、落雷、地滑り、火山の影響、生物学的事象及び森林火災の 11 事象を抽出する。 以下にこれらの自然現象に対する設計方針を示す。</p> <p>(1) 洪水 (略)</p> <p>(3) 竜巻 最大風速 69m/s の竜巻が発生した場合において、全ての施設を対象に影響を評価した結果、事前の廃棄物の退避が困難な廃棄物の処理又は保管を行う施設の主要な安全機能である遮蔽機能及び閉じ込め機能を有する設備は、飛来物となり得る設備の固縛や評価対象設備への飛来物の衝突を防ぐ設備の設置により、構造健全性を維持し安全機能を損なわない設計とする。 消火設備のうちガス消火設備については、設備を有する建家又は設備(セル等)に損傷は生じず、屋外に敷設している配管の損傷を防止するための対策を講じ、構造健全性を維持し、安全機能を損なわない設計とする。 その他の安全機能については、地震後の施設の点検と同様、竜巻襲来後には施設を点検することや、安全機能が喪失した設備については、あらかじめ配置している代替設備・機器(通信連絡設備においては無線連絡設備、放射線管理設備についてはサーベイメータ、消火設備については消火器や消火栓設備、火災検知設備)により、人員が現場に駆けつけて対応できることを含め、必要な安全機能を損なわない設計とする。 <u>また、藤田スケール(以下 F とする。) 1 クラスの最大風速である 49m/s においては、施設の構造健全性を維持し、全ての安全機能が損なわれない設計とする。</u></p> <p>竜巻随伴事象として、「原子力発電所の竜巻影響評価ガイド」に基づき、火災、溢水及び外部電源喪失を考慮する。 火災については、自動車の衝突により発生する火災の影響を評価して、安全機能の維持に影響を与えない設計とする。 溢水については、廃棄物管理施設内で溢水が発生した場合においても、安全機能を損なわないよう、放射性物質を含む液体を内包する容器又は配管の破損によって、放射性物質を含む液体が管理区域外へ漏えいすることを防止できるよう堰やピットを設ける設計とすることで、安全機能の維持に影響を与えない設計とする。 外部電源喪失については、廃棄物管理施設の遮蔽機能及び閉じ込め機能を維持するための電力は不要であることから、外部電源喪失の影響により廃棄物管理施設の安全性が損なわれることはない。 設計上想定した竜巻に対しては全ての安全機能を維持する設計とし、F2 の最大風速の竜巻に対しては遮蔽及び閉じ込めの機能を有する設備の構造健全性を維持して必要な場合には代替設備等の活用により安全機能を維持する。<u>また、F1 の最大風速に対しては、施設の構造健全性を維持し、全ての安全機能が損なわれない設計とする。</u></p> <p>(4) 凍結 (略)</p>	<p>第八条 (外部からの衝撃による損傷の防止) 適合のための設計方針 第 1 項について</p> <p>廃棄物管理施設は、敷地及び敷地周辺の自然環境を基に、廃棄物管理施設に影響を及ぼし得る自然現象として、洪水、降水、風(台風)、竜巻、凍結、積雪、落雷、地滑り、火山の影響、生物学的事象及び森林火災の 11 事象を抽出する。 以下にこれらの自然現象に対する設計方針を示す。</p> <p>(1) 洪水 (略)</p> <p>(3) 竜巻 最大風速 69m/s の竜巻が発生した場合において、全ての施設を対象に影響を評価した結果、事前の廃棄物の退避が困難な廃棄物の処理又は保管を行う施設の主要な安全機能である遮蔽機能及び閉じ込め機能を有する設備は、飛来物となり得る設備の固縛や評価対象設備への飛来物の衝突を防ぐ設備の設置により、構造健全性を維持し安全機能を損なわない設計とする。 消火設備のうちガス消火設備については、設備を有する建家又は設備(セル等)に損傷は生じず、屋外に敷設している配管の損傷を防止するための対策を講じ、構造健全性を維持し、安全機能を損なわない設計とする。 その他の安全機能については、地震後の施設の点検と同様、竜巻襲来後には施設を点検することや、安全機能が喪失した設備については、あらかじめ配置している代替設備・機器(通信連絡設備においては無線連絡設備、放射線管理設備についてはサーベイメータ、消火設備については消火器や消火栓設備、火災検知設備)により、人員が現場に駆けつけて対応できることを含め、必要な安全機能を 損なわない 設計とする。</p> <p>竜巻随伴事象として、「原子力発電所の竜巻影響評価ガイド」に基づき、火災、溢水及び外部電源喪失を考慮する。 火災については、自動車の衝突により発生する火災の影響を評価して、安全機能の維持に影響を与えない設計とする。 溢水については、廃棄物管理施設内で溢水が発生した場合においても、安全機能を損なわないよう、放射性物質を含む液体を内包する容器又は配管の破損によって、放射性物質を含む液体が管理区域外へ漏えいすることを防止できるよう堰やピットを設ける設計とすることで、安全機能の維持に影響を与えない設計とする。 外部電源喪失については、廃棄物管理施設の遮蔽機能及び閉じ込め機能を維持するための電力は不要であることから、外部電源喪失の影響により廃棄物管理施設の安全性が損なわれることはない。 設計上想定した竜巻に対しては全ての安全機能を維持する設計とし、<u>藤田スケール(以下「F」という。) 2 の最大風速の竜巻に対しては遮蔽機能及び閉じ込めの機能並びに消火設備のうちガス消火設備</u>の構造健全性を維持して必要な場合には代替設備等の活用により安全機能を維持する。</p> <p>(4) 凍結 (略)</p>	<p>第八条 (外部からの衝撃による損傷の防止) 適合のための設計方針 第 1 項について</p> <p>廃棄物管理施設は、敷地及び敷地周辺の自然環境を基に、廃棄物管理施設に影響を及ぼし得る自然現象として、洪水、降水、風(台風)、竜巻、凍結、積雪、落雷、地滑り、火山の影響、生物学的事象及び森林火災の 11 事象を抽出する。 以下にこれらの自然現象に対する設計方針を示す。</p> <p>(1) 洪水 (略)</p> <p>(3) 竜巻 最大風速 69m/s の竜巻が発生した場合において、全ての施設を対象に影響を評価した結果、事前の廃棄物の退避が困難な廃棄物の処理又は保管を行う施設の主要な安全機能である遮蔽機能及び閉じ込め機能を有する設備は、飛来物となり得る設備の固縛や評価対象設備への飛来物の衝突を防ぐ設備の設置により、構造健全性を維持し安全機能を損なわない設計とする。 消火設備のうちガス消火設備については、設備を有する建家又は設備(セル等)に損傷は生じず、屋外に敷設している配管の損傷を防止するための対策を講じ、構造健全性を維持し、安全機能を損なわない設計とする。 その他の安全機能については、地震後の施設の点検と同様、竜巻襲来後には施設を点検することや、安全機能が喪失した設備については、あらかじめ配置している代替設備・機器(通信連絡設備においては無線連絡設備、放射線管理設備についてはサーベイメータ、消火設備については消火器や消火栓設備、火災検知設備)により、人員が現場に駆けつけて対応できることを含め、必要な安全機能を 確保する 設計とする。</p> <p>竜巻随伴事象として、「原子力発電所の竜巻影響評価ガイド」に基づき、火災、溢水及び外部電源喪失を考慮する。 火災については、自動車の衝突により発生する火災の影響を評価して、安全機能の維持に影響を与えない設計とする。 溢水については、廃棄物管理施設内で溢水が発生した場合においても、安全機能を損なわないよう、放射性物質を含む液体を内包する容器又は配管の破損によって、放射性物質を含む液体が管理区域外へ漏えいすることを防止できるよう堰やピットを設ける設計とすることで、安全機能の維持に影響を与えない設計とする。 外部電源喪失については、廃棄物管理施設の遮蔽機能及び閉じ込め機能を維持するための電力は不要であることから、外部電源喪失の影響により廃棄物管理施設の安全性が損なわれることはない。 設計上想定した竜巻に対しては全ての安全機能を維持する設計とし、<u>藤田スケール(以下「F」という。) 2 の最大風速の竜巻に対しては遮蔽機能及び閉じ込めの機能並びに消火設備のうちガス消火設備</u>の構造健全性を維持して必要な場合には代替設備等の活用により安全機能を維持する。</p> <p>(4) 凍結 (略)</p>

	既許可 (原規規発第 1808221 号 平成 30 年 8 月 22 日)	本申請書 (令 04 原機(環保)010 令和 4 年 4 月 28 日)	見直し方針
添付資料五 (安全設計) 第八条	<p>解釈第 2 項について 廃棄物管理施設において想定される自然現象として、洪水、風(台風)、竜巻、凍結、降水、積雪、落雷、地滑り及び火山の影響、生物学的事象又は森林火災等のうち、 (1) 地滑り、山崩れ、陥没については、敷地の調査結果から、想定する必要はない。 (略) (3) 「原子力発電所の竜巻影響評価ガイド」に規定されている基準竜巻による施設の損傷を仮定し、核燃料物質又は核燃料物質によって汚染された物が飛来物として施設外へ飛散することがないような固縛等の措置や適切な除染係数等を考慮して周辺公衆が受ける実効線量を評価し、5mSv を超えない場合には、基準竜巻ではなく、敷地及びその周辺における過去の記録を勘案して適切に設定した竜巻により、安全機能の維持を確認できるとしている。 竜巻により安全機能を喪失した場合の影響は、第一条(定義)で示した評価のとおり、周辺公衆の実効線量の評価値が 5mSv を超えないため、竜巻の想定については、敷地及びその周辺における影響が最も大きい竜巻として、1979 年 5 月 27 日に旭村(現 銚田市)で発生し、大洗町で消滅した藤田スケール F 1～F 2 の竜巻があり、また、竜巻のハザード曲線より年超過確率 10^{-5} の竜巻が F 2 であることから、<u>直接安全機能を有する施設の評価に用いる最大風速は F 2 の最大である 69 m/s とするとしている。直接安全機能以外の安全機能を有する施設の評価については、年超過確率 10^{-4} の竜巻が F 1 であることから、評価に用いる最大風速は F 1 の最大である 49m/s とする。</u> 「原子力発電所の竜巻影響評価ガイド」を参考に、想定する竜巻の設計荷重として、「風圧力による荷重」、「気圧差による荷重」、「飛来物による衝撃荷重」を適切に組み合わせた荷重を設定する。 このうち、「飛来物による衝撃荷重」の設定にあたっては、廃棄物管理施設の敷地内において飛来物となり得るものを現地調査により抽出した上で、運動エネルギー及び貫通力の大きさを踏まえ、設定している。 全ての施設を対象に影響を評価した結果、事前の廃棄物の退避が困難な廃棄物の処理又は保管を行う施設の主要な安全機能である遮蔽機能及び閉じ込め機能を有する建家、設備及び機器は、飛来物となり得る設備の固縛や評価対象設備への飛来物の衝突を防ぐ設備の設置により、構造健全性が維持されるように措置を講じる。 消火設備のうちガス消火設備については、設備を有する建家又は設備(セル等)に損傷は生じず、屋外に敷設している配管の損傷を防止するための対策を講じ、構造健全性を維持し、安全機能を損なわない設計とする。 その他の安全機能については、地震後の施設の点検と同様、竜巻襲来後には施設を点検することや、安全機能が喪失した設備については、あらかじめ配置している代替設備・機器(通信連絡設備においては無線連絡設備、放射線管理設備についてはサーベイメータ、消火設備については消火器や消火栓設備、火災検知設備)により、人員が現場に駆けつけて対応できることを含め、必要な安全機能を損なわない設計とする。 <u>また、代替設備・機器により、人員が駆けつけて対応する施設については、施設の損傷にあっても公衆被ばくのリスクが小さいこと(0.5μSv未滿)から、「原子力発電所の竜巻影響評価ガイド」</u></p>	<p>解釈第 2 項について 廃棄物管理施設において想定される自然現象として、洪水、風(台風)、竜巻、凍結、降水、積雪、落雷、地滑り及び火山の影響、生物学的事象又は森林火災等のうち、 (1) 地滑り、山崩れ、陥没については、敷地の調査結果から、想定する必要はない。 (略) (3) 「原子力発電所の竜巻影響評価ガイド」に規定されている基準竜巻による施設の損傷を仮定し、核燃料物質又は核燃料物質によって汚染された物が飛来物として施設外へ飛散することがないような固縛等の措置や適切な除染係数等を考慮して周辺公衆が受ける実効線量を評価し、5mSv を超えない場合には、基準竜巻ではなく、敷地及びその周辺における過去の記録を勘案して適切に設定した竜巻により、安全機能の維持を確認できるとしている。 竜巻により安全機能を喪失した場合の影響は、第一条(定義)で示した評価のとおり、周辺公衆の実効線量の評価値が 5mSv を超えないため、竜巻の想定については、敷地及びその周辺における影響が最も大きい竜巻として、1979 年 5 月 27 日に旭村(現 銚田市)で発生し、大洗町で消滅した F 1～F 2 の竜巻があり、また、竜巻のハザード曲線より年超過確率 10^{-5} の竜巻が F 2 であることから、安全機能を有する施設の評価に用いる最大風速は F 2 の最大である 69 m/s とするとしている。 「原子力発電所の竜巻影響評価ガイド」を参考に、想定する竜巻の設計荷重として、「風圧力による荷重」、「気圧差による荷重」、「飛来物による衝撃荷重」を適切に組み合わせた荷重を設定する。 このうち、「飛来物による衝撃荷重」の設定にあたっては、廃棄物管理施設の敷地内において飛来物となり得るものを現地調査により抽出した上で、運動エネルギー及び貫通力の大きさを踏まえ、設定している。 全ての施設を対象に影響を評価した結果、事前の廃棄物の退避が困難な廃棄物の処理又は保管を行う施設の主要な安全機能である遮蔽機能及び閉じ込め機能を有する建家、設備及び機器は、飛来物となり得る設備の固縛や評価対象設備への飛来物の衝突を防ぐ設備の設置により、構造健全性が維持されるように措置を講じる。 消火設備のうちガス消火設備については、設備を有する建家又は設備(セル等)に損傷は生じず、屋外に敷設している配管の損傷を防止するための対策を講じ、構造健全性を維持し、安全機能を損なわない設計とする。 その他の安全機能については、地震後の施設の点検と同様、竜巻襲来後には施設を点検することや、安全機能が喪失した設備については、あらかじめ配置している代替設備・機器(通信連絡設備においては無線連絡設備、放射線管理設備についてはサーベイメータ、消火設備については消火器や消火栓設備、火災検知設備)により、人員が現場に駆けつけて対応できることを含め、必要な安全機能を損なわない設計とする。</p>	<p>解釈第 2 項について 廃棄物管理施設において想定される自然現象として、洪水、風(台風)、竜巻、凍結、降水、積雪、落雷、地滑り及び火山の影響、生物学的事象又は森林火災等のうち、 (1) 地滑り、山崩れ、陥没については、敷地の調査結果から、想定する必要はない。 (略) (3) 「原子力発電所の竜巻影響評価ガイド」に規定されている基準竜巻による施設の損傷を仮定し、核燃料物質又は核燃料物質によって汚染された物が飛来物として施設外へ飛散することがないような固縛等の措置や適切な除染係数等を考慮して周辺公衆が受ける実効線量を評価し、5mSv を超えない場合には、基準竜巻ではなく、敷地及びその周辺における過去の記録を勘案して適切に設定した竜巻により、安全機能の維持を確認できるとしている。 竜巻により安全機能を喪失した場合の影響は、第一条(定義)で示した評価のとおり、周辺公衆の実効線量の評価値が 5mSv を超えないため、竜巻の想定については、敷地及びその周辺における影響が最も大きい竜巻として、1979 年 5 月 27 日に旭村(現 銚田市)で発生し、大洗町で消滅した F 1～F 2 の竜巻があり、また、竜巻のハザード曲線より年超過確率 10^{-5} の竜巻が F 2 であることから、安全機能を有する施設の評価に用いる最大風速は F 2 の最大である 69 m/s とするとしている。 「原子力発電所の竜巻影響評価ガイド」を参考に、想定する竜巻の設計荷重として、「風圧力による荷重」、「気圧差による荷重」、「飛来物による衝撃荷重」を適切に組み合わせた荷重を設定する。 このうち、「飛来物による衝撃荷重」の設定にあたっては、廃棄物管理施設の敷地内において飛来物となり得るものを現地調査により抽出した上で、運動エネルギー及び貫通力の大きさを踏まえ、設定している。 全ての施設を対象に影響を評価した結果、事前の廃棄物の退避が困難な廃棄物の処理又は保管を行う施設の主要な安全機能である遮蔽機能及び閉じ込め機能を有する建家、設備及び機器は、飛来物となり得る設備の固縛や評価対象設備への飛来物の衝突を防ぐ設備の設置により、構造健全性を維持し、安全機能を損なわない設計とする。 消火設備のうちガス消火設備については、設備を有する建家又は設備(セル等)に損傷は生じず、屋外に敷設している配管の損傷を防止するための対策を講じ、構造健全性を維持し、安全機能を損なわない設計とする。 その他の安全機能については、地震後の施設の点検と同様、竜巻襲来後には施設を点検することや、安全機能が喪失した設備については、あらかじめ配置している代替設備・機器(通信連絡設備においては無線連絡設備、放射線管理設備についてはサーベイメータ、消火設備については消火器や消火栓設備、火災検知設備)により、人員が現場に駆けつけて対応できることを含め、必要な安全機能を確保する設計とする。</p>

	既許可 (原規規発第 1808221 号 平成 30 年 8 月 22 日)	本申請書 (令 04 原機(環保)010 令和 4 年 4 月 28 日)	見直し方針
添付資料五 (安全設計) 第八条	<p><u>を参考に、年超過確率を 10⁻⁴として最大風速を評価 (35m/s) し、F1クラスの最大風速である 49m/s において、施設の構造健全性を維持し、全ての安全機能が損なわれない設計とする。</u></p> <p>竜巻による影響の評価の詳細を第八条まとめ資料の別紙 8-1 に示す。竜巻随件事象として、「原子力発電所の竜巻影響評価ガイド」に基づき、火災、溢水及び外部電源喪失を考慮する。</p> <p>火災については、自動車の衝突により発生する火災の影響を評価して、安全機能の維持に影響を与えない設計とする。</p> <p>溢水については、廃棄物管理施設内で溢水が発生した場合においても、安全機能を損なわないよう、放射性物質を含む液体を内包する容器又は配管の破損によって、放射性物質を含む液体が管理区域外へ漏えいすることを防止できるよう堰やピットを設ける設計とすることで、安全機能の維持に影響を与えない設計とする。</p> <p>外部電源喪失については、廃棄物管理施設の遮蔽機能及び閉じ込め機能を維持するための電力は不要であることから、外部電源喪失の影響により廃棄物管理施設の安全性が損なわれることはない。</p> <p>設計上想定した竜巻に対しては全ての安全機能を維持する設計とし、F2の最大風速の竜巻に対しては遮蔽及び閉じ込め機能を有する設備の構造健全性を維持して必要な場合には代替設備等の活用により安全機能を維持する。<u>また、F1の最大風速に対しては、施設の構造健全性を維持し、全ての安全機能が損なわれない設計とする。</u></p> <p>(4) 火山の影響については、「原子力発電所の火山影響評価ガイド」を参考に、影響を確認し、評価した。 (略)</p> <p>解釈第 3 項について 廃棄物管理施設を設置する事業所又はその周辺において想定される廃棄物管理施設の安全性を損なわせる原因となるおそれがある事象であって人為によるものうち、 (1) 飛来物 (航空機落下等) については、施設の安全機能が損なわれるおそれはない。 (略)</p> <p>(7) 廃棄物管理施設には電磁波障害を受ける機器はないため、施設の安全機能が損なわれるおそれはない。</p> <p>表 1 自然現象の重量</p> <p><第八条まとめ資料> 1. 自然現象 イ) 地滑り、山崩れ、陥没 (第 8 条解釈第 2 項) (略)</p>	<p>竜巻による影響の評価の詳細を第八条まとめ資料の別紙 8-1 に示す。竜巻随件事象として、「原子力発電所の竜巻影響評価ガイド」に基づき、火災、溢水及び外部電源喪失を考慮する。</p> <p>火災については、自動車の衝突により発生する火災の影響を評価して、安全機能の維持に影響を与えない設計とする。</p> <p>溢水については、廃棄物管理施設内で溢水が発生した場合においても、安全機能を損なわないよう、放射性物質を含む液体を内包する容器又は配管の破損によって、放射性物質を含む液体が管理区域外へ漏えいすることを防止できるよう堰やピットを設ける設計とすることで、安全機能の維持に影響を与えない設計とする。</p> <p>外部電源喪失については、廃棄物管理施設の遮蔽機能及び閉じ込め機能を維持するための電力は不要であることから、外部電源喪失の影響により廃棄物管理施設の安全性が損なわれることはない。</p> <p>設計上想定した竜巻に対しては全ての安全機能を維持する設計とし、F2の最大風速の竜巻に対しては遮蔽機能及び閉じ込め機能を有する設備の構造健全性を維持して必要な場合には代替設備等の活用により安全機能を維持する。</p> <p>(4) 火山の影響については、「原子力発電所の火山影響評価ガイド」を参考に、影響を確認し、評価した。 (略)</p> <p>解釈第 3 項について 廃棄物管理施設を設置する事業所又はその周辺において想定される廃棄物管理施設の安全性を損なわせる原因となるおそれがある事象であって人為によるものうち、 (1) 飛来物 (航空機落下等) については、施設の安全機能が損なわれるおそれはない。 (略)</p> <p>(7) 廃棄物管理施設には電磁波障害を受ける機器はないため、施設の安全機能が損なわれるおそれはない。</p> <p>表 1 自然現象の重量</p> <p><第八条まとめ資料> 1. 自然現象 イ) 地滑り、山崩れ、陥没 (第 8 条解釈第 2 項) (略)</p>	<p>竜巻随件事象として、「原子力発電所の竜巻影響評価ガイド」に基づき、火災、溢水及び外部電源喪失を考慮する。</p> <p>火災については、自動車の衝突により発生する火災の影響を評価して、安全機能の維持に影響を与えない設計とする。</p> <p>溢水については、廃棄物管理施設内で溢水が発生した場合においても、安全機能を損なわないよう、放射性物質を含む液体を内包する容器又は配管の破損によって、放射性物質を含む液体が管理区域外へ漏えいすることを防止できるよう堰やピットを設ける設計とすることで、安全機能の維持に影響を与えない設計とする。</p> <p>外部電源喪失については、廃棄物管理施設の遮蔽機能及び閉じ込め機能を維持するための電力は不要であることから、外部電源喪失の影響により廃棄物管理施設の安全性が損なわれることはない。</p> <p>設計上想定した竜巻に対しては全ての安全機能を維持する設計とし、F2の最大風速の竜巻に対しては遮蔽機能及び閉じ込め機能を有する設備の構造健全性を維持して必要な場合には代替設備等の活用により安全機能を確保する。</p> <p>(4) 火山の影響については、「原子力発電所の火山影響評価ガイド」を参考に、影響を確認し、評価した。 (略)</p> <p>解釈第 3 項について 廃棄物管理施設を設置する事業所又はその周辺において想定される廃棄物管理施設の安全性を損なわせる原因となるおそれがある事象であって人為によるものうち、 (1) 飛来物 (航空機落下等) については、施設の安全機能が損なわれるおそれはない。 (略)</p> <p>(7) 廃棄物管理施設には電磁波障害を受ける機器はないため、施設の安全機能が損なわれるおそれはない。</p> <p>表 1 自然現象の重量</p> <p>(削除)</p>

	既許可 (原規規発第 1808221 号 平成 30 年 8 月 22 日)	本申請書 (令 04 原機(環保)010 令和 4 年 4 月 28 日)	見直し方針
添付資料五 (安全設計) 文	<p>(略)</p> <p>1.3 放射線の遮蔽に関する設計 (略)</p> <p>1.4 放射性物質等の閉じ込めに関する設計 (略)</p> <p>1.5 火災及び爆発の防止に関する設計 (略)</p> <p>1.6 耐震設計 (略)</p> <p>1.7 外部からの衝撃に対する設計</p> <p>1.7.1 想定される自然現象（地震及び津波を除く）に対する設計 廃棄物管理施設において想定される自然現象として、洪水、風（台風）、竜巻、凍結、降水、積雪、落雷、地滑り及び火山の影響、生物学的事象又は森林火災等のうち、</p> <p>(1)地滑り、山崩れ、陥没については、敷地の調査結果から、想定する必要はない。また、積雪や凍結についても敷地付近の気候の調査結果から、考慮する必要はない。</p> <p>(2)台風、洪水、落雷については、廃棄物管理施設の安全性を損なうことのないように適切な管理を行うので、施設の安全機能が損なわれるおそれはない。</p> <p>(3)敷地及びその周辺における影響が最も大きい竜巻として、1979年5月27日に旭村（現 銚田市）で発生し大洗町で消滅した藤田スケールF1～F2の竜巻があることから、評価に用いた最大風速はF2の最大である69m/sとした。</p>	<p>(略)</p> <p>1.3 放射線の遮蔽に関する設計 (略)</p> <p>1.4 放射性物質等の閉じ込めに関する設計 (略)</p> <p>1.5 火災及び爆発の防止に関する設計 (略)</p> <p>1.6 耐震設計 (略)</p> <p>1.7 外部からの衝撃に対する設計</p> <p>1.7.1 想定される自然現象（地震及び津波を除く）に対する設計 廃棄物管理施設において想定される自然現象として、洪水、風（台風）、竜巻、凍結、降水、積雪、落雷、地滑り及び火山の影響、生物学的事象又は森林火災等のうち、</p> <p>(1)地滑り、山崩れ、陥没については、敷地の調査結果から、想定する必要はない。また、積雪や凍結についても敷地付近の気候の調査結果から、考慮する必要はない。</p> <p>(2)台風、洪水、落雷については、廃棄物管理施設の安全性を損なうことのないように適切な管理を行うので、施設の安全機能が損なわれるおそれはない。</p> <p>(3)敷地及びその周辺における影響が最も大きい竜巻として、1979年5月27日に旭村（現 銚田市）で発生し大洗町で消滅した藤田スケールF1～F2の竜巻があることから、評価に用いた最大風速はF2の最大である69m/sとした。</p>	<p>(略)</p> <p>1.3 放射線の遮蔽に関する設計 (略)</p> <p>1.4 放射性物質等の閉じ込めに関する設計 (略)</p> <p>1.5 火災及び爆発の防止に関する設計 (略)</p> <p>1.6 耐震設計 (略)</p> <p>1.7 外部からの衝撃に対する設計</p> <p>1.7.1 想定される自然現象（地震及び津波を除く）に対する設計 廃棄物管理施設において想定される自然現象として、洪水、風（台風）、竜巻、凍結、降水、積雪、落雷、地滑り及び火山の影響、生物学的事象又は森林火災等のうち、</p> <p>(1)地滑り、山崩れ、陥没については、敷地の調査結果から、想定する必要はない。また、積雪や凍結についても敷地付近の気候の調査結果から、考慮する必要はない。</p> <p>(2)台風、洪水、落雷については、廃棄物管理施設の安全性を損なうことのないように適切な管理を行うので、施設の安全機能が損なわれるおそれはない。</p> <p>(3)敷地及びその周辺における影響が最も大きい竜巻として、1979年5月27日に旭村（現 銚田市）で発生し大洗町で消滅した藤田スケールF1～F2の竜巻があることから、評価に用いた最大風速はF2の最大である69m/sとした。</p> <p>設計用竜巻による飛来物については、施設周辺の状況として、交通量の多い国道51号からの自動車の飛来も考慮し、竜巻影響評価ガイドを参考に、鋼製材、鋼製パイプ、自動車（軽自動車、乗用車、ミニバン、ワゴン、大型バス）、自転車、自動販売機、エアコン室外機及びマンホール蓋を選定した。</p> <p>設計用飛来物は、選定した飛来物のうち、自動販売機は最大飛散距離から評価対象に到達しないこと、エアコン室外機及びマンホール蓋は固縛を施すこと、自動車（飛来物にならない大型バスを除く）については、最大飛散距離から駐車場所を限定することを考慮する。</p> <p>建家に対して評価し、次に、建家に貫通または裏面剥離が生じるとの結果になった施設の設備に対して評価し、最後に建家及び設備に貫通または裏面剥離が生じるとの結果になった施設の機器について評価した。</p> <p>評価の前提条件となる対策は次のとおりである。</p> <p>① 竜巻警報が発生した場合は、直ちに廃棄物の処理等の作業を中止する。</p> <p>② 作業中止後、$\beta \cdot \gamma$ 固体処理棟Ⅰ及び$\beta \cdot \gamma$ 固体処理棟Ⅱの廃棄物は$\beta \cdot \gamma$ 一時格納庫Ⅱへ移動して保管する。また、廃液処理棟及び管理機械棟の分析フード内にある廃棄物はそれぞれの施設の保管容器に入れて保管する。</p> <p>③ 廃棄物の移動・保管の後、設備を停止し、作業員は安全な場所（建家または室）に退避する。</p>

	既許可 (原規規発第 1808221 号 平成 30 年 8 月 22 日)	本申請書 (令 04 原機(環保)010 令和 4 年 4 月 28 日)	見直し方針
添付資料五 (安全設計) 文	<p>全ての施設を対象に影響を評価した結果、事前の廃棄物の退避が困難な廃棄物の処理又は保管を行う施設の主要な安全機能である遮蔽機能及び閉じ込め機能を有する設備等は、飛来物となり得る設備の固縛や評価対象設備への飛来物の衝突を防ぐ設備の設置により、構造健全性が維持されるように措置を講じる。</p> <p>消火設備のうち遠隔操作により消火を行うガス消火設備（自動消火設備を含む）については、屋外に敷設している配管の損傷を防止するための対策を講じる。</p> <p>その他の安全機能については、地震後の施設の点検と同様、竜巻襲来後には施設を点検することや、一部については、構造健全性が維持される代替設備・機器（通信連絡設備においては無線連絡設備、放射線管理設備についてはサーベイメータ、消火設備については消火器や消火栓設備）により、人員が現場に駆けつけて対応できることを含め、機能を有する設備の構造健全性が維持されるように措置を講じる。</p> <p><u>また、代替設備・機器により、人員が駆けつけて対応する施設については、施設の損傷にあっても公衆被曝のリスクが小さいこと（0.5μSv未満）から、「原子力発電所の竜巻影響評価ガイド」を参考に、年超過確率を10⁻⁴として最大風速を評価（35m/s）し、F1クラスの最大風速である49m/sにおいて、施設の構造健全性を維持し、機能を維持する設計とする。</u></p> <p>(4)火山影響については、廃棄物管理施設に近い火山からの降下火砕物の影響を考慮しても施設の健全性は維持され、安全機能が損なわれることはない。 (略)</p>	<p>全ての施設を対象に影響を評価した結果、事前の廃棄物の退避が困難な廃棄物の処理又は保管を行う施設の主要な安全機能である遮蔽機能及び閉じ込め機能を有する設備等は、飛来物となり得る設備の固縛や評価対象設備への飛来物の衝突を防ぐ設備の設置により、構造健全性が維持されるように措置を講じる。</p> <p>消火設備のうち遠隔操作により消火を行うガス消火設備（自動消火設備を含む）については、屋外に敷設している配管の損傷を防止するための対策を講じる。</p> <p>その他の安全機能については、地震後の施設の点検と同様、竜巻襲来後には施設を点検することや、<u>一部については、構造健全性が維持される</u>代替設備・機器（通信連絡設備においては無線連絡設備、放射線管理設備についてはサーベイメータ、消火設備については消火器や消火栓設備）により、人員が現場に駆けつけて対応できることを含め、機能を<u>有する設備の構造健全性が維持されるように措置を講じる</u>。</p> <p>(4)火山影響については、廃棄物管理施設に近い火山からの降下火砕物の影響を考慮しても施設の健全性は維持され、安全機能が損なわれることはない。 (略)</p>	<p><u>評価のまとめ及び対策等を表 1.7.1 の施設の評価のまとめに示す。</u></p> <p><u>表 1.7.1 施設の評価のまとめ</u></p> <p>表 1.7.1 施設の評価のまとめは 8 ページ参照</p> <p>全ての施設を対象に影響を評価した結果、事前の廃棄物の退避が困難な廃棄物の処理又は保管を行う施設の主要な安全機能である遮蔽機能及び閉じ込め機能を有する設備等は、飛来物となり得る設備の固縛や評価対象設備への飛来物の衝突を防ぐ設備の設置により、構造健全性を維持し、安全機能を損なわない設計とする。</p> <p>消火設備のうちガス消火設備については、<u>設備を有する建家又は設備（セル等）に損傷は生じず、屋外に敷設している配管の損傷を防止するための対策を講じ、構造健全性を維持し、安全機能を損なわない設計とする。</u></p> <p>その他の安全機能については、地震後の施設の点検と同様、竜巻襲来後には施設を点検することや、<u>安全機能が喪失した設備については、あらかじめ配置している</u>代替設備・機器（通信連絡設備においては無線連絡設備、放射線管理設備についてはサーベイメータ、消火設備については消火器や消火栓設備）により、人員が現場に駆けつけて対応できることを含め、<u>必要な安全機能を確保する設計とする。</u></p> <p>(4)火山影響については、廃棄物管理施設に近い火山からの降下火砕物の影響を考慮しても施設の健全性は維持され、安全機能が損なわれることはない。 (略)</p>

表 1.7.1 施設の評価のまとめ

施設	建家 (安全機能)	設備(セル等) (安全機能)	機器 (安全機能)	建家の 壁の 損傷	建家の 屋根の 損傷	建家の 損傷	設備の 壁の 損傷	設備の 天井の 損傷	設備の 損傷	機器の 胴の 損傷	機器の 蓋の 損傷	機器の 損傷	被災時の 廃棄物の 有無	まとめ	対策等	
廃液処理棟	廃液処理棟		廃液蒸発装置 I (閉じ込め)	NG①	NG①	NG①	NG②	NG②	NG②	OK⑩	OK⑩	OK⑩	有	OK⑩		
			遮蔽体 (遮蔽)				廃液蒸発装置 II 本体 (閉じ込め)	OK⑥	OK⑥	OK⑥	OK⑥	OK⑥	OK⑥	有	OK⑥	
							廃液蒸発装置 II 本体以外 (閉じ込め)	NG②	NG②	NG②	OK⑩	OK⑩	OK⑩	有	OK⑩	
							セメント固化装置 (閉じ込め)	NG②	NG②	NG②	OK⑩	OK⑩	OK⑩	有	OK⑩	飛来物等が衝突しないよう設備を設ける
							配管 (閉じ込め)	NG②	NG②	NG②	OK⑩	OK⑩	OK⑩	有	OK⑩	作業を中止し、廃棄物を保管容器で保管する
							分析フード (閉じ込め)	NG②	NG②	NG②	NG④	NG④	NG④	無	OK	
							堰、ビット (閉じ込め)	NG②	NG②	NG②	OK⑩	OK⑩	OK⑩	無	OK⑩	
排水監視施設	排水監視施設 (閉じ込め)			OK②	OK②	OK②						有	OK②			
β・γ 固体処理棟 I	β・γ 固体処理棟 I		β・γ 圧縮装置 I 本体 (閉じ込め)	NG①	NG①	NG①	NG②	NG②	NG②	OK⑩	OK⑩	OK⑩	有	OK⑩		
							β・γ 圧縮装置 I 分類用ボックス (閉じ込め)	NG②	NG②	NG②	NG⑤	NG⑥	NG⑤	無	OK	作業を中止し、廃棄物を β・γ 一時格納庫 II で保管する
β・γ 固体処理棟 II	β・γ 固体処理棟 II		β・γ 一時格納庫 II (閉じ込め)	NG①	OK②	NG①	OK⑥	OK⑥	OK⑥				有	OK⑥		
							β・γ 圧縮装置 II 本体 (閉じ込め)	NG②	NG②	NG②	OK⑩	OK⑩	OK⑩	有	OK⑩	
							β・γ 圧縮装置 II 分類用ボックス (閉じ込め)	NG②	NG②	NG②	NG⑤	NG⑥	NG⑤	無	OK	作業を中止し、廃棄物を β・γ 一時格納庫 II で保管する
β・γ 固体処理棟 III	β・γ 固体処理棟 III		β・γ 焼却設備 (閉じ込め)	OK②	OK②	OK②	OK②	OK②	OK②	OK②	OK②	有	OK②			
β・γ 固体処理棟 IV	β・γ 固体処理棟 IV		β・γ 貯蔵セル (遮蔽、閉じ込め)	NG①	NG①	NG①	OK⑥	OK⑥	OK⑥				有	OK⑥		
			セル (遮蔽、閉じ込め)				β・γ 封入設備	OK⑥	OK⑥	OK⑥	OK⑥	OK⑥	OK⑥	有	OK⑥	
α 固体処理棟	α 固体処理棟 (2 階部) (自動消火設備)		α ホール設備 (閉じ込め)	OK②	OK②	OK②	OK②	OK②	OK②				有	OK②		
			遮蔽体				α 焼却設備 (閉じ込め)	OK②	OK②	OK②	OK②	OK②	OK②	有	OK②	
			α 固体処理棟 (3 階部) (自動消火設備)				セル (遮蔽、閉じ込め)	OK②	OK②	OK②	OK②	OK②	OK②	OK②	有	OK②
α 固体処理棟 (3 階部) (自動消火設備)	セル (遮蔽、閉じ込め)	OK②	OK②	OK②	OK②	OK②	OK②	OK②	OK②	OK②	OK②	有	OK②			
固体集積保管場 I	固体集積保管場 I		遮蔽壁、遮蔽スラブ (遮蔽、閉じ込め)	NG①	NG①	NG①	OK⑥	OK⑥	OK⑥				有	OK⑥		
固体集積保管場 II	固体集積保管場 II (遮蔽、閉じ込め)			OK②	OK②	OK②							有	OK②		
固体集積保管場 III	固体集積保管場 III (遮蔽、閉じ込め)			OK②	OK②	OK②							有	OK②		
固体集積保管場 IV	固体集積保管場 IV (遮蔽、閉じ込め)			OK②	OK②	OK②							有	OK②		
α 固体貯蔵施設	α 固体貯蔵施設		貯蔵ビット (遮蔽、閉じ込め)	NG①	裏面 剥離①	NG①	OK⑥	OK⑥	OK⑥				有	OK⑥		
廃液貯留施設 I	廃液貯留施設 I		廃液貯槽 (閉じ込め)	NG①	NG①	NG①	OK⑥	OK⑥	OK⑥				有	OK⑥		
							常陽系統配管 (閉じ込め)	NG②	NG②	NG②	NG⑤	OK⑩	NG⑤	無	OK	地上部の配管内に廃液が留まらないように操作する
							堰、ビット (閉じ込め)	NG②	NG②	NG②	OK⑩	OK⑩	OK⑩	無	OK⑩	
							(廃棄物管理施設用廃液貯槽) (閉じ込め)	NG②	NG②	NG②	OK⑩	OK⑩	OK⑩	有	OK⑩	
廃液貯留施設 II	廃液貯留施設 II		廃液貯槽 (遮蔽、閉じ込め)	OK②	OK②	OK②	OK⑥	OK⑥	OK⑥				有	OK⑥		
β・γ 一時格納庫 I	β・γ 一時格納庫 I		β・γ 一時格納庫 I (閉じ込め)	貫通①	NG①	NG①	OK⑥	OK⑥	OK⑥				有	OK⑥		
α 一時格納庫	α 一時格納庫 (閉じ込め)			NG①	OK②	NG①	NG②	NG②	NG②	OK⑩	OK⑩	OK⑩	有	OK⑩	廃棄物を銅板で覆う	
管理機械棟	管理機械棟		分析フード (閉じ込め)	裏面 剥離①	OK②	裏面 剥離①	貫通②	貫通②	貫通②	NG④	NG④	NG④	無	OK	作業を中止し、廃棄物を保管容器で保管する	
							保管容器 (閉じ込め)	貫通②	貫通②	貫通②	OK⑧	OK⑧	OK⑧	有	OK⑧	
固体廃棄物減容処理施設	固体廃棄物減容処理施設 (自動消火設備)		固体廃棄物減容処理施設廃液貯槽 (閉じ込め)	裏面 剥離①	OK②	裏面 剥離①	貫通②	貫通②	貫通②	OK⑧	OK⑧	OK⑧	有	OK⑧		
							搬出入室 (遮蔽、閉じ込め)	OK④	OK④	OK④	OK④	OK④	OK④	有	OK④	
							搬出入室 (遮蔽、閉じ込め)	OK④	OK④	OK④				有	OK④	
							前処理セル(開缶エリア) (遮蔽、閉じ込め)	OK④	OK④	OK④				有	OK④	
							前処理セル(分別エリア) (遮蔽、閉じ込め)	OK④	OK④	OK④				有	OK④	
							焼却溶融セル (遮蔽、閉じ込め)	OK④	OK④	OK④				有	OK④	
							保守ホール (遮蔽、閉じ込め)	OK④	OK④	OK④				有	OK④	
							廃樹脂乾燥室 (遮蔽、閉じ込め)	貫通②	貫通②	貫通②	OK⑧	OK⑧	OK⑧	有	OK⑧	

廃棄物管理施設の今後の新規制基準対応の審査スケジュールについて

廃棄物管理施設における新規制基準対応に係る廃棄物管理事業変更許可申請（以下「許可」という。）、設計及び工事の計画の認可（以下「設工認」という。）申請、廃棄物管理施設保安規定変更認可申請に係る審査スケジュールについて、当初予定していた申請等から3か月遅れたこと、また、施設（有機廃液一時格納庫及び化学処理装置等）の使用の停止に伴って設備を段階的に停止するため、設工認及び保安規定について追加する必要があることから、新規制基準対応の審査スケジュールを変更するものである。

廃棄物管理施設の新規制基準対応計画工程を表-1に示す。

施設（有機廃液一時格納庫及び化学処理装置等）の使用の停止に係る設工認（表中②）及び保安規定（表中④）は、許可（表中①）取得後に補正する。

また、施設（有機廃液一時格納庫及び化学処理装置等）の使用の停止に係る工事（表中③）は、保安規定（表中④）の認可後に実施する。

なお、審査スケジュールについて、大洗研究所内の他施設への影響がない。

以上

表-1 廃棄物管理施設の新規制基準対応計画工程

申請内容	施設	工 程																																				
		令和4年度												令和5年度												令和6年度												
		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12				
遮蔽スラブの遮蔽の追加 設工認	固体集積保管場 I													遮蔽スラブ追加工事						▼使用前事業者検査																		
固体廃棄物減容処理施設 (OWTF) の設置設工認	固体廃棄物減容処理施設 (OWTF)	審査 説明	▼申請 (1) 変更許可												▼補正 (1) 変更許可																							
① 廃棄物管理事業変更許可申請 (安全機能の適正化、 有機廃液一時格納庫の使用の停止等)	廃棄物管理施設	▼認可	▼申請 (1) 変更許可												▼補正 (1) 変更許可												▼許可希望 (1) 変更許可											
② 廃棄物管理施設の設工認申請 (新規制基準対応) (有機廃液一時格納庫、化学処理装置等)	廃棄物管理施設	▼申請 (2) 設工認	▼補正 (2) 設工認 (使用の停止)												▼認可希望 (2) 設工認												▼使用前事業者検査											
③ 工事 (使用の停止)	廃棄物管理施設	▼申請 (2) 設工認												▼補正 (2) 設工認 (使用の停止)												▼使用前事業者検査												
④ 廃棄物管理施設 保安規定変更認可申請 (新規制基準を踏まえた保安規定)	廃棄物管理施設	▼補正 (4) 保安規定	▼申請 (2) 設工認												▼補正 (4) 保安規定 (使用の停止)												▼認可希望 (4) 保安規定											

Additional details from the Gantt chart:
- In the 2025 fiscal year, '遮る壁工事' (Shielding wall work) is scheduled from month 9 to month 12.
- In the 2026 fiscal year, '工事' (Work) is scheduled in month 1 for '化学処理装置等' (Chemical processing equipment) and month 2 for '有機廃液一時格納庫' (Organic liquid temporary storage tank).
- A red vertical line is present at the end of month 5 of the 2026 fiscal year, labeled '▼使用前確認' (Pre-use confirmation).
- A blue dashed vertical line is present at the end of month 7 of the 2024 fiscal year.

申請書における変更許可申請の項目と変更の内容について

申請書	変更許可申請の項目	変更の内容
本文	<ul style="list-style-type: none"> ① 外部からの衝撃に対する維持すべき安全機能の適正化 ② 有機廃液一時格納庫の使用の停止 ② β・γ 固体処理棟Ⅲの有機溶媒貯槽を新たに液体廃棄物の受入れ施設に変更 ③ 廃液処理棟の化学処理装置等の使用の停止 ④ 共用設備に係る記載の見直し、移動モニタリング設備の削除 ○ 工事計画の見直し 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 廃棄物管理施設の一般構造に関する設計方針について、外部からの衝撃に対する安全機能の適正化の設計方針の変更 ・ 化学処理装置等の使用の停止に伴い、液体廃棄物の年間最大受入れ量及び処理の変更 ・ 施設設備について、化学処理装置等の使用の停止に伴う化学処理装置と装置から発生するスラッジ、セメント固化装置の凍結再融解槽及びスラッジ槽の記載の削除 ・ 化学処理装置の一部としていた分析フードを廃液蒸発装置Ⅰの付属設備に変更 ・ 受入れ施設の収容施設について、β・γ 固体処理棟Ⅲの有機溶媒貯槽を新たに液体廃棄物の受入れ施設に変更するため、β・γ 固体処理棟Ⅲの主要構造及び主要な設備を追加 ・ 受入れ施設の主要な設備について、有機溶媒貯槽の主要構成（廃油タンク）と、漏えい拡大防止の設計方針として、堰を設けること、検知器を備えることを追加 ・ 有機溶媒貯槽の主要構成である廃油タンクと最大受入れ能力を追加 ・ 廃棄の方法において、化学処理装置及びセメント固化装置の凍結再融解槽及びスラッジ槽の使用の停止に伴う記載の削除 ・ 廃棄物管理の手順を示す工程図について、化学処理装置及びセメント固化装置の凍結再融解槽及びスラッジ槽の使用の停止に伴う記載の変更と有機廃液一時格納庫から有機溶媒貯槽への変更 ・ 構造概略図において、有機溶媒貯槽（廃油タンク）の明記 ・ 有機廃液一時格納庫の使用の停止に伴う記載の削除 ・ 原子力防災資機材である移動モニタリング設備の記載の削除 ・ 液体廃棄物Cの区分の削除 ・ 安全機能の適正化により実施する改修工事を見直した工事計画の変更

申請書	変更許可申請の項目	変更の内容
添付書類一 (事業計画書)	<ul style="list-style-type: none"> ② 廃液処理棟の化学処理装置等の使用の停止 ○ 事業計画の見直し 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 化学処理装置等の使用の停止に伴う液体廃棄物の年間最大受入れ量の変更 ・ 処理事業の開始時期見直し ・ 安全機能の適正化により実施する改修工事を見直し、変更の工事に要する資金の額を変更 ・ 事業年度毎における資金計画及び収支の更新
添付書類二 (技術的能力)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 法令改正に伴う記載の適正化 ○ 有資格者数及び組織図などの見直し 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 品質マネジメント活動に基づいた記載の適正化（品質保証→品質マネジメント、安全文化の醸成→育成・維持） ・ 工事中の固体廃棄物減容処理施設に関する運転及び保守のための保安規定の明確化 ・ 主たる技術者、有資格者数及び組織体制図の更新
添付書類三 (気象、地盤等)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 記載の適正化 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 記載の適正化（大洗研究開発センター→大洗研究所）
添付書類四 (縮尺地図)	(変更なし)	-
添付書類五 (安全設計)	<ul style="list-style-type: none"> ① 外部からの衝撃に対する維持すべき安全機能の適正化 ② 有機廃液一時格納庫の使用の停止 ② $\beta \cdot \gamma$ 固体処理棟Ⅲの有機溶媒貯槽を新たに液体廃棄物の受入れ施設に変更 ③ 廃液処理棟の化学処理装置等の使用の停止 ④ 共用設備に係る記載の見直し、移動モニタリング設備の削除 ⑤ 固体廃棄物減容処理施設の施設外の通信連絡設備の記載に見直し ○ 記載の適正化（施設定期自主検査→施設管理実施計画等） ○ 構内一斉放送設備の明記 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 廃棄物管理施設の一般構造に関する設計方針について、外部からの衝撃に対する安全機能の適正化の設計方針の変更 ・ 化学処理装置等の使用の停止に伴い、液体廃棄物の年間最大受入れ量及び処理の変更 ・ 施設設備について、化学処理装置等の使用の停止に伴う化学処理装置と装置から発生するスラッジ、セメント固化装置の凍結再融解槽及びスラッジ槽の記載の削除 ・ 化学処理装置の一部としていた分析フードを廃液蒸発装置Ⅰの付属設備に変更 ・ 受入れ施設の収容施設について、$\beta \cdot \gamma$ 固体処理棟Ⅲの有機溶媒貯槽を新たに液体廃棄物の受入れ施設に変更するため、$\beta \cdot \gamma$ 固体処理棟Ⅲの主要構造及び主要な設備を追加 ・ 受入れ施設の主要な設備について、有機溶媒貯槽の主要構成（廃油タンク）と、漏えい拡大防止の設計方針として、堰を設けること、検知器を備えることを追加

申請書	変更許可申請の項目	変更の内容
添付書類五 (安全設計)		<ul style="list-style-type: none"> ・有機溶媒貯槽の主要構成である廃油タンクと最大受入れ能力を追加 ・廃棄の方法において、化学処理装置及びセメント固化装置の凍結再融解槽及びスラッジ槽の使用の停止に伴う記載の削除 ・廃棄物管理の手順を示す工程図について、化学処理装置及びセメント固化装置の凍結再融解槽及びスラッジ槽の使用の停止に伴う記載の変更と有機廃液一時格納庫から有機溶媒貯槽への変更 ・構造概略図において、有機溶媒貯槽（廃油タンク）の明記 ・有機廃液一時格納庫の使用の停止に伴う記載の削除 ・共用設備に係る設備について、所管の明確化のため大洗研究所（北地区）原子炉施設の記載を追記 ・施設定期自主検査で確認することを保安規定で定めることとしていた記載について、施設管理実施計画において確認する内容に変更 ・液体廃棄物 C の区分の削除 ・構内一斉放送設備に係る記載の追加 ・施設外における通信連絡設備について、固体廃棄物減容処理施設の通信連絡設備の明確化
添付書類六 (被ばく管理等)	<ul style="list-style-type: none"> ② 有機廃液一時格納庫の使用の停止 ③ 廃液処理棟の化学処理装置等の使用の停止 ○ 記載の適正化（核燃料物質施設等、保管体の保管量の見直し等） 	<ul style="list-style-type: none"> ・液体廃棄物の設備と能力において、化学処理装置およびセメント固化装置の使用の停止に伴う年間最大受入れ量の変更 ・液体廃棄物 C の区分の削除 ・直接線及びスカイシャイン線の評価において、化学処理装置のスラッジ貯槽及びセメント固化装置のスラッジ槽に与えているインベントリを削除せず、評価が変わらないことを明確化 ・廃棄物管理施設の標高差説明図において、使用を停止する有機廃液一時格納庫を図中で明確化 ・保管体の管理において、最新情報として令和 3 年 10 月現在の保管数量に更新

申請書	変更許可申請の項目	変更の内容
添付書類七 (事故の影響等)	<ul style="list-style-type: none"> ② 有機廃液一時格納庫の使用の停止 ② β・γ 固体処理棟Ⅲの有機溶媒貯槽を新たに液体廃棄物の受入れ施設に変更 	<ul style="list-style-type: none"> ・有機溶媒貯槽のインベントリがβ・γ焼却装置に含まれているため、評価が変わらないことを明確化するため、β・γ焼却装置に有機溶媒貯槽を含むことを追加 ・評価想定事故の評価において、有機廃液一時格納庫を削除せず、評価が変わらないことを明確化
添付書類八 (品質管理の体制)	○ 法令改正に伴い、品質管理に必要な体制の整備に関する説明書の追加	・廃棄物管理施設品質マネジメント計画書(QS-P08)の追加

本申請に係る事業許可基準規則との適合について

No.	廃棄物管理施設の位置、構造及び設備の基準に関する規則「事業許可基準規則」（平成二十五年原子力規制委員会規則第三十一号）		該当する変更概要	該当する建家・施設・設備	適合のための設計方針（既許可）	設計方針の変更有無	適合するための対策（事業許可基準規則との適合）
1	第一条 (定義)	この規則において使用する用語は、核原料物質、核燃料物質及び原子炉の規制に関する法律及び核燃料物質又は核燃料物質によつて汚染された物の廃棄物管理の事業に関する規則（昭和六十三年総理府令第四十七号）において使用する用語の例による。	(該当なし)	-	使用する用語は、「核原料物質、核燃料物質及び原子炉の規制に関する法律及び核燃料物質又は核燃料物質によつて汚染された物の廃棄物管理の事業に関する規則」（昭和六十三年総理府令第四十七号）において使用する用語の例のとおりとする。 なお、品質マネジメントシステムに基づき、建家は設備や機器を内包している建家又は施設の外壁や屋根を指し、設備は安全機能を有している建家に備え付けられているものを指し、機器は設備を構成しているものを指す。	無	本条項において変更はないことから、既許可の適合のための設計方針に変更はなく、事業許可基準規則と適合している。
2	第一条 (定義)	2 この規則において、次の各号に掲げる用語の意義は、それぞれ当該各号に定めるところによる。 一 「安全機能」とは、廃棄物管理施設の安全性を確保するために必要な機能をいう。	① 外部からの衝撃に対して、維持すべき安全機能の適正化	-	廃棄物管理施設は、施設の安全性を確保するために必要な安全機能を有する設計とする。廃棄物管理施設の「安全性」とは、公衆又は従事者に及ぼすおそれがある放射線障害を防止するため、放射性物質又は放射線が廃棄物管理施設を設置する事業所外へ放出されないことである。 廃棄物管理施設の安全性を確保するために必要な安全機能は、放射性液体及び固体廃棄物を処理又は管理している施設の特徴とその重要度に応じて、以下の3分類に分ける。 ① 直接的安全機能 廃棄物管理施設から放射性物質又は放射線の放出を直接的に防止している遮蔽機能及び閉じ込め機能 ② 支援的安全機能 直接的安全機能が外部からの衝撃により損なわれないよう支援する機能 ③ その他の安全機能 ① 及び②以外の機能	無	本条項において、外部事象に対する設計方針の変更に関する記載を行っているが、本条項の安全機能に関する設計に変更はないことから、既許可の適合のための設計方針に変更はなく、事業許可基準規則と適合している。

No.	廃棄物管理施設の位置、構造及び設備の基準に関する規則「事業許可基準規則」（平成二十五年原子力規制委員会規則第三十一号）	該当する変更概要	該当する建家・施設・設備	適合のための設計方針（既許可）	設計方針の変更有無	適合するための対策（事業許可基準規則との適合）	
3	第一条（定義）	<p>二 「安全上重要な施設」とは、安全機能を有する施設のうち、その機能の喪失により、公衆又は従事者に放射線障害を及ぼすおそれがあるもの及び安全設計上想定される事故が発生した場合に公衆又は従事者に及ぼすおそれがある放射線障害を防止するため、放射性物質又は放射線が廃棄物管理施設を設置する事業所外へ放出されることを抑制し、又は防止するものをいう。</p>	<p>② 有機廃液一時格納庫の使用の停止、β・γ 固体処理棟Ⅲの有機溶媒貯槽を新たに液体廃棄物の受入れ施設に変更</p> <p>③ 廃液処理棟の化学処理装置等の使用の停止</p>	<p>有機廃液一時格納庫</p> <p>β・γ 固体処理棟Ⅲの有機溶媒貯槽</p> <p>廃液処理棟の化学処理装置</p> <p>廃液処理棟のセメント固化装置の一部</p>	<p>廃棄物管理施設は、安全機能を有する施設のうち、その機能の喪失により、公衆又は従事者に放射線障害を及ぼすおそれがあるもの及び安全設計上想定される事故が発生した場合に公衆又は従事者に及ぼすおそれがある放射線障害を防止するため、放射性物質又は放射線が廃棄物管理施設を設置する事業所外へ放出されることを抑制し、又は防止する設計とする。</p> <p>安全上重要な施設の有無を確認した結果、何れの施設においても外部事象による設備の破損に伴う安全機能の喪失により、公衆又は従事者に過度の放射線障害を及ぼすおそれがあるものはない。また、安全設計上想定される事故が発生した場合に公衆又は従事者に放射線障害を及ぼす事象はない。</p> <p>したがって、安全設計上想定される事故が発生した場合に公衆又は従事者に及ぼすおそれがある放射線障害を防止するため、放射性物質又は放射線が廃棄物管理施設を設置する事業所外へ放出されることを抑制し、又は防止するものはない。</p>	無	<p>本条項においては、下記記載の変更があるが、変更既許可の適合のための設計方針に変更はなく、事業許可基準規則と適合している。</p> <p>②有機廃液一時格納庫の使用の停止は、施設の停止であるが、施設の除染までのプロセスを踏まえ保守的とするため、評価におけるインベントリを与えたまま既許可と変更はなく、安全上重要な施設の有無を確認した評価の設計方針を変更するものではない。</p> <p>有機溶媒貯槽を受入れ施設にする変更は、既設のβ・γ 焼却装置の一部である有機溶媒貯槽を受入れ施設にするものであり、β・γ 焼却装置に有機溶媒貯槽を含めたインベントリを与えていて既許可と変更はなく、これらを有するβ・γ 固体処理棟Ⅲの安全上重要な施設の有無を確認した評価の設計方針を変更するものではない。</p> <p>③化学処理装置等の使用の停止は、化学処理装置及びセメント固化装置の一部の停止であるが、施設の除染までのプロセスを踏まえ保守的とするため、評価におけるインベントリを与えたまま既許可と変更はなく、これらを有する廃液処理棟の安全上重要な施設の有無を確認した評価の設計方針を変更するものではない。</p>
4	第二条（遮蔽等）	<p>廃棄物管理施設は、当該廃棄物管理施設からの直接線及びスカイライン線による事業所周辺の線量を十分に低減できるよう、遮蔽その他適切な措置を講じたものでなければならない。</p>	<p>② 有機廃液一時格納庫の使用の停止、β・γ 固体処理棟Ⅲの有機溶媒貯槽を新たに液体廃棄物の受入れ施設に変更</p> <p>③ 廃液処理棟の化学処理装置等の使用の停止</p>	<p>有機廃液一時格納庫</p> <p>β・γ 固体処理棟Ⅲの有機溶媒貯槽</p> <p>廃液処理棟の化学処理装置</p> <p>廃液処理棟のセメント固化装置の一部</p>	<p>廃棄物管理施設は、平常時における廃棄物管理施設からの直接線及びスカイライン線により公衆の受ける線量が第17条第1項の放射性物質により公衆の受ける線量を含め、法令に定める線量限度を超えないことはもとより、ALARAの考え方の下、合理的に達成できる限り十分に低いものであること（「発電用軽水型原子炉施設の安全審査における一般公衆の線量評価について」（平成元年3月27日原子力安全委員会了承））を参考に、「実効線量で50マイクロシーベルト／年以下」を達成するため、線量若しくは放射能の高い廃棄物を取り扱う設備又はこれを囲む設備に遮蔽機能を設けることとし、建家のコンクリート壁、廃棄体の適切な配置により遮蔽を行うよう設計する。</p>	無	<p>本条項においては、下記記載の変更があるが、変更既許可の適合のための設計方針に変更はなく、事業許可基準規則と適合している。</p> <p>②有機廃液一時格納庫の使用の停止は、施設の停止であるが、施設の除染までのプロセスを踏まえ保守的とするため、評価におけるインベントリを与えたまま既許可と変更はなく、直接線及びスカイライン線評価の設計方針を変更するものではない。</p> <p>有機溶媒貯槽を受入れ施設にする変更は、既設のβ・γ 焼却装置の一部である有機溶媒貯槽を受入れ施設にするものであり、β・γ 焼却装置に有機溶媒貯槽を含めたインベントリを与えていて既許可と変更はなく、これらを有するβ・γ 固体処理棟Ⅲの直接線及びスカイライン線評価の設計方針を変更するものではない。</p> <p>③化学処理装置等の使用の停止は、化学処理装置及びセメント固化装置の一部の停止であるが、施設の除染までのプロセスを踏まえ保守的とするため、評価におけるインベントリを与えたまま既許可と変更はなく、直接線及びスカイライン線評価の設計方針を変更するものではない。</p>

No.	廃棄物管理施設の位置、構造及び設備の基準に関する規則「事業許可基準規則」（平成二十五年原子力規制委員会規則第三十一号）		該当する変更概要	該当する建家・施設・設備	適合のための設計方針（既許可）	設計方針の変更有無	適合するための対策（事業許可基準規則との適合）
5	第二条等（遮蔽等）	2 廃棄物管理施設は、放射線障害を防止する必要がある場合には、管理区域その他事業所内の人が立ち入る場所における線量を低減できるように、遮蔽その他適切な措置を講じたものでなければならない。	(該当なし)	-	廃棄物管理施設は、遮蔽設計にあたり、放射線業務従事者の立入頻度、立入時間を考慮して関係各場所を適切に区分し、それぞれ基準とする線量率を定め所要の遮蔽を施し、又は作業時間の制限が行えるように考慮すること、遮蔽設備に開口部又は配管その他の貫通部分がある場合であって放射線障害を防止する必要がある場合には、放射線の漏えいを防止するための措置を講ずること、遮蔽設計に用いる線源は、機器類の内包量や施設内での最大取扱い量などを考慮し、遮蔽計算上厳しい評価結果を与えるように線源条件を設定し、遮蔽設計においては、遮蔽体の形状、材質及び寸法を考慮し、十分な安全裕度を見込む設計とする。	無	本条項においては該当する変更がないため、既許可の適合のための設計方針に変更はなく、事業許可基準規則と適合している。
6	第三条（閉じ込めの機能）	廃棄物管理施設は、放射性廃棄物を限定された区域に適切に閉じ込めることができるものでなければならない。	②有機廃液一時格納庫の使用の停止、 β ・ γ 固体処理棟Ⅲの有機溶媒貯槽を新たに液体廃棄物の受入れ施設に変更 ③廃液処理棟の化学処理装置等の使用の停止	有機廃液一時格納庫 β ・ γ 固体処理棟Ⅲの有機溶媒貯槽 廃液処理棟の化学処理装置 廃液処理棟のセメント固化装置の一部	廃棄物管理施設は、放射性物質による空気汚染のおそれのある区域には、排気設備を設け、汚染に起因する放射性物質及びその放射線量に応じて、適切に区画し、負圧に維持することにより、内部の空気がその外部に流れ難い設計とする。 液体廃棄物を内蔵する設備及び機器は、漏えいの発生防止、漏えいの早期検出及び拡大防止する設計とし、ピットや堰、漏えい検出器を備え、貯槽はステンレス鋼板又は合成樹脂でライニングし、漏えいを防止する設計とする。また、建家については、建家外への漏えい防止、敷地外への管理されない放出の防止を考慮した設計とする。 なお、廃棄物管理施設の設計及び管理に際しては、「核燃料物質又は核燃料物質によつて汚染された物の廃棄物管理の事業に関する規則」を遵守するとともに、気体廃棄物は、排気浄化装置を通した後、放射性物質の濃度を監視しながら排気口から放出する。また、放出に当たっては、周辺監視区域外の空気中の放射性物質の濃度が「線量告示」の濃度限度以下となるようにするとともに放出される放射性物質による周辺監視区域外の一般公衆の線量が合理的に達成可能な限り低くなるようにする。	無	本条項においては、下記記載の変更があるが、変更既許可の適合のための設計方針に変更はなく、事業許可基準規則と適合している。 ②有機廃液一時格納庫の使用の停止は、施設の停止であり、閉じ込めの機能の設計方針を変更するものではない。 有機溶媒貯槽を受入れ施設にする変更は、既設の β ・ γ 焼却装置の一部である有機溶媒貯槽を受入れ施設にするものであり、これらを有する β ・ γ 固体処理棟Ⅲの閉じ込めの機能の設計方針を変更するものではない。 ③化学処理装置等の使用の停止は、化学処理装置及びセメント固化装置の一部の停止であり、閉じ込めの機能の設計方針を変更するものではない。
7	第四条（火災等による損傷の防止）	廃棄物管理施設は、火災又は爆発により当該廃棄物管理施設の安全性が損なわれないよう、次に掲げる措置を適切に組み合わせた措置を講じたものでなければならない。 一 火災及び爆発の発生を防止すること。	②有機廃液一時格納庫の使用の停止、 β ・ γ 固体処理棟Ⅲの有機溶媒貯槽を新たに液体廃棄物の受入れ施設に変更 ③廃液処理棟の化学処理装置等の使用の停止	有機廃液一時格納庫 β ・ γ 固体処理棟Ⅲの有機溶媒貯槽 廃液処理棟の化学処理装置 廃液処理棟のセメント固化装置の一部	廃棄物管理施設は、火災又は爆発により当該廃棄物管理施設の安全性が損なわれないよう、廃棄物管理施設の建家は、構造材料に不燃材を用い、主要な設備は、パッキン、排気フィルタの枠を除き可能な限り不燃性又は難燃性材料を使用する設計とする。やむを得ず不燃性以外の材料を使用する場合は、着火源を付近から排除する設計とする。 焼却処理及び熔融処理を行う設備及び機器を構成する材料はもとより、付近の設備及び機器を構成する材料は、伝熱及び輻射熱を考慮して耐火性、耐熱性及び耐食性の材料を使用する設計とする。 また、火災のおそれのある電気設備、予備電源設備、焼却や熔融処理を行う設備、無停電電源装置は、過電流、温度上昇、圧力上昇、漏えいを検知し又は防止する設計とする。	無	本条項においては、下記記載の変更があるが、変更既許可の適合のための設計方針に変更はなく、事業許可基準規則と適合している。 ②有機廃液一時格納庫の使用の停止は、施設の停止であり、火災等による損傷の防止の設計方針を変更するものではない。 有機溶媒貯槽を受入れ施設にする変更は、既設の β ・ γ 焼却装置の一部である有機溶媒貯槽を受入れ施設にするものであり、これらを有する β ・ γ 固体処理棟Ⅲの火災等による損傷の防止の設計方針を変更するものではない。 ③化学処理装置等の使用の停止は、化学処理装置及びセメント固化装置の一部の停止であり、火災等による損傷の防止の設計方針を変更するものではない。

No.	廃棄物管理施設の位置、構造及び設備の基準に関する規則「事業許可基準規則」（平成二十五年原子力規制委員会規則第三十一号）	該当する変更概要	該当する建家・施設・設備	適合のための設計方針（既許可）	設計方針の変更有無	適合するための対策（事業許可基準規則との適合）
8	第四条（火災等による損傷の防止）	二 火災及び爆発の発生を早期に感知し、及び消火すること。	有機廃液一時格納庫 β ・ γ 固体処理棟Ⅲの有機溶媒貯槽 廃液処理棟の化学処理装置 廃液処理棟のセメント固化装置の一部	廃棄物管理施設は、火災又は爆発により当該廃棄物管理施設の安全性が損なわれないよう、放出前廃液を排水する施設（排水監視施設）を除き、廃棄物の処理、管理、受入れ施設には自動火災報知設備を設け、廃棄物管理施設の各施設（固体廃棄物減容処理施設を除く。）から管理機械棟の集中監視設備に、及び固体廃棄物減容処理施設は当該施設の運転監視室の集中監視設備に表示するとともに、警備所にも表示する設計とすることにより火災及び爆発の発生を早期に感知し、及び自動又は手動にて消火する設計とする。	無	本条項においては、下記記載の変更があるが、変更既許可の適合のための設計方針に変更はなく、事業許可基準規則と適合している。 ②有機廃液一時格納庫の使用の停止は、施設の停止であり、火災等による損傷の防止の設計方針を変更するものではない。 有機溶媒貯槽を受入れ施設にする変更は、既設の β ・ γ 焼却装置の一部である有機溶媒貯槽を受入れ施設にするものであり、これらを有する β ・ γ 固体処理棟Ⅲの火災等による損傷の防止の設計方針を変更するものではない。 ③化学処理装置等の使用の停止は、化学処理装置及びセメント固化装置の一部の停止であり、火災等による損傷の防止の設計方針を変更するものではない。
9	第四条（火災等による損傷の防止）	三 火災及び爆発の影響を軽減すること	有機廃液一時格納庫 β ・ γ 固体処理棟Ⅲの有機溶媒貯槽 廃液処理棟の化学処理装置 廃液処理棟のセメント固化装置の一部	廃棄物管理施設は、火災又は爆発により当該廃棄物管理施設の安全性が損なわれないよう、防火区画を設けて建家内で発生するおそれのある火災の影響を最小限に抑えるとともに、廃棄物管理施設の管理区域内には可燃性の物を、原則、設置及び保管しない。やむを得ず管理区域に保管が必要なもの（作業上必要なマニュアルや防護資材等）は、必要最小限、かつ鋼製扉を有する保管棚内に保管し、使用の都度、必要な量を持ち出す管理を行うことにより、火災及び爆発の影響を軽減する設計とする。また、火災時にあっても延焼により安全機能に影響がないよう、伝熱及び輻射熱を考慮して、使用材料の表面温度が耐熱温度を超えないように設計する。	無	本条項においては、下記記載の変更があるが、変更既許可の適合のための設計方針に変更はなく、事業許可基準規則と適合している。 ②有機廃液一時格納庫の使用の停止は、施設の停止であり、火災等による損傷の防止の設計方針を変更するものではない。 有機溶媒貯槽を受入れ施設にする変更は、既設の β ・ γ 焼却装置の一部である有機溶媒貯槽を受入れ施設にするものであり、これらを有する β ・ γ 固体処理棟Ⅲの火災等による損傷の防止の設計方針を変更するものではない。 ③化学処理装置等の使用の停止は、化学処理装置及びセメント固化装置の一部の停止であり、火災等による損傷の防止の設計方針を変更するものではない。

No.	廃棄物管理施設の位置、構造及び設備の基準に関する規則「事業許可基準規則」（平成二十五年原子力規制委員会規則第三十一号）	該当する変更概要	該当する建家・施設・設備	適合のための設計方針（既許可）	設計方針の変更有無	適合するための対策（事業許可基準規則との適合）
13	第六条（地震による損傷の防止）	<p>廃棄物管理施設は、地震力に十分に耐えることができないものでなければならない。</p> <p>② 有機廃液一時格納庫の使用の停止、$\beta \cdot \gamma$ 固体処理棟Ⅲの有機溶媒貯槽を新たに液体廃棄物の受入れ施設に変更</p> <p>③ 廃液処理棟の化学処理装置等の使用の停止</p>	<p>有機廃液一時格納庫</p> <p>$\beta \cdot \gamma$ 固体処理棟Ⅲの有機溶媒貯槽</p> <p>廃液処理棟の化学処理装置</p> <p>廃液処理棟のセメント固化装置の一部</p>	<p>廃棄物管理施設は、第一条（定義）における安全上重要な施設の有無の確認の結果、いずれの施設も外部事象による安全機能の喪失により、公衆又は従事者に過度の放射線障害を及ぼすおそれはない。したがって、Sクラス施設はなく、Bクラス及びCクラス施設のみである。BクラスとCクラスの区分に関しては、地震の発生を想定した安全機能の喪失を仮定し、公衆の被ばく線量評価結果に基づき、基本的には公衆の被ばく線量が $50 \mu\text{Sv}$ を超える施設をBクラスに、またこれ以下の施設をCクラスに分類する。</p> <p>ただし、α 核種を含む固体廃棄物を処理する設備については、地震時の閉じ込め機能をより確かなものとするため、$50 \mu\text{Sv}$ 以下であっても耐震Bクラスとしている。また、α 核種を含まない固体廃棄物を処理する設備のうち飛散しやすい焼却灰を取り扱う設備については、同様に、$50 \mu\text{Sv}$ 以下であっても耐震Bクラスとしている。さらに、α 核種を含まない高線量の廃棄物を受入又は処理する設備は、地震時の遮蔽機能をより確かなものとするため、$50 \mu\text{Sv}$ 以下であっても耐震Bクラスとしている。</p> <p>廃棄物管理施設の耐震設計は、「廃棄物管理施設の位置、構造及び設備の基準に関する規則」及び同解釈（平成25年12月18日施行）を適用し、耐震設計を行い、適切と認められる設計用地震力に対してこれが大きな事故の誘因とならないように以下の方針に従って行い、廃棄物管理施設に十分な耐震性を持たせる。</p> <p>(1) 廃棄物管理施設の建家、設備、機器、配管系統及びそれらの支持構造物は、十分な強度・剛性及び耐力を有する構造とする。</p> <p>(2) 廃棄物管理施設の耐震設計上の重要度は、地震により発生する可能性のある放射線による環境への影響の観点からSクラス、Bクラス及びCクラスに分類し、それぞれ重要度に応じた耐震設計を行う。</p> <p>(3) 廃棄物管理施設の構造及び配置は、地震の影響が低減されるように考慮する。</p> <p>廃棄物管理施設は、設計最大評価事故において 5mSv を超えないため、Sクラス施設はない。</p>	無	<p>本条項においては、下記記載の変更があるが、変更既許可の適合のための設計方針に変更はなく、事業許可基準規則と適合している。</p> <p>②有機廃液一時格納庫の使用の停止は、施設の停止であり、地震による損傷の防止の設計方針を変更するものではない。 有機溶媒貯槽を受入れ施設にする変更は、既設の $\beta \cdot \gamma$ 焼却装置の一部である有機溶媒貯槽を受入れ施設にするものであり、これらを有する $\beta \cdot \gamma$ 固体処理棟Ⅲの地震による損傷の防止の設計方針を変更するものではない。</p> <p>③化学処理装置等の使用の停止は、化学処理装置及びセメント固化装置の一部の停止であり、地震による損傷の防止の設計方針を変更するものではない。</p> <p>なお、既許可において、有機廃液一時格納庫は耐震クラスCとしており、新たに受入れ施設に変更する有機溶媒貯槽は、$\beta \cdot \gamma$ 固体処理棟Ⅲの耐震クラスBとなるが、設計方針を変更するものではない。</p>
14	第六条（地震による損傷の防止）	2 前項の地震力は、地震の発生によって生ずるおそれがある廃棄物管理施設の安全機能の喪失に起因する放射線による公衆への影響の程度に応じて算定しなければならない。	(該当なし)	-	無	本条項においては該当する変更がないため、既許可の適合のための設計方針に変更はなく、事業許可基準規則と適合している。
15	第六条（地震による損傷の防止）	3 安全上重要な施設は、その供用中に当該安全上重要な施設に大きな影響を及ぼすおそれがある地震による加速度によって作用する地震力に対して安全機能が損なわれるおそれがないものでなければならない。	(該当なし)	-	無	本条項においては該当する変更がないため、既許可の適合のための設計方針に変更はなく、事業許可基準規則と適合している。

No.	廃棄物管理施設の位置、構造及び設備の基準に関する規則「事業許可基準規則」（平成二十五年原子力規制委員会規則第三十一号）		該当する変更概要	該当する建家・施設・設備	適合のための設計方針（既許可）	設計方針の変更有無	適合するための対策（事業許可基準規則との適合）
16	第六条 （地震による損傷の防止）	4 安全上重要な施設は、前項の地震の発生によって生ずるおそれがある斜面の崩壊に対して安全機能が損なわれるおそれがないものでなければならない。	（該当なし）	-	廃棄物管理施設には、安全上重要な施設はない。よって、耐震Bクラス又はCクラスとして、それぞれの地震力に対して安全機能を損なわない設計とする。	無	本条項においては該当する変更がないため、既許可の適合のための設計方針に変更はなく、事業許可基準規則と適合している。
17	第七条 （津波による損傷の防止）	廃棄物管理施設は、その供用中に当該廃棄物管理施設に大きな影響を及ぼすおそれがある津波に対して安全性が損なわれるおそれがないものでなければならない	②有機廃液一時格納庫の使用の停止	有機廃液一時格納庫	<p>津波による損傷の防止に係る設計方針は、想定する津波を、廃棄物管理施設に近い場所での過去の津波のうち最大の高さを考慮し想定する。</p> <p>過去最大クラスの津波は、延宝房総沖地震津波（1677年）における大洗町での推定浸水高5～6mである。</p> <p>想定する津波の遡上高さは、茨城県が「津波防災地域づくりに関する法律」（平成23年法律123号）に基づき平成24年8月に評価した茨城沿岸津波浸水想定において、茨城沿岸に最大クラスの津波をもたらすと想定される2011年東北地方太平洋地震津波及び1677年延宝房総沖地震津波についてシミュレーション結果を重ね合わせ、最大となる浸水域と浸水深さを抽出している。この中で、廃棄物管理施設における津波の遡上高さは標高9mであるため、これを想定する津波の遡上高さとする。</p> <p>廃棄物管理施設は、標高24m～40mで、津波による遡上波が到達しない十分高い場所に設置する。また、排水監視施設が一般排水溝と接続されているため、一般排水溝から津波が遡上するおそれがあるが、接続点付近の標高は20m以上あり、津波最大遡上高9mに比べて十分高い位置にあるため影響はない。</p>	無	<p>本条項においては、下記記載の変更があるが、変更既許可の適合のための設計方針に変更はなく、事業許可基準規則と適合している。</p> <p>②有機廃液一時格納庫の使用の停止は、施設の停止であり、津波による損傷の防止の設計方針を変更するものではない。</p>

18	第8条 (外部からの衝撃による損傷の防止)	<p>廃棄物管理施設は、想定される自然現象（地震及び津波を除く。）が発生した場合においても安全性を損なわないものでなければならない。</p>	<p>①外部からの衝撃に対して、維持すべき安全機能の適正化</p> <p>②有機廃液一時格納庫の使用の停止、β・γ固体処理棟Ⅲの有機溶媒貯槽を新たに液体廃棄物の受入れ施設に変更</p> <p>③廃液処理棟の化学処理装置等の使用の停止</p>	<p>廃棄物管理施設の全施設</p> <p>有機廃液一時格納庫</p> <p>β・γ固体処理棟Ⅲの有機溶媒貯槽</p> <p>廃液処理棟の化学処理装置</p> <p>廃液処理棟のセメント固化装置の一部</p>	<p>廃棄物管理施設は、敷地及び敷地周辺の自然環境を基に、廃棄物管理施設に影響を及ぼし得る自然現象として、洪水、降水、風（台風）、竜巻、凍結、積雪、落雷、地滑り、火山の影響、生物学的事象及び森林火災の11事象を抽出する。</p> <p>(1) 洪水 廃棄物管理施設は、洪水・土砂災害ハザードマップによると、敷地北部を流れる那珂川の浸水想定区域から十分離れていること、また、降水に対しては、廃棄物管理施設は標高約24～40mの台地に設置されており、敷地に降った雨水は主に敷地を西から東に流れるように設置した一般排水溝に流入し、排水能力を超える分は敷地内を表流水として谷地に流れ及び地面に浸透し、鹿島灘に流れることから、設計上考慮する必要はない。これらのような地形の状況からみて、洪水の影響により廃棄物管理施設の安全性が損なわれることはない。</p> <p>(2) 風（台風） 水戸地方気象台の観測記録（1937年～2013年）における最大瞬間風速を考慮し、建築基準法に基づき風荷重を設定し、これに対し構造健全性を有する設計とする。</p> <p>(3) 竜巻 最大風速69m/sの竜巻が発生した場合において、全ての施設を対象に影響を評価した結果、事前の廃棄物の退避が困難な廃棄物の処理又は保管を行う施設の主要な安全機能である遮蔽機能及び閉じ込め機能を有する設備は、飛来物となり得る設備の固縛や評価対象設備への飛来物の衝突を防ぐ設備の設置により、構造健全性を維持し安全機能を損なわない設計とする。</p> <p>消火設備のうちガス消火設備については、設備を有する建家又は設備（セル等）に損傷は生じず、屋外に敷設している配管の損傷を防止するための対策を講じ、構造健全性を維持し、安全機能を損なわない設計とする。</p> <p>その他の安全機能については、地震後の施設の点検と同様、竜巻襲来後には施設を点検することや、安全機能が喪失した設備については、あらかじめ配置している代替設備・機器（通信連絡設備においては無線連絡設備、放射線管理設備についてはサーベイメータ、消火設備については消火器や消火栓設備、火災検知設備）により、人員が現場に駆けつけて対応できることを含め、必要な安全機能を損なわない設計とする。</p> <p>また、藤田スケール（以下Fとする。）1クラスの最大風速である49m/sにおいては、施設の構造健全性を維持し、全ての安全機能が損なわれない設計とする。</p> <p>竜巻随伴事象として、「原子力発電所の竜巻影響評価ガイド」に基づき、火災、溢水及び外部電源喪失を考慮する。火災については、自動車の衝突により発生する火災の影響を評価して、安全機能の維持に影響を与えない設計とする。溢水については、廃棄物管理施設内で溢水が発生した場合においても、安全機能を損なわないよう、放射性物質を含む液体を内包する容器又は配管の破損によって、放射性物質を含む液体が管理区域外へ漏れいすることを防止できるよう堰やピットを設ける設計とすることで、安全機能の維持に影響を与えない設計とする。外部電源喪失については、廃棄物管理施設の遮蔽機能及び閉じ込め機能を維持するための電力は不要であることから、外部電源喪失の影響により廃棄物管理施設の安全性が損なわれることはない。</p> <p>設計上想定した竜巻に対しては、全ての安全機能を維持する設計とし、F2の最大風速の竜巻に対しては遮蔽及び閉じ込めの機能を有する設備の構造健全性を維持して、必要な場合には代替設備等の活用により安全機能を維持する。また、F1の最大風速に対しては、施設の構造健全性を維持し、全ての安全機能が損なわれない設計とする。</p> <p>(4) 凍結</p>	<p>有</p> <p>①廃棄物管理施設は、外部からの衝撃（想定される自然現象及び想定される廃棄物管理施設の安全性を損なわせる原因となるおそれがある事象であって人為によるもの（故意によるものを除く。））の影響により安全性を損なうことのない設計である。</p> <p>本変更において、遮蔽機能及び閉じ込め機能を有する設備並びに遠隔操作により消火を行うガス消火設備については、代替設備・機器を用いて速やかな機能維持ができないことから、公衆被ばくのリスクに鑑み、安全性を損なうことのない設計とする。また、外部からの衝撃により他の安全機能を喪失した際には、人員が駆けつけて、代替設備・機器を用いて機能を確保する。</p> <p>この変更は、安全機能の適正化であり、安全性を損なわない設計方針に変更はないことから、事業許可基準規則と適合している。</p> <p>下記記載の変更は、変更既許可の適合のための設計方針に変更はなく、事業許可基準規則と適合している。</p> <p>②有機廃液一時格納庫の使用の停止は、施設の停止であるが、施設の除染までのプロセスを踏まえ保守的とするため、評価におけるインベントリを与えたままで既許可と変更はなく、外部からの衝撃による損傷の防止の設計方針を変更するものではない。</p> <p>有機溶媒貯槽を受入れ施設にする変更は、既設のβ・γ焼却装置の一部である有機溶媒貯槽を受入れ施設にするものであり、β・γ焼却装置に有機溶媒貯槽を含めたインベントリを与えていて既許可と変更はなく、これらを有するβ・γ固体処理棟Ⅲの外部からの衝撃による損傷の防止の設計方針を変更するものではない。</p> <p>③化学処理装置等の使用の停止は、化学処理装置及びセメント固化装置の一部の停止であるが、施設の除染までのプロセスを踏まえ保守的とするため、評価におけるインベントリを与えたままで既許可と変更はなく、これらを有する廃液処理棟の外部からの衝撃による損傷の防止の設計方針を変更するものではない。</p>
----	--------------------------	--	---	---	--	--

				<p>水戸地方気象台の観測記録（1897年～2013年）の日最低気温の極値を考慮し、廃棄物管理施設に設置する屋外設置の開放型の冷却塔については、冬季には水温を調整するヒーター機能を有する設計とする。また、換気フィルタユニットについては、乾式で使用する設計とし、-60℃まで使用できるフィルタパッキンを用いる設計とする。</p> <p>（5）降水 降水に対しては、廃棄物管理施設は標高約24～40mの台地に設置されており、敷地に降った雨水は主に敷地を西から東に流れるように設置した一般排水溝に流入し、排水能力を超える分は敷地内を表流水として谷地に流れ及び地面に浸透し、鹿島灘に流れることから、設計上考慮する必要はない。</p> <p>（6）積雪 積雪については、水戸地方気象台の観測結果（1897年～2013年）における最大積雪量32cmを考慮し、茨城県建築基準法関係法令に基づく30cmを超えることから40cm以上の積雪を考慮した設計とする。</p> <p>（7）落雷 主要な建家、設備には避雷設備を備え、落雷の影響で自動火災報知設備が機能喪失しないように設計及び管理する。なお、避雷設備の保護範囲外の施設の自動火災報知設備については、機能を損傷しないようサージキラーにより過電圧を大地に放電するように設計されている。これらのことから、落雷の影響により廃棄物管理施設の安全性が損なわれることはない。</p> <p>（8）地滑り 廃棄物管理施設の設置位置及びその周辺には変位地形は認められず、地すべり及び陥没の発生した形跡も、地滑り、山崩れのおそれのある急斜面も認められないことから考慮しない。</p> <p>（9）火山の影響 抽出した火山の活動に関する個別評価を行った結果、廃棄物管理施設の供用期間において、設計対応不可能な火山事象のうち、溶岩流、岩屑なだれ、地滑り及び斜面崩壊については、敷地との間に十分な離隔距離があること、火砕物密度流については、抽出した火山に関する火砕物密度流の分布範囲が廃棄物管理施設から十分に離れていること、新しい火口の開口及び地殻変動については、敷地周辺に火山活動が確認されていないこと及び抽出した火山が敷地から十分に離れていることから、いずれも廃棄物管理施設に影響を与えるおそれはないと評価している。</p> <p>（10）生物学的事象 廃棄物管理施設の敷地内及び周辺環境から、廃棄物管理施設において想定される生物学的事象としては、海洋生物、小動物、微生物、昆虫による影響が考えられるが、海洋及び湖水からの取水を施設の運転に使用していないか、取水が停止しても施設を停止すれば問題ないため、海洋生物や微生物によっては安全性に影響は生じない。また、小動物や昆虫の侵入による影響は考えられるが、施設を停止することで安全機能が損なわれることはない。</p> <p>（11）森林火災 廃棄物管理施設の敷地外で発生した森林火災が敷地内の草木に延焼した場合の影響について、大洗研究所外で発生した火災が飛び火し、敷地内の落ち葉及び立木へと延焼するシナリオを想定し、施設に隣接する立木にまで燃え広がった時の施設外壁面温度を、「原子力発電所の外部火災影響評価ガイド」を参考に独自の 방법으로評価した結果、施設外壁温度の最高温度は約160℃であり、一般にコンクリートの強度に影響がないとされている。耐熱温度（200℃）には達しないこと、また、施設の内部の最高温度が設備、機器の材料の耐熱温度を下回ることから、施設の安全機能が損なわれることはない。これらのことから、森林火災の影響により廃棄物管理施設の安全性が損なわれ</p>	
--	--	--	--	---	--

No.	廃棄物管理施設の位置、構造及び設備の基準に関する規則「事業許可基準規則」（平成二十五年原子力規制委員会規則第三十一号）	該当する変更概要	該当する建家・施設・設備	適合のための設計方針（既許可）	設計方針の変更有無	適合するための対策（事業許可基準規則との適合）
				<p>ることはない。</p> <p>（１２）ばい煙 火災に伴い発生するばい煙に対して、廃棄物管理施設は、施設を速やかに停止できることから、施設の安全機能が損なわれるおそれはない。</p> <p>（１３）自然現象の組合せ 施設の影響（荷重（地震、積雪又は降下火砕物）、浸水（洪水又は降水）、温度（凍結又は外部火災）及び電気（落雷））について、洪水と降水、積雪と凍結、降下火砕物と降水、降下火砕物と積雪のように自然現象の組合せを想定し、想定される荷重を組み合わせた場合においても、安全機能を損なうおそれがない設計とする。</p>		

19	第8条 (外部からの衝撃による損傷の防止)	<p>2 廃棄物管理施設は、事業所又はその周辺において想定される当該廃棄物管理施設の安全性を損なわせる原因となるおそれがある事象であって人為によるもの（故意によるものを除く。）に対して安全性を損なわないものでなければならない。</p>	<p>①外部からの衝撃に対して、維持すべき安全機能の適正化</p> <p>②有機廃液一時格納庫の使用の停止、$\beta \cdot \gamma$ 固体処理棟Ⅲの有機溶媒貯槽を新たに液体廃棄物の受入れ施設に変更</p> <p>③廃液処理棟の化学処理装置等の使用の停止</p>	<p>廃棄物管理施設の全施設</p> <p>有機廃液一時格納庫</p> <p>$\beta \cdot \gamma$ 固体処理棟Ⅲの有機溶媒貯槽</p> <p>廃液処理棟の化学処理装置</p> <p>廃液処理棟のセメント固化装置の一部</p>	<p>廃棄物管理施設は、敷地及び敷地周辺の状況を基に、廃棄物管理施設に影響を及ぼし得る人為事象（故意によるものを除く。）として、飛来物（航空機落下等）、ダム崩壊、施設内貯槽の決壊、近隣工場等の火災、有毒ガス、船舶の衝突又は電磁波障害の7事象を抽出する。</p> <p>(1) 飛来物（航空機落下等） 廃棄物管理施設の航空機落下確率を評価基準に基づき評価した結果、廃棄物管理施設周辺飛行場での民間航空機の離着陸時及び上空の航空路を飛行中の民間航空機、自衛隊機及び米軍機が本施設に落下する確率は、基準に定められた標準的な面積 0.01km² を各建家に用いた場合は、約 8.7×10⁻⁸ 回/施設・年であり、廃棄物管理施設の各建家の近接の程度に応じて、それぞれ独立した半径 100m の円に入るように、敷地北部の建家を東側と西側に、敷地東部は固体廃棄物減容処理施設として評価した場合は、約 1.3×10⁻⁸～約 8.5×10⁻⁸ となり、10⁻⁷ 回/施設・年を下回ることから、航空機落下に対する防護設計を要しない。</p> <p>(2) ダム崩壊 廃棄物管理施設の近くには、ダムの崩壊により本施設に影響を及ぼすような河川はない。 また、敷地内にある夏海湖が決壊した場合を想定しても、湖水は廃棄物管理施設の標高に比べて十分低い一般排水溝又は敷地北部の谷地に流れるため、廃棄物管理施設の安全性を損なうことはない。</p> <p>(3) 施設内貯槽の決壊 廃棄物管理施設において、貯槽を内蔵する建家は、貯槽が決壊した場合でも廃液を受けることができる堰、ピットを有しているため、廃液があふれることはなく、廃棄物管理施設の安全性を損なうことはない。</p> <p>(4) 近隣工場等の火災 廃棄物管理施設の近傍に工場はなく、敷地の西側に日本核燃料開発株式会社及び日揮株式会社があるが、いずれの企業も技術開発や研究が中心であり、廃棄物管理施設から十分な距離がある。敷地内において、危険物施設は 36 施設、少量危険物貯蔵・取扱所は 23 施設で、このうち 5 施設は屋外貯蔵所である。これらの施設は消防法に基づく基準により設置され、その多くが地下又は屋内施設であり、外部からの火災の発生は想定しえない。構内を走行するタンクローリについても、消防法の基準に基づくものを使用し、大洗研究所で定める関連規則に基づき誘導員の配置及びタンクローリの徐行を行い、各施設で管理、運用しているため、外部からの火災の発生源となることはない。これらのことから、近隣工場等の火災によって廃棄物管理施設は安全性を損なうことはない。</p> <p>(5) 有毒ガス 廃棄物管理施設の近傍に有毒ガスの発生源となる化学物質を取り扱う工場及び施設はないため、有毒ガスによる敷地外からの影響については考慮する必要はない。敷地内の廃棄物管理施設以外の施設については、試験研究等に使用するため化学物質を所有する施設があるが、これらの化学物質は大洗研究所で定める関連規則に基づき、各施設で管理、運用しているため、廃棄物管理施設の安全性を損なうことはない。</p> <p>(6) 船舶の衝突 廃棄物管理施設から最も近い海上交通路としては、敷地の北北東約 5km に大洗港があり、大洗から苫小牧港への長距離フェリーが商船三井フェリーによって運航されているが、廃棄物管理施設からは十分な距離が離れている。また、廃棄物管理施設は標高 24～40m に設置され、津波を考慮しても、廃棄物管理施設に船舶が衝突することはないことから、設計上考慮する必要はない。</p> <p>(7) 電磁波障害</p>	<p>有</p> <p>①廃棄物管理施設は、外部からの衝撃（想定される自然現象及び想定される廃棄物管理施設の安全性を損なわせる原因となるおそれがある事象であって人為によるもの（故意によるものを除く。））の影響により安全性を損なうことのない設計である。 本変更において、遮蔽機能及び閉じ込め機能を有する設備並びに遠隔操作により消火を行うガス消火設備については、代替設備・機器を用いて速やかな機能維持ができないことから、公衆被ばくのリスクに鑑み、安全性を損なうことのない設計とする。また、外部からの衝撃により他の安全機能を喪失した際には、人員が駆けつけて、代替設備・機器を用いて機能を確保する。 この変更は、安全機能の適正化であり、安全性を損なわない設計方針に変更はないことから、事業許可基準規則と適合している。</p> <p>下記記載の変更は、変更既許可の適合のための設計方針に変更はなく、事業許可基準規則と適合している。</p> <p>②有機廃液一時格納庫の使用の停止は、施設の停止であるが、施設の除染までのプロセスを踏まえ保守的とするため、評価におけるインベントリを与えたまま既許可と変更はなく、外部からの衝撃による損傷の防止の設計方針を変更するものではない。 有機溶媒貯槽を受入れ施設にする変更は、既設の $\beta \cdot \gamma$ 焼却装置の一部である有機溶媒貯槽を受入れ施設にするものであり、$\beta \cdot \gamma$ 焼却装置に有機溶媒貯槽を含めたインベントリを与えて既許可と変更はなく、これらを有する $\beta \cdot \gamma$ 固体処理棟Ⅲの外部からの衝撃による損傷の防止の設計方針を変更するものではない。</p> <p>③化学処理装置等の使用の停止は、化学処理装置及びセメント固化装置の一部の停止であるが、施設の除染までのプロセスを踏まえ保守的とするため、評価におけるインベントリを与えたまま既許可と変更はなく、これらを有する廃液処理棟の外部からの衝撃による損傷の防止の設計方針を変更するものではない。</p>
----	--------------------------	---	---	---	---	--

No.	廃棄物管理施設の位置、構造及び設備の基準に関する規則「事業許可基準規則」（平成二十五年原子力規制委員会規則第三十一号）	該当する変更概要	該当する建家・施設・設備	適合のための設計方針（既許可）	設計方針の変更有無	適合するための対策（事業許可基準規則との適合）
				廃棄物管理施設には電磁波障害を受ける機器はないため、施設の安全機能が損なわれるおそれはない。		
20	第9条 （廃棄物管理施設への人の不法な侵入等の防止）	事業所には、廃棄物管理施設への人の不法な侵入、廃棄物管施設に不正に爆発性又は易燃性を有する物件その他人に危害を与え、又は他の物件を損傷するおそれがある物件が持ち込まれること及び不正アクセス行為（不正アクセス行為の禁止等に関する法律（平成十一年法律第百二十八号）第二条第四項に規定する不正アクセス行為をいう。）を防止するための設備を設けなければならない。	（変更なし）	-	無	本条項においては該当する変更がないため、既許可の適合のための設計方針に変更はなく、事業許可基準規則と適合している。
21	第10条 （核燃料物質の臨界防止）	廃棄物管理施設は、核燃料物質が臨界に達するおそれがある場合には、臨界を防止するために必要な措置を講じなければならない	③廃液処理棟の化学処理装置等の使用の停止	廃液処理棟の化学処理装置	無	本条項においては、下記記載の変更があるが、変更既許可の適合のための設計方針に変更はなく、事業許可基準規則と適合している。 ③化学処理装置等の使用の停止は、化学処理装置及びセメント固化装置の一部の停止であり、処理能力の変更は、既許可の廃棄物管理施設の核燃料物質の臨界防止に係る設計方針を変更するものではない。

No.	廃棄物管理施設の位置、構造及び設備の基準に関する規則「事業許可基準規則」(平成二十五年原子力規制委員会規則第三十一号)	該当する変更概要	該当する建家・施設・設備	適合のための設計方針(既許可)	設計方針の変更有無	適合するための対策(事業許可基準規則との適合)	
22	第11条(安全機能を有する施設)	安全機能を有する施設は、その安全機能の重要度に応じてその機能が確保されたものでなければならない。	(該当なし)	-	廃棄物管理施設の安全機能を有する施設については、その安全機能の喪失を仮定して重要度を区分し、必要な安全機能を確保する設計とする。安全機能を有する施設の内、機能喪失により公衆又は従事者に放射線障害を及ぼすおそれがある施設を、安全上重要な施設とする。安全上重要な施設を選定した結果、何れの施設においてもその機能の喪失により、公衆又は従事者に放射線障害を及ぼすおそれがあるものはない。また、安全設計上想定される事故が発生した場合に公衆又は従事者に放射線障害を及ぼす事象はない。そのため、廃棄物管理施設には、安全上重要な施設はない。	無	本条項においては該当する変更がないため、既許可の適合のための設計方針に変更はなく、事業許可基準規則と適合している。
23	第11条(安全機能を有する施設)	2 安全機能を有する施設を他の原子力施設と共用し、又は安全機能を有する施設に属する設備を一の廃棄物管理施設において共用する場合には、廃棄物管理施設の安全性を損なわないものでなければならない。	④ 共用設備に係る記載の見直し	共用設備	安全機能を有する施設を他の原子力施設と共用する設備としては商用電源の受電設備、放送設備、またモニタリング設備のうち、モニタリングポスト及びモニタリングカーがある。廃棄物管理施設内では受電設備及び予備電源を共用している。これらの共用施設で故障等が発生した場合には、予備設備、代替設備及び代替機器により廃棄物管理施設の安全性を損なわない設計とする。	無	本条項においては、下記記載の変更があるが、変更既許可の適合のための設計方針に変更はなく、事業許可基準規則と適合している。 ④他の原子力施設と共用する設備としている一部設備を大洗研究所(北地区)原子炉施設に属する設備として、所管を明確化するための記載の見直しであり、廃棄物管理施設の安全性を損なわないとする既許可の適合のための設計方針に変更はない。
24	第11条(安全機能を有する施設)	3 安全機能を有する施設は、当該施設の安全機能を確認するための検査又は試験及び当該安全機能を健全に維持するための保守又は修理ができるものでなければならない。	○法令改正に伴う見直し	-	廃棄物管理施設の安全機能を有する施設は、当該施設の安全機能が維持されることを確認するために、その機能の重要度に応じて、設備の運転中又は停止中に定期的に試験又は検査ができる設計とし、施設定期自主検査で確認することを保安規定で定め、遵守する。また、保守及び修理を行えるよう設計する。	無	本条項においては、下記記載の変更があるが、変更既許可の適合のための設計方針に変更はなく、事業許可基準規則と適合している。 ○法令改正に伴う管理方法の見直しであり、施設定期自主検査で確認することを保安規定で定めることとしていた記載を施設管理実施計画において確認する変更である。 施設の安全機能を確認するための検査又は試験及び当該安全機能を健全に維持するための保守又は修理ができるものとする既許可の適合のための設計方針に変更はない。
25	第11条(安全機能を有する施設)	4 安全上重要な施設又は当該施設が属する系統は、廃棄物管理施設の安全性を確保する機能を維持するために必要がある場合には、多重性を有しなければならない。	(該当なし)	-	当該廃棄物管理施設には、安全上重要な施設はないため、系統の多重性は必要としない。	無	本条項においては該当する変更がないため、既許可の適合のための設計方針に変更はなく、事業許可基準規則と適合している。

No.	廃棄物管理施設の位置、構造及び設備の基準に関する規則「事業許可基準規則」（平成二十五年原子力規制委員会規則第三十一号）		該当する変更概要	該当する建家・施設・設備	適合のための設計方針（既許可）	設計方針の変更有無	適合するための対策（事業許可基準規則との適合）
26	第12条（設計最大評価事故時の放射線障害の防止）	<p>廃棄物管理施設は、設計最大評価事故（安全設計上想定される事故のうち、公衆が被ばくする線量を評価した結果、その線量が最大となるものをいう。）が発生した場合において、事業所周辺の公衆に放射線障害を及ぼさないものでなければならない。</p>	<p>② 有機廃液一時格納庫の使用の停止、β・γ固体処理棟Ⅲの有機溶媒貯槽を新たに液体廃棄物の受入れ施設に変更</p> <p>③ 廃液処理棟の化学処理装置等の使用の停止</p>	<p>有機廃液一時格納庫</p> <p>β・γ固体処理棟Ⅲの有機溶媒貯槽</p> <p>廃液処理棟の化学処理装置</p> <p>廃液処理棟のセメント固化装置の一部</p>	<p>廃棄物管理施設の安全設計上想定される事故を想定し、安全設計上想定される事故のうち、公衆が被ばくする線量を評価した結果、固体廃棄物減容処理施設で発生する事故による線量が最大となるが、その場合においても、設計最大評価事故時に公衆が被ばくする線量の評価値が、発生事故あたり5ミリシーベルト以下であり、事業所周辺の公衆に放射線障害を及ぼすおそれはない。</p>	無	<p>本条項においては、下記記載の変更があるが、変更既許可の適合のための設計方針に変更はなく、事業許可基準規則と適合している。</p> <p>②有機廃液一時格納庫の使用の停止は、施設の停止であるが、施設の除染までのプロセスを踏まえ保守的とするため、評価におけるインベントリを与えたまま既許可と変更はなく、設計最大評価事故時の放射線障害の防止の設計方針を変更するものではない。</p> <p>有機溶媒貯槽を受入れ施設にする変更は、既設のβ・γ焼却装置の一部である有機溶媒貯槽を受入れ施設にするものであり、β・γ焼却装置に有機溶媒貯槽を含めたインベントリを与えていて既許可と変更はなく、これらを有するβ・γ固体処理棟Ⅲの設計最大評価事故時の放射線障害の防止の設計方針を変更するものではない。</p> <p>③化学処理装置等の使用の停止は、化学処理装置及びセメント固化装置の一部の停止であるが、施設の除染までのプロセスを踏まえ保守的とするため、評価におけるインベントリを与えたまま既許可と変更はなく、これらを有する廃液処理棟の設計最大評価事故時の放射線障害の防止の設計方針を変更するものではない。</p>

No.	廃棄物管理施設の位置、構造及び設備の基準に関する規則「事業許可基準規則」（平成二十五年原子力規制委員会規則第三十一号）	該当する変更概要	該当する建家・施設・設備	適合のための設計方針（既許可）	設計方針の変更有無	適合するための対策（事業許可基準規則との適合）	
27	第13条（処理施設）	<p>廃棄物管理施設には、必要に応じて、次に掲げるところにより、核原料物質、核燃料物質及び原子炉の規制に関する法律施行令（昭和三十三年政令第三百二十四号）第三十二条第二号に規定する処理を行うための施設を設けなければならない。</p> <p>一 受け入れる放射性廃棄物を処理するために必要な能力を有するものとする。</p>	<p>② 有機廃液一時格納庫の使用の停止、$\beta \cdot \gamma$ 固体処理棟Ⅲの有機溶媒貯槽を新たに液体廃棄物の受入れ施設に変更</p> <p>③ 廃液処理棟の化学処理装置等の使用の停止</p> <p>○液体廃棄物Cの削除</p>	<p>有機廃液一時格納庫</p> <p>$\beta \cdot \gamma$ 固体処理棟Ⅲの有機溶媒貯槽</p> <p>廃液処理棟の化学処理装置</p> <p>廃液処理棟のセメント固化装置の一部</p>	<p>廃棄物管理施設には、受け入れる放射性廃棄物を処理するために必要な能力を有する設計とする。廃棄物管理施設には、受け入れる液体廃棄物を、その性状、含まれる放射性物質の種類及び量に応じて処理するため、廃液処理棟に化学処理装置、廃液蒸発装置Ⅰ、廃液蒸発装置Ⅱ及びセメント固化装置を収納し、廃液貯留施設Ⅰに処理済廃液貯槽を、排水監視施設に排水監視設備を収容し、処理するために必要な能力を有するようにするため、年間で事業所から発生する液体廃棄物及び近隣の事業者から処理を委託される液体廃棄物の総量を処理できる設計とする。</p> <p>また、受け入れる固体廃棄物を、その性状、含まれる放射性物質の種類及び量に応じて処理する施設として、$\beta \cdot \gamma$ 固体処理棟Ⅰに$\beta \cdot \gamma$ 圧縮装置Ⅰ、$\beta \cdot \gamma$ 固体処理棟Ⅱに$\beta \cdot \gamma$ 圧縮装置Ⅱ、$\beta \cdot \gamma$ 固体処理棟Ⅲに$\beta \cdot \gamma$ 焼却装置、$\beta \cdot \gamma$ 固体処理棟Ⅳに$\beta \cdot \gamma$ 封入設備、α 固体処理棟にα 焼却装置、α ホール設備及びα 封入設備並びに固体廃棄物減容処理施設に減容処理設備を収容し、処理するために必要な能力を有するようにするため、年間で事業所から発生する固体廃棄物及び近隣の事業者から処理を委託される固体廃棄物の総量を処理できる設計とする。</p>	無	<p>本条項においては、下記記載の変更があるが、変更既許可の適合のための設計方針に変更はなく、事業許可基準規則と適合している。</p> <p>②有機廃液一時格納庫の使用の停止は、施設の停止であり、処理施設の設計方針を変更するものではない。有機溶媒貯槽を受入れ施設にする変更は、既設の$\beta \cdot \gamma$ 焼却装置の一部である有機溶媒貯槽を受入れ施設にするものであり、これらを有する$\beta \cdot \gamma$ 固体処理棟Ⅲの処理施設の設計方針を変更するものではない。</p> <p>③化学処理装置等の使用の停止は、化学処理装置及びセメント固化装置の一部の停止であり、これらを有する廃液処理棟の処理施設の設計方針を変更するものではない。</p> <p>なお、既許可においては、JMT R原子炉施設から発生する一次冷却水（液体廃棄物A）について年間4,000m³を化学処理装置で、化学処理装置から発生するスラッジをセメント固化装置で処理することとしている。当該施設の廃止処置に伴う見直しであり、他の受け入れる放射性廃棄物を処理するために必要な能力に変更を与えない。</p> <p>また、有機溶媒貯槽を受入れ施設にする変更は、液体廃棄物A及び液体廃棄物Bの有機廃液の受入れ量を、有機廃液一時格納庫による1.2m³の受入れ量から、有機溶媒貯槽の0.096m³に変更するが、発生量の減少に伴う見直しであり、また有機廃液を処理する$\beta \cdot \gamma$ 固体処理棟Ⅲの処理能力は変わらない。</p> <p>液体廃棄物Cの削除は、発生を想定しているJMT R原子炉施設の廃止処置に伴う見直しであり、処理能力に影響を与えない。</p>

No.	廃棄物管理施設の位置、構造及び設備の基準に関する規則「事業許可基準規則」（平成二十五年原子力規制委員会規則第三十一号）	該当する変更概要	該当する建家・施設・設備	適合のための設計方針（既許可）	設計方針の変更有無	適合するための対策（事業許可基準規則との適合）	
28	第13条（処理施設）	二 処理に伴い生じた放射性廃棄物を排出する場合は、周辺監視区域の外の空气中及び周辺監視区域の境界における水中の放射性物質の濃度を十分に低減できるよう、廃棄施設に接続する排気口の設置その他の必要な措置を講ずるものとする。	② 有機廃液一時格納庫の使用の停止、 β ・ γ 固体処理棟Ⅲの有機溶媒貯槽を新たに液体廃棄物の受入れ施設に変更 ③ 廃液処理棟の化学処理装置等の使用の停止	有機廃液一時格納庫 β ・ γ 固体処理棟Ⅲの有機溶媒貯槽 廃液処理棟の化学処理装置 廃液処理棟のセメント固化装置の一部	廃棄物管理施設には、処理に伴い生じた液体状及び気体状の放射性廃棄物を排出するにあたっては、周辺監視区域の外の空气中及び周辺監視区域の境界における水中の放射性物質の濃度を十分に低減し、周辺監視区域外の平常時における廃棄物管理施設からの環境への放射性物質の放出に伴う公衆の受ける線量が、直接線及びスカイシャイン線により公衆の受ける線量と合わせて「発電用軽水型原子炉施設周辺の線量目標値に関する指針」（昭和50年5月13日原子力安全委員会決定）において定める線量目標値（ $50\mu\text{Sv}/\text{年}$ 以下）が達成できるよう、処理施設で発生する気体廃棄物は、廃棄施設を經由して排気口から放出する。同様に、液体廃棄物は、廃棄物管理施設から発生した放射性廃棄物とともに蒸発処理又は化学処理を行い、処理済廃液は希釈し、放射性物質の濃度が「線量告示」に定められている周辺監視区域外の水中の濃度限度を十分下回っていることを確認した後、排水口から放出する設計とする。	無	本条項においては、下記記載の変更があるが、変更既許可の適合のための設計方針に変更はなく、事業許可基準規則と適合している。 ②有機廃液一時格納庫の使用の停止は、施設の停止であるが、施設の除染までのプロセスを踏まえ保守的とするため、評価におけるインベントリを与えたまま既許可と変更はなく、処理施設の設計方針を変更するものではない。 有機溶媒貯槽を受入れ施設にする変更は、既設の β ・ γ 焼却装置の一部である有機溶媒貯槽を受入れ施設にするものであり、 β ・ γ 焼却装置に有機溶媒貯槽を含めたインベントリを与えていて既許可と変更はなく、これらを有する β ・ γ 固体処理棟Ⅲの処理施設の設計方針を変更するものではない。 ③化学処理装置等の使用の停止は、化学処理装置及びセメント固化装置の一部の停止であるが、施設の除染までのプロセスを踏まえ保守的とするため、評価におけるインベントリを与えたまま既許可と変更はなく、これらを有する廃液処理棟の処理施設の設計方針を変更するものではない。
29	第14条（管理施設）	廃棄物管理施設には、次に掲げるところにより、放射性廃棄物を管理する施設を設けなければならない。 一 放射性廃棄物を管理するために必要な容量を有するものとする。	○ 廃棄物保管量の見直し	-	廃棄物管理施設には、廃棄物を管理する施設として固体集積保管場Ⅰ、固体集積保管場Ⅱ、固体集積保管場Ⅲ、固体集積保管場Ⅳ、 α 固体貯蔵施設の建家及び設備を構成し、放射性廃棄物を貯蔵・管理できる能力を有することとするため、管理する放射性廃棄物の年間での増加を考慮して、5年後にあっても満杯としない設計とする。	無	本条項においては、下記記載の変更があるが、変更既許可の適合のための設計方針に変更はなく、事業許可基準規則と適合している。 ○既許可において平成26年3月現在としている保管体の保管量等に係る記載を、申請時期にあわせた最新化（令和3年10月現在）の見直しであり、既許可における容量等の設計方針に変更はない。
30	第14条（管理施設）	二 管理する放射性廃棄物の性状を考慮し、適切な方法により当該放射性廃棄物を保管するものとする。	（該当なし）	-	廃棄物管理施設には、管理する放射性廃棄物の性状を考慮し、放射性廃棄物の過積載により最下段に積載された廃棄体の損壊のおそれがないよう、廃棄物パッケージごとに、安全性が確保できる適切な定置方法により貯蔵する。 廃棄物パッケージの保管方法は最下段のパッケージが上部に積載されるパッケージから受ける荷重を積算し、廃棄体の損壊のおそれがないことを確認している。	無	本条項においては該当する変更がないため、既許可の適合のための設計方針に変更はなく、事業許可基準規則と適合している。
31	第14条（管理施設）	三 放射性廃棄物の崩壊熱及び放射線の照射により発生する熱によって過熱するおそれがあるものは、冷却のための必要な措置を講ずるものとする。	（該当なし）	-	廃棄物管理施設には、放射性廃棄物の崩壊熱及び放射線の照射により発生する熱によって過熱するおそれがあるものを受け入れることはなく、また、発火、爆発の恐れのない安全性が確認されたものを受け入れることから、冷却のための必要な措置を要しない。	無	本条項においては該当する変更がないため、既許可の適合のための設計方針に変更はなく、事業許可基準規則と適合している。

No.	廃棄物管理施設の位置、構造及び設備の基準に関する規則「事業許可基準規則」(平成二十五年原子力規制委員会規則第三十一号)	該当する変更概要	該当する建家・施設・設備	適合のための設計方針(既許可)	設計方針の変更有無	適合するための対策(事業許可基準規則との適合)	
32	第15条(計測制御系統施設)	<p>廃棄物管理施設には、必要に応じて、放射性廃棄物を限定された区域に閉じ込める機能その他の機能が確保されていることを適切に監視することができる計測制御系統施設を設けなければならない。</p>	<p>②有機廃液一時格納庫の使用の停止、β・γ固体処理棟Ⅲの有機溶媒貯槽を新たに液体廃棄物の受入れ施設に変更</p> <p>③廃液処理棟の化学処理装置等の使用の停止</p>	<p>有機廃液一時格納庫</p> <p>β・γ固体処理棟Ⅲの有機溶媒貯槽</p> <p>廃液処理棟の化学処理装置</p> <p>廃液処理棟のセメント固化装置の一部</p>	<p>廃棄物管理施設には、放射性廃棄物を限定された区域に閉じ込める機能その他の機能が確保されていることを適切に監視することができる計測制御系統施設を設ける設計とする。</p> <p>放射性廃棄物を限定された区域に閉じ込める機能を必要とする具体的な施設・設備と、それを監視することができる計測制御系統施設の関係を示す。</p> <p>加熱による装置の破損により閉じ込め機能が損なわれることを防止するため、温度に関する計測制御設備は、β・γ焼却装置、α焼却装置及び減容処理設備(焼却溶融炉、排ガス処理装置)の主要部又は流体の温度を監視及び制御、記録する設計とする。</p> <p>負圧の低下により閉じ込め機能が損なわれることを防止するため、圧力に関する計測制御設備は、β・γ焼却装置、分類セル、α焼却装置、αホール、封入セル、β・γ貯蔵セル、減容処理設備(搬出入室、前処理セル、焼却溶融セル、保守ホール及び焼却溶融炉)の負圧を監視及び制御、記録する設計とする。その他、フロッグマン設備の閉じ込め機能の維持を監視及び制御する計測制御設備は、設置されている施設の計測制御設備に包括される。</p> <p>液体廃棄物の貯蔵量の超過により閉じ込め機能が損なわれることを防止するため、液位及び漏えいに関する計測制御設備は、処理済廃液貯槽、排水監視設備、廃液貯槽Ⅰ、廃液貯槽Ⅱ、廃棄物管理施設用廃液貯槽、セメント固化装置及び固体廃棄物減容処理施設廃液貯槽の貯槽又はタンクの液位を監視及び記録する設計とする。</p> <p>また、廃棄物管理施設には、放射線から放射線業務従事者を防護するため、放射線被ばくを十分に監視及び管理するための、廃棄物管理施設の主要な箇所における線量率及び空気中の放射性物質濃度を測定、監視できる設備を設ける。</p> <p>管理区域内主要箇所の作業環境監視を行う放射線監視設備として、作業環境モニタリング設備を設ける。作業環境モニタリング設備は、線量率を監視するエリアモニタと空気中の放射性物質濃度を監視する室内空気モニタ及びローカルサンプリング装置で構成する。</p> <p>エリアモニタ(固体廃棄物減容処理施設を除く。)からの信号は管理機械棟の放射線モニタ盤に接続し、集中的に監視又は記録する設計とする。</p>	無	<p>本条項においては、下記記載の変更があるが、変更既許可の適合のための設計方針に変更はなく、事業許可基準規則と適合している。</p> <p>②有機廃液一時格納庫の使用の停止は、施設の停止であり、計測制御系統施設の設計方針を変更するものではない。</p> <p>有機溶媒貯槽を受入れ施設にする変更は、既設のβ・γ焼却装置の一部である有機溶媒貯槽を受入れ施設にするものであり、これらを有するβ・γ固体処理棟Ⅲの計測制御系統施設の設計方針を変更するものではない。</p> <p>③化学処理装置等の使用の停止は、化学処理装置及びセメント固化装置の一部の停止であり、これらを有する廃液処理棟の計測制御系統施設の設計方針を変更するものではない。</p> <p>なお、既許可においては、計測制御系統施設のうち、セメント固化装置の液位及び漏えいとして、スラッジ貯槽の液位及び堰内の漏えい検知を有しているが、セメント固化装置の使用の停止に伴い機能が不要となり、設計方針を変更するものではない。</p>

No.	廃棄物管理施設の位置、構造及び設備の基準に関する規則「事業許可基準規則」（平成二十五年原子力規制委員会規則第三十一号）	該当する変更概要	該当する建家・施設・設備	適合のための設計方針（既許可）	設計方針の変更有無	適合するための対策（事業許可基準規則との適合）
33	第15条（計測制御系統施設）	<p>2 廃棄物管理施設には、安全設計上想定される事故により当該廃棄物管理施設の安全性を損なうおそれが生じたとき、次条第二号の放射性物質の濃度若しくは線量が著しく上昇したとき又は廃棄施設から放射性廃棄物が著しく漏えいするおそれが生じたときに、これらを確実に検知して速やかに警報する設備を設けなければならない。</p> <p>②有機廃液一時格納庫の使用の停止、$\beta \cdot \gamma$ 固体処理棟Ⅲの有機溶媒貯槽を新たに液体廃棄物の受入れ施設に変更</p> <p>③廃液処理棟の化学処理装置等の使用の停止</p> <p>④移動モニタリング設備の削除</p>	<p>有機廃液一時格納庫</p> <p>$\beta \cdot \gamma$ 固体処理棟Ⅲの有機溶媒貯槽</p> <p>廃液処理棟の化学処理装置</p> <p>廃液処理棟のセメント固化装置の一部</p> <p>移動モニタリング設備の削除</p>	<p>廃棄物管理施設には、安全設計上想定される事故により当該廃棄物管理施設の安全性を損なうおそれが生じたとき、事業所及びその境界付近における放射性物質の濃度若しくは線量が著しく上昇したとき、又は廃棄施設から放射性廃棄物が著しく漏えいするおそれが生じたときに、これらを確実に検知して速やかに警報する設備を以下のよう</p> <p>に備える設計とする。</p> <p>（1）廃棄物管理施設は、処理装置の主要部の流体の温度を監視及び制御するとともに、温度が異常に上昇した場合は警報を発する機能を有する。温度に関する計測制御設備は、$\beta \cdot \gamma$ 焼却装置及びα 焼却装置の主要部の温度が異常に上昇した場合は警報を発する設計とする。また、減容処理設備（焼却溶融炉、排ガス処理装置）の主要部及び流体の温度が異常に上昇した場合は警報を発する設計とし、過熱を防止する制御を行う。</p> <p>（2）廃棄物管理施設は、負圧が異常に低下したときに、これらを確実に検知して速やかに警報を発する機能を有する。圧力に関する計測制御設備は、$\beta \cdot \gamma$ 焼却装置、分類セル、α 焼却装置、α ホール、封入セル及び$\beta \cdot \gamma$ 貯蔵セルの負圧が異常に低下した場合は警報を発する設計とする。</p> <p>また、減容処理設備のうち搬出入室、前処理セル、焼却溶融セル、焼却溶融炉の負圧が異常に低下した場合は警報を発する設計とし、負圧の異常を防止するための制御を行う。</p> <p>（3）廃棄物管理施設は、液体状の放射性廃棄物の廃棄施設から液体状の放射性物質が著しく漏えいが生じたときに、これらを確実に検知して速やかに警報を発する機能を有する。</p> <p>液位に関する計測設備は、処理済廃液貯槽、排水監視設備、廃液貯槽Ⅰ、廃液貯槽Ⅱ及び廃棄物管理施設用廃液貯槽の貯槽の液位が異常に上昇した場合及び漏えいを検知した場合は警報を発する設計とする。</p> <p>（4）廃棄物管理施設は、万一、火災（発煙又は高温）が発生した場合には、自動火災報知設備により確実に検知して速やかに警報を発する設計とする。なお、火災若しくは爆発の防止のため、可燃物の持ち込みは必要最小限とする。</p> <p>廃棄物管理施設の自動火災報知設備は、主に部屋ごとに区画を設定して検出器を設置し、建家ごとに設けた監視盤に火災警報の発報及び火災を検知した区画の表示を行う設計とする。</p> <p>また、火災を検知した場合の火災信号は、固体廃棄物減容処理施設を除く廃棄物管理施設では管理機械棟及び警備所に送信し、固体廃棄物減容処理施設では運転監視室及び警備所に送信し、それぞれ警報盤に表示する設計とする。</p>	無	<p>本条項においては、下記記載の変更があるが、変更既許可の適合のための設計方針に変更はなく、事業許可基準規則と適合している。</p> <p>②有機廃液一時格納庫の使用の停止は、施設の停止であり、計測制御系統施設の設計方針を変更するものではない。</p> <p>有機溶媒貯槽を受入れ施設にする変更は、既設の$\beta \cdot \gamma$ 焼却装置の一部である有機溶媒貯槽を受入れ施設にするものであり、これらを有する$\beta \cdot \gamma$ 固体処理棟Ⅲの計測制御系統施設の設計方針を変更するものではない。</p> <p>③化学処理装置等の使用の停止は、化学処理装置及びセメント固化装置の一部の停止であり、これらを有する廃液処理棟の計測制御系統施設の設計方針を変更するものではない。</p> <p>④移動モニタリング設備の削除は、計測制御系統施設の設計方針を変更するものではない。</p> <p>なお、既許可においては、計測制御系統施設のうち、セメント固化装置の液位及び漏えいとして、スラッジ貯槽の液位及び堰内の漏えい検知を有しているが、セメント固化装置の使用の停止に伴い機能が不要となり、設計方針を変更するものではない。</p> <p>既許可において、放射線管理施設として固定モニタリング設備を設置することで、事業所及びその境界付近における放射性物質の濃度及び線量を監視し、測定することができるとしていることから、移動モニタリング設備の削除は、放射線管理施設の設計方針を変更するものではない。</p>

No.	廃棄物管理施設の位置、構造及び設備の基準に関する規則「事業許可基準規則」（平成二十五年原子力規制委員会規則第三十一号）	該当する変更概要	該当する建家・施設・設備	適合のための設計方針（既許可）	設計方針の変更有無	適合するための対策（事業許可基準規則との適合）
34	第16条（放射線管理施設）	<p>事業所には、次に掲げるところにより、放射線管理施設を設けなければならない。</p> <p>一 放射線から放射線業務従事者を防護するため、線量を監視し、及び管理する設備を設けること。</p>	<p>有機廃液一時格納庫</p> <p>β・γ固体処理棟Ⅲの有機溶媒貯槽</p> <p>廃液処理棟の化学処理装置</p> <p>廃液処理棟のセメント固化装置の一部</p>	<p>廃棄物管理施設には、放射線から放射線業務従事者を防護するため、被ばく線量を十分に監視及び管理するための、廃棄物管理施設の主要な箇所における線量率及び空気中の放射性物質濃度を測定、監視できる設備を設ける。</p> <p>管理区域内主要箇所の作業環境監視を行う放射線監視設備として、作業環境モニタリング設備を設ける。作業環境モニタリング設備は、線量率を監視するエリアモニタと空気中の放射性物質濃度を監視する室内空気モニタ及びローカルサンプリング装置で構成する。エリアモニタ（固体廃棄物減容処理施設を除く。）からの信号は管理機械棟の放射線モニタ盤に接続し、集中的に監視又は記録するとともに、線量率があらかじめ設定された値を超えたときは、当該箇所及び管理機械棟において警報を発する設計とする。また、室内空気モニタは、空気中の放射性物質の濃度があらかじめ設定された値を超えたときは、当該箇所及び管理機械棟において警報を発する設計とする。</p> <p>放射線業務従事者の管理区域への出入り及び物品の管理区域への搬出入に対して、出入管理及び表面汚染管理ができる設計とするとともに、各個人の被ばく管理ができる設計とする。</p> <p>廃棄物管理施設の管理区域への出入りのための場所には、放射線管理に必要な各種の放射線サーベイ用機器を備える設計とする。管理区域のうち、放射性物質による汚染の可能性のある区域への出入り及び物品の搬出入は、原則として汚染検査室を通る設計とする。汚染検査室には、汚染の管理を行うため、更衣設備、シャワー設備又は手洗い設備、ハンドフットクロスモニタ又はサーベイメータを備える設計とする。放射線業務従事者及び一時立入者の線量管理のため、外部被ばくによる線量を測定する個人線量計を備える設計とする。</p>	無	<p>本条項においては、下記記載の変更があるが、変更既許可の適合のための設計方針に変更はなく、事業許可基準規則と適合している。</p> <p>②有機廃液一時格納庫の使用の停止は、施設の停止であり、放射線管理施設の設計方針を変更するものではない。</p> <p>有機溶媒貯槽を受入れ施設にする変更は、既設のβ・γ焼却装置の一部である有機溶媒貯槽を受入れ施設にするものであり、これらを有するβ・γ固体処理棟Ⅲの放射線管理施設の設計方針を変更するものではない。</p> <p>③化学処理装置等の使用の停止は、化学処理装置及びセメント固化装置の一部の停止であり、これらを有する廃液処理棟の放射線管理施設の設計方針を変更するものではない。</p>

No.	廃棄物管理施設の位置、構造及び設備の基準に関する規則「事業許可基準規則」（平成二十五年原子力規制委員会規則第三十一号）	該当する変更概要	該当する建家・施設・設備	適合のための設計方針（既許可）	設計方針の変更有無	適合するための対策（事業許可基準規則との適合）
35	第16条（放射線管理施設）	<p>二 事業所及びその境界付近における放射性物質の濃度及び線量を監視し、及び測定する設備を設けること。</p> <p>② 有機廃液一時格納庫の使用の停止、$\beta \cdot \gamma$ 固体処理棟Ⅲの有機溶媒貯槽を新たに液体廃棄物の受入れ施設に変更</p> <p>③ 廃液処理棟の化学処理装置等の使用の停止</p> <p>④ 移動モニタリング設備の削除</p>	<p>有機廃液一時格納庫</p> <p>$\beta \cdot \gamma$ 固体処理棟Ⅲの有機溶媒貯槽</p> <p>廃液処理棟の化学処理装置</p> <p>廃液処理棟のセメント固化装置の一部</p> <p>移動モニタリング設備</p>	<p>事業所には、事業所及びその境界付近における放射性物質の濃度及び線量を監視し、及び測定するため、以下の設備を設ける設計とする。平常時においては、「発電用軽水型原子炉施設における放出放射性物質の測定に関する指針」（昭和53年9月29日原子力委員会決定）を参考に、固定モニタリング設備により周辺監視区域周辺の放射線量及び放射性物質濃度及び量を監視及び測定する設計とする。</p> <p>また、事故時においては、「発電用軽水型原子炉施設における事故時の放射線計測に関する審査指針」（昭和56年7月23日原子力安全委員会決定）を参考に、固定モニタリング設備に加えて移動モニタリング設備により、廃棄物管理施設周辺、予想される放射性物質の放出経路において、放射線量及び放射性物質濃度及び量を監視及び測定する。さらに、排気モニタリング設備、エリアモニタ、室内空気モニタ及びローカルサンプリング装置並びに放射線サーベイ用機器を備えており、放射線源、放出点における放射線量及び放射性物質濃度及び量を監視及び測定する設計とする。</p>	無	<p>本条項においては、下記記載の変更があるが、変更既許可の適合のための設計方針に変更はなく、事業許可基準規則と適合している。</p> <p>②有機廃液一時格納庫の使用の停止は、施設の停止であり、放射線管理施設の設計方針を変更するものではない。</p> <p>有機溶媒貯槽を受入れ施設にする変更は、既設の$\beta \cdot \gamma$ 焼却装置の一部である有機溶媒貯槽を受入れ施設にするものであり、これらを有する$\beta \cdot \gamma$ 固体処理棟Ⅲの放射線管理施設の設計方針を変更するものではない。</p> <p>③化学処理装置等の使用の停止は、化学処理装置及びセメント固化装置の一部の停止であり、これらを有する廃液処理棟の放射線管理施設の設計方針を変更するものではない。</p> <p>④移動モニタリング設備の削除は、放射線管理施設の設計方針を変更するものではない。</p> <p>なお、既許可においては、放射線管理施設として固定モニタリング設備を設置することで、事業所及びその境界付近における放射性物質の濃度及び線量を監視し、測定することができるとしている。このことから、移動モニタリング設備の削除は、放射線管理施設の設計方針を変更するものではない。</p>
36	第16条（放射線管理施設）	<p>三 放射線から公衆及び放射線業務従事者を防護するため、必要な情報を適切な場所に表示する設備を設けること。</p> <p>② 有機廃液一時格納庫の使用の停止、$\beta \cdot \gamma$ 固体処理棟Ⅲの有機溶媒貯槽を新たに液体廃棄物の受入れ施設に変更</p> <p>③ 廃液処理棟の化学処理装置等の使用の停止</p>	<p>有機廃液一時格納庫</p> <p>$\beta \cdot \gamma$ 固体処理棟Ⅲの有機溶媒貯槽</p> <p>廃液処理棟の化学処理装置</p> <p>廃液処理棟のセメント固化装置の一部</p>	<p>廃棄物管理施設には、放射線から公衆及び放射線業務従事者を防護するため、廃棄物管理施設の各施設における管理区域の入口に、当該施設の放射線量・空気中の放射性物質の濃度及び床面の放射性物質の表面密度を表示できる設備を設けることにより、放射線業務従事者が安全に管理区域内の状況を認識できるものとする。なお、公衆に対し、固定モニタリング設備からの情報を表示できる設備を設ける。</p> <p>また、管理区域における空間線量率及び空気中の放射性物質の濃度及び床面の放射性物質の表面密度は、各施設の放射線業務従事者が閲覧できる場所にそれぞれ表示する設計とする。</p>	無	<p>本条項においては、下記記載の変更があるが、変更既許可の適合のための設計方針に変更はなく、事業許可基準規則と適合している。</p> <p>②有機廃液一時格納庫の使用の停止は、施設の停止であり、放射線管理施設の設計方針を変更するものではない。</p> <p>有機溶媒貯槽を受入れ施設にする変更は、既設の$\beta \cdot \gamma$ 焼却装置の一部である有機溶媒貯槽を受入れ施設にするものであり、これらを有する$\beta \cdot \gamma$ 固体処理棟Ⅲの放射線管理施設の設計方針を変更するものではない。</p> <p>③化学処理装置等の使用の停止は、化学処理装置及びセメント固化装置の一部の停止であり、これらを有する廃液処理棟の放射線管理施設の設計方針を変更するものではない。</p>

No.	廃棄物管理施設の位置、構造及び設備の基準に関する規則「事業許可基準規則」(平成二十五年原子力規制委員会規則第三十一号)	該当する変更概要	該当する建家・施設・設備	適合のための設計方針(既許可)	設計方針の変更有無	適合するための対策(事業許可基準規則との適合)	
37	第17条(廃棄施設)	<p>廃棄物管理施設には、周辺監視区域の外の空气中及び周辺監視区域の境界における水中の放射性物質の濃度を十分に低減できるよう、必要に応じて、当該廃棄物管理施設において発生する放射性廃棄物を処理する能力を有する廃棄施設(放射性廃棄物を保管廃棄する施設を除く。)を設けなければならない。</p>	<p>②有機廃液一時格納庫の使用の停止、$\beta \cdot \gamma$固体処理棟Ⅲの有機溶媒貯槽を新たに液体廃棄物の受入れ施設に変更</p> <p>③廃液処理棟の化学処理装置等の使用の停止</p>	<p>有機廃液一時格納庫</p> <p>$\beta \cdot \gamma$固体処理棟Ⅲの有機溶媒貯槽</p> <p>廃液処理棟の化学処理装置</p> <p>廃液処理棟のセメント固化装置の一部</p>	<p>廃棄物管理施設において発生する液体廃棄物は、周辺監視区域の境界における水中の放射性物質の濃度を十分に低減できるよう蒸発処理又は化学処理を行い、処理済廃液の放射性物質の濃度が高い場合は希釈し、放射性物質の濃度が「線量告示」に定められている周辺監視区域外の水中の濃度限度を十分下回る廃棄施設を設ける。周辺監視区域外の平常時における廃棄物管理施設からの環境への放射性物質の放出に伴う公衆の受ける線量が、直接線及びスカイシャイン線により公衆の受ける線量と合わせて $50 \mu\text{Sv}/\text{年}$ 以下が達成できるよう、排水口から放出する設計とする。</p> <p>液体廃棄物を処理又は一時貯留する廃棄施設は、廃液処理棟、$\beta \cdot \gamma$固体処理棟Ⅲ、α固体処理棟及び固体廃棄物減容処理施設の建家並びにα固体処理棟廃液予備処理装置、$\beta \cdot \gamma$固体処理棟Ⅲ廃液貯槽、廃棄物管理施設用廃液貯槽及び固体廃棄物減容処理施設廃液貯槽で構成する。</p> <p>また、水中の放射性物質の濃度を十分に低減するため、液体廃棄物の廃棄施設として、廃棄物管理施設の処理施設にて、廃液の性状に応じて処理出来る設計とする。</p> <p>気体廃棄物は、各設備に附属する建家の排気口から周辺監視区域の外の空气中の放射性物質の濃度を十分に低減できるよう排気浄化装置によりろ過し、周辺監視区域外の平常時における廃棄物管理施設からの環境への放射性物質の放出に伴う公衆の受ける線量が、直接線及びスカイシャイン線により公衆の受ける線量と合わせて $50 \mu\text{Sv}/\text{年}$ 以下が達成できるように放出する設計とする。</p>	無	<p>本条項においては、下記記載の変更があるが、変更既許可の適合のための設計方針に変更はなく、事業許可基準規則と適合している。</p> <p>②有機廃液一時格納庫の使用の停止は、施設の停止であり、廃棄施設の設計方針を変更するものではない。 有機溶媒貯槽を受入れ施設にする変更は、既設の$\beta \cdot \gamma$焼却装置の一部である有機溶媒貯槽を受入れ施設にするものであり、これらを有する$\beta \cdot \gamma$固体処理棟Ⅲの廃棄施設の設計方針を変更するものではない。</p> <p>③化学処理装置等の使用の停止は、化学処理装置及びセメント固化装置の一部の停止であり、これらを有する廃液処理棟の廃棄施設の設計方針を変更するものではない。</p>
38	第17条(廃棄施設)	<p>2 廃棄物管理施設には、十分な容量を有する放射性廃棄物を保管廃棄する施設を設けなければならない。</p>	<p>②有機廃液一時格納庫の使用の停止、$\beta \cdot \gamma$固体処理棟Ⅲの有機溶媒貯槽を新たに液体廃棄物の受入れ施設に変更</p> <p>③廃液処理棟の化学処理装置等の使用の停止</p>	<p>有機廃液一時格納庫</p> <p>$\beta \cdot \gamma$固体処理棟Ⅲの有機溶媒貯槽</p> <p>廃液処理棟の化学処理装置</p> <p>廃液処理棟のセメント固化装置の一部</p>	<p>廃棄物管理施設には、廃棄物管理施設から発生する固体廃棄物について、廃棄物管理施設の固体廃棄物の受入れ施設に引き渡すまでの間一時保管するために必要な容量を有する保管廃棄設備を、廃液処理棟、$\beta \cdot \gamma$固体処理棟Ⅰ、$\beta \cdot \gamma$固体処理棟Ⅱ、$\beta \cdot \gamma$固体処理棟Ⅲ、$\beta \cdot \gamma$固体処理棟Ⅳ、α固体処理棟、廃液貯留施設Ⅰ、有機廃液一時格納庫、$\beta \cdot \gamma$一時格納庫Ⅰ、α一時格納庫、管理機械棟に設ける設計とする。</p> <p>保管廃棄設備は、金属製の保管容器で、廃棄物発生に伴い一時保管し、受入れ施設に引き渡すまでの間保管するために必要な容量を有する設計とする。</p> <p>なお、廃棄物管理施設には、規則に規定される廃気槽、廃液槽及び保管廃棄施設に該当する設備はないが、一時保管するための保管廃棄設備はある。</p>	無	<p>本条項においては、下記記載の変更があるが、変更既許可の適合のための設計方針に変更はなく、事業許可基準規則と適合している。</p> <p>②有機廃液一時格納庫の使用の停止は、施設の停止であり、廃棄施設の設計方針を変更するものではない。 有機溶媒貯槽を受入れ施設にする変更は、既設の$\beta \cdot \gamma$焼却装置の一部である有機溶媒貯槽を受入れ施設にするものであり、これらを有する$\beta \cdot \gamma$固体処理棟Ⅲの廃棄施設の設計方針を変更するものではない。</p> <p>③化学処理装置等の使用の停止は、化学処理装置及びセメント固化装置の一部の停止であり、これらを有する廃液処理棟の廃棄施設の設計方針を変更するものではない。</p>

No.	廃棄物管理施設の位置、構造及び設備の基準に関する規則「事業許可基準規則」（平成二十五年原子力規制委員会規則第三十一号）	該当する変更概要	該当する建家・施設・設備	適合のための設計方針（既許可）	設計方針の変更有無	適合するための対策（事業許可基準規則との適合）	
39	第18条（予備電源）	廃棄物管理施設には、外部電源系統からの電気の供給が停止した場合において、監視設備その他必要な設備に使用することができる予備電源を設けなければならない。	②有機廃液一時格納庫の使用の停止、 β ・ γ 固体処理棟Ⅲの有機溶媒貯槽を新たに液体廃棄物の受入れ施設に変更 ③廃液処理棟の化学処理装置等の使用の停止	有機廃液一時格納庫 β ・ γ 固体処理棟Ⅲの有機溶媒貯槽 廃液処理棟の化学処理装置 廃液処理棟のセメント固化装置の一部	廃棄物管理施設は、次のとおり、外部電源喪失時においても、監視設備その他必要な設備に電気を供給する予備電源を設ける。具体的な外部電源の喪失時に給電が必要な設備・機器は以下のとおりである。 閉じ込め機能を監視する設備としては、非密封の固体廃棄物を取り扱う区域で、内部の圧力に変動の可能性がある設備あるいは負圧を維持し負圧の監視が必要な設備、液体廃棄物を取り扱う区域で、液位計による液位を監視する設備及び漏えい検知器で漏洩を監視する設備を設ける。 放射線監視設備としては、エリアモニタによる線量率を測定、監視、警報発報する設備及び負圧を維持する排気設備の排気モニタリング設備の排気濃度測定、監視、警報発報する設備を設ける。 警報設備としては、液体廃棄物の液位異常上昇又は漏えいの警報を検知・発報する設備、圧力に関する警報を検知・発報する設備のうち停電時に変動する可能性のあるものである。 通信連絡設備としては、放送設備及びページング設備である。非常照明等の設備・機器としては、安全避難通路に外部電源喪失時においても機能する避難用の照明を設ける。	無	本条項においては、下記記載の変更があるが、変更既許可の適合のための設計方針に変更はなく、事業許可基準規則と適合している。 ②有機廃液一時格納庫の使用の停止は、施設の停止であり、予備電源の設計方針を変更するものではない。 有機溶媒貯槽を受入れ施設にする変更は、既設の β ・ γ 焼却装置の一部である有機溶媒貯槽を受入れ施設にするものであり、これらを有する β ・ γ 固体処理棟Ⅲの予備電源の設計方針を変更するものではない。 ③化学処理装置等の使用の停止は、化学処理装置及びセメント固化装置の一部の停止であり、これらを有する廃液処理棟の予備電源の設計方針を変更するものではない。
40	第19条（通信連絡設備等）	事業所には、安全設計上想定される事故が発生した場合において事業所内の人に対し必要な指示ができるよう、警報装置及び通信連絡設備を設けなければならない。	○構内一斉放送設備の明記	-	固体廃棄物減容処理施設を除く廃棄物管理施設には、安全設計上想定される事故が発生した場合において、事業所内の人に対し必要な指示ができるよう、警報装置及び管理機械棟から固体廃棄物減容処理施設を除く施設内各所に通報するための通信連絡設備として、放送設備及び施設内各所間で相互に連絡を行うためのページング設備を設ける。また、固体廃棄物減容処理施設には、事故が発生した場合において、事業所内の人に対し必要な指示ができるよう、警報装置及び建家内各所に通報するための通信連絡設備として、放送設備及び相互に連絡を行うためのページング設備を設ける設計とする。これら放送設備及びページング設備には、外部電源喪失時においても確実に通信連絡できるよう予備電源から電気が供給できるものとする。	無	本条項においては、下記記載の変更があるが、変更既許可の適合のための設計方針に変更はなく、事業許可基準規則と適合している。 ○構内一斉放送設備に係る記載の明確化は、既許可の通信連絡設備等の設計方針を変更するものではない。
41	第19条（通信連絡設備等）	2 事業所には、安全設計上想定される事故が発生した場合において事業所外の通信連絡をする必要がある場所と通信連絡ができるよう、通信連絡設備を設けなければならない。	⑤固体廃棄物減容処理施設外への通信連絡設備の明確化	固体廃棄物減容処理施設 管理機械棟	安全設計上想定される事故が発生した場合において事業所外の通信連絡をする必要がある場所と通信連絡ができるよう、外線電話及び外線FAXの交換機を経由する回線及びメタル回線、携帯電話（災害時優先電話）及び衛星携帯電話の多様な方法による通信連絡ができる設計としており、外部電源喪失時においても事業所の外部と確実に通報連絡ができるものとする。	無	本条項においては、下記記載の変更があるが、変更既許可の適合のための設計方針に変更はなく、事業許可基準規則と適合している。 ⑤固体廃棄物減容処理施設用の通信連絡設備の記載の明確化は、既許可の通信連絡設備等の設計方針を変更するものではない。
42	第19条（通信連絡設備等）	3 廃棄物管理施設には、事業所内の人退避のための設備を設けなければならない。	（該当なし）	-	廃棄物管理施設は、事業所内の人退避のための設備として、外部電源喪失時においても、予備電源又は内蔵した電源で機能する避難用の照明を設備し、単純、明確かつ永続的な標識を付けた安全避難通路を予備電源から設ける設計とする。	無	本条項においては該当する変更がないため、既許可の適合のための設計方針に変更はなく、事業許可基準規則と適合している。